2024年度シラバス

科目名:OK41S0009　教育制度	担当者:金子 晃之	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
学校教育制度の問題を理解する為、参考資料と授業ノートをムードルにて配布し、Teamsを用いて画面に資料提示をしながらライブ配信して講義を行う。授業後に、受講者が授業ノートに課題となる作業を行いムードルへ提出する（全３回）。　ムードルにて学期末試験を行う。

授業の到達目標
この授業の目標は、①現代の学校教育に関する制度的な事項について、基礎的な知識を身に付け、そこにある課題を理解すること、②幼児教育の制度的問題について理解すること、③学校安全に関する基礎的知識を身に付けることにある。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
①次回までに与えられた課題については学習しておくこと（事前学修30分）。②当日の授業内容を振り返る授業ノートを提出する（事後学修90分）。

評価方法
授業終了後に毎回ごとに提出する授業ノートを合計して100点満点で評価する。

教科書	参考図書
毎回、資料と授業ノートをムードルにて配布する。	「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
桜花アドレスを用いて、授業前にメールで詳細を指示します。オフィスアワーは木曜日昼休み。
t-kaneko@ohkagakuen-u.ac.jp

01	幼児教育と教育制度①無償化
02	幼児教育と教育制度②幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
03	幼児教育と教育制度③幼児教育の学校化の問題
04	幼児教育と教育制度④幼児教育の専門性
05	教育制度改革①初等教育
06	教育制度改革②前期中等教育
07	教育制度改革③後期中等教育
08	教育制度改革④制度改革の課題
09	教育制度の原理と理念①教育基本法、改正教育基本法、教育振興基本計画
10	教育制度の原理と理念②学校教育法及び学校教育法施行規則
11	教育制度の原理と理念③地方教育行政の組織及び運営に関する法律
12	教育制度の原理と理念④学校保健と学校安全
13	教育制度の原理と理念⑤学習と権利
14	幼児教育を支える制度①児童館
15	幼児教育を支える制度②社会教育施設
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK42S0013　教育心理学	担当者:森山 雅子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本科幼稚園を含む学校教育でのさまざまな教育活動を心理学的な視点からみつめ、そのしくみを学び、教育活動の効果を一層高め、教育実践上の課題を解決することをめざす。教育現場でよく出会う事例等を挙げながら実践的に考え、体験的な学修等も取り入れて、教育心理学の基礎的理論と実践的な知識・技能を学修する。グループディスカッションを毎回実施する。

授業の到達目標
１．乳幼児期から児童期の子どもの特性や学習理論等について理解している（DP）。
２．子どもの主体的学習を支える学習指導と生活指導および教育評価等について理解している（DP）。
３．教育心理学の基礎的理論を実際の教育活動と結びつけて理解し、実践に活かすことができる

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Moodleを通して、事後学習の課題を課します。

事後学修では、各回の授業を学んだうえで、ミニレポート課題を課します。授業を振り返りまとめ自分なりに調べることで、さらに学びを深めていくことを期待します。

評価方法
準備学習および事後学習の課題及びミニレポート70%　確認テスト30%
レポート等課題のフィードバックについては、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案等の紹介する。

教科書	参考図書
森田健宏　2018　教育心理学　ミネルヴァ書房	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業時間内に連絡手段についてはお知らせします。

01	教育心理学とは何か（定義、課題）
02	心身の発達①発達の基礎的な理論と乳幼児期の発達
03	心身の発達②児童期
04	心身の発達③青年期以降
05	学びのメカニズム①学習と知識獲得
06	学びのメカニズム②認知的情報処理と記憶
07	学びのメカニズム③動機づけと学習
08	教育心理学と教育実践①認知発達と学習支援
09	教育心理学と教育実践②学級集団と学習支援
10	教育心理学と教育実践③個性や個人差と学習支援
11	教育心理学と教育実践④教育評価
12	特別な支援と教育心理学①障害の基本的理解と学校教育における配慮
13	特別な支援と教育心理学②困難さを抱える子どもへの教育的支援
14	子どもの情緒・適応の理解と心理的支援
15	まとめと確認テスト
16	

科目名:OK42S0015　保育カリキュラム論	担当者:上村 晶	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
本科目は、幼児教育及び保育現場における教育課程や、教育・保育の内容に関する全体的な計画の意義を理解した上で、園の指導計画と実践の系統性・往還性を認識しながら、指導計画と評価の在り方について理解を深める。また、学生自身が幼児教育・保育のグランドデザインを編成する中で、カリキュラム・マネジメントについて理解を深める。特に、幼稚園教諭の立場から、実践現場に根差した様々な指導計画の在り方を深く考えることを基軸に、11-12月の教育実習Ⅱに向けた実践的学びの往還を踏まえながら、授業を展開する。【AL】

授業の到達目標
①幼児教育・保育カリキュラムの意義、教育課程及び教育・保育に関する全体的な計画の編成や指導計画の役割や機能について理解する（KDP1）。
②子どもの発達過程を踏まえた教育課程や指導計画の意義、作成方法について理解する（KDP2）。
③さまざまな教育・保育の実際と内容、記録の在り方・評価の意義と方法を踏まえ、カリキュラム・マネジメントやカリキュラム評価の基本的な考え方を理解する（KDP1）。

【到達目標と深く関連する学科DP】◎KDP1：幅広い視野と知識と教養　○KDP2：保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業で、課題（テキスト予習及び次回のテーマ）を発表します。次回の授業までに、事前に教科書を熟読するなどして、テーマについて自身の考えを明確にして授業に臨んでください。また、理想園課題に関しては、授業での学びを生かしながら作成し、発表・提出に備えてください。

評価方法
最終筆記試験（45%）、私の理想園（指導計画）ファイル及びプレゼンテーション（25%）、授業への取組（各回FB：30%）で総合評価を行う。
フィードバックの方法：各回のFB等における質問に関しては、次回授業時の冒頭で口頭回答する。また、理想園に関しては第15回授業時に総評すると同時に、最終試験に関しては成績開示後に総合結果と特に留意すべき事項等を解説する。

教科書	参考図書
「保育カリキュラム論　－計画と評価－」（2018）豊田和子・新井美保子編著　建帛社	平成29年告示版 幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
指導計画の作成は保育現場で必要な力量の1つです。どのような幼児教育や保育をデザインしていきたいかなど、常に課題意識を持ちながら授業に臨んでください（OH等は初回に開示します）。

01	オリエンテーション、幼児教育・保育の基本とカリキュラムーカリキュラムの考え方と展望
02	幼児教育・保育の実践とカリキュラムの関係－社会に開かれた教育課程・全体的な計画の意義
03	保育所保育指針における全体的な計画と指導計画の基礎理解
04	幼稚園教育要領における教育課程及び全体的な計画と指導計画の基礎理解
05	幼保連携型認定こども園教育・保育要領における全体的な計画と指導計画の基礎理解
06	子どもの発達理解の長期及び短期指導計画のデザインと実践展開（１）ー乳児・3歳未満児
07	子どもの発達理解の長期及び短期指導計画のデザインと実践展開（２）ー幼児・3歳以上児
08	多様な保育・幼児教育の「指導計画」のデザイン（１）ー預かり保育・長時間保育等
09	多様な保育・幼児教育の「指導計画」のデザイン（２）ー保幼小接続カリキュラム
10	保育のカリキュラム・マネジメント　－PDCA サイクル、記録・反省・評価の意義
11	指導計画のデザインと実践展開　－長期指導計画と短期指導計画の系統性と往還性
12	私の理想園作成（１）－教育及び保育に関する理念・方針・目指す子ども像
13	私の理想園作成（２）－教育課程・全体的な計画、教育・保育の内容に関する全体的な計画
14	私の理想園発表（１）－グループプレゼンテーションと質疑応答
15	私の理想園発表（２）－全体プレゼンテーションとカリキュラムの評価
16	定期試験

科目名:OK411S011　児童文化	担当者:太田 昌孝、田端 智美、石山 英明	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
児童文化を学び、保育に活用できる言葉・技術等に関する知識や技術を学ぶ。
宮沢賢治という人物の生涯や思考に触れ、作品理解について学ぶ。
宮座賢治作品の保育現場での有効性について学ぶ。

授業の到達目標
１）子どもの発達と絵本、紙芝居、パネルシアター、紙皿シアター、言葉あそび等に関する知識と技術（２）子どもが児童文化に親しむ保育環境（３）子どもの経験や様々な表現活動と児童文化を結びつける遊びの展開についての知識と技術を習得する。（DP）そして、様々な児童文化教材の特性を理解し、実際に教材作りを行い、子どもの遊びやイメージを豊かにし感性を養う環境構成や保育の展開方法を学ぶ（DP）ことを目的とする。宮沢賢治の生涯と作品について学び、賢治についての理解を深める。賢治童話に触れ、錬磨された言語の世界を習得する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
グループ別にてプレゼンテーションを行う準備（２h)
シアターについての資料収集や製作(2h)
絵本の特性・理解し学んだことを踏まえた選書(1h)
宮沢賢治童話の味読（1h)

評価方法
授業への参加態度40％　数回のミニレポート・製作物提出40％　シアター等の発表(グループワーク）10％
　確認テスト10％
　（製作物　授業内で製作するもの　パネルシアター、紙皿シアター等)

フィードバックについて
個人ー提出時に行う。
全体ー授業時に行う。

教科書
使用しない

参考図書
子どもがおしえてくれましたほんとうの本のおもしろさ・『宮沢賢治語彙辞典』・『兄のトランク』
保育所保育指針　幼稚園教育要領　幼保連携型認定こども園教育・ 保育要領
1年中作れる！　0から5歳児の製作・造形あそび
センス・オブ・ワンダー

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
●児童文化を学びながらより実践に近い製作・実技・演習・グループでの発表があります。積極的に学ぶことを求めます。
●パネルシアター／紙皿シアターの教材を実際に製作します。製作材料については丸善等にて販売しております。授業時に詳細をお知らせします。
●連絡方法
Moodleまたはメール

01	宮沢賢治について学ぶ①（賢治の生涯について①時系列に従いながら習得する）
02	宮沢賢治について学ぶ②（賢治の生涯について②時系列に従いながら習得する）
03	宮沢賢治について学ぶ③（鑑賞『どんぐりと山猫』をテキストに賢治童話の基礎を習得する）
04	宮沢賢治について学ぶ④（鑑賞『茨海小学校』をテキストに賢治童話の魅力を習得する）
05	宮沢賢治について学ぶ⑤（鑑賞『雪わたり』をテキストに賢治童話の風土性を習得する）
06	宮沢賢治について学ぶ⑥（鑑賞①『セロ弾きのゴーシュ』をテキストに賢治童話の背景を知る）
07	宮沢賢治について学ぶ⑦（鑑賞②『セロ弾きのゴーシュ』をテキストに賢治童話の背景を知る）
08	絵本を使っての保育展開を学ぶ（演習）指定された絵本等の準備を行う。
09	様々なシアターを使って保育展開を学ぶ
10	紙皿シアター等製作　（紙皿シアター等の特性の理解）
11	紙皿シアター等製作　（製作方法の理解と実践）
12	紙皿シアター等製作　（教材作り／テキストの作り方の理解と実践）
13	紙皿シアター等を使っての保育の展開を学ぶ（演習）
14	乳幼児保育に生かせる言葉遊び（製作・演習）
15	学習の総まとめ（授業と確認テスト）
16	定期試験なし

科目名:OK41S0023　乳児保育Ⅱ	担当者:ダーリンプル 規子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
乳児保育は、現在の保育において、最も注目され期待されている保育です。それは、①乳児の待機児童が多いこと、②児童虐待・子育て不安など子育てに悩む保護者が多いこと、③家庭環境の変化などで、乳児期からスマホなどに親しむことで、本来の心身の発達の土台作りが危うくなっていることです。その現状からくる乳児保育への期待に応ずる保育者の資質や技量を高めるため、乳児保育Ⅰを土台としてステップアップを求めます。そのため演習形式にて、学びを深めたいと思います。

授業の到達目標
１．乳児保育Ⅰを振り返りながら、再度乳児保育の現代的課題を深め、さらに必要な知識・技術を習得する(DP2)
２．乳児保育の実践力を身に着ける(DP1)

【到達目標と深く関連する学科DP】DP1：幅広い視野と知識と教養　DP2：保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
乳幼児の発達理解を深めるため、ボランティアなどで、乳幼児に接する機会を積極的に作る。
また、乳幼児を育てている保護者にも積極的にアプローチする。乳児に必要な遊びや玩具にも興味を持つ

評価方法
ルーブリックの視点から、授業への参加態度（10%）・レポート（20%）・提出物（20%）・最終レポート（50%）で総合的に評価する。課題のフィードバックは、個々にコメントを書くとともに、必要に応じて全体へも伝える。

教科書	参考図書
「改訂5版　資料で分かる乳児の保育新時代」乳児保育研究会編　ひとなる書房	保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問等ある場合は、授業前後・オフィスアワーを使うか、私の部屋まで来てください。

01	オリエンテーション・乳児保育Ⅰの振り返り
02	日本の乳児保育とオーストラリアの乳児保育
03	0歳から2歳児の絵本・玩具
04	0歳から2歳児の玩具を制作（グループ制作）①計画・制作
05	0歳から2歳児の玩具を制作（グループ制作）②制作
06	さくらんぼ子育て支援センターでの実践
07	保育実習を経て実践例から見る援助の実際をグループ討議
08	まとめ　レポート提出
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OK41S0025　子育て支援	担当者:森山 雅子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
保育者として必要となる子育て支援に関して、事例に基づいて、その知識やさまざまな技術について知り、学びを深める。
授業については、毎回、事例を検討し、グループディスカッション（7回）を通して、講義の内容を深めていく。

授業の到達目標
１．子育て支援にかかわる専門的知識・技術を習得することができる（DP）。
２．子育て支援の実践を意識した保護者や子どもの理解を深めることができる（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育のあり方について考察する力
〇多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学習として、事例を事前に読み込んでおく。
事後学習として、毎回レポートを課し、Moodleにて提出を求める。レポートに取り組み復習すること。

評価方法
毎回のレポート・ワークシートの取り組み（70点）、まとめレポート（30点）
レポート等課題のフィードバックについては、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案等の紹介する。

教科書	参考図書
二宮祐子（2018）　子育て支援ー15のストーリーで学ぶワークブックー	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）　フレーベル館

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
子育て支援については、保護者とのかかわりが中心となります。が学生のうちにそれらが経験されることはほとんどありません。実習を通し、保育者が実際にどのようにかかわっているかよく観察しましょう。
オフィスアワーや連絡先は授業で開示します。

01	イントロダクション・子育て支援とは
02	子育て支援の意義
03	子育て支援の基本的価値・倫理
04	子育て支援の基本姿勢
05	子育て支援の基本的技術
06	園内・園外との連携と社会資源
07	記録・評価・研修
08	まとめ
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OK42S0024　教育相談	担当者:森山 雅子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
保育者に子育て支援の役割が期待されるなかで、相談援助の考え方やカウンセリング・マインドをふまえた対応が求められています。本授業では、子どもの発達理解、保護者の教育相談の理解、カウンセリングの基礎的な知識を解説します。保育現場等での事例に基づきグループワーク(3回) を通して保育・教育相談を実践的に学ぶことをめざします。カウンセリングの基礎的な態度をロールプレイ (2回) を用いて身に着けます。

授業の到達目標
1. 教育相談の知識と態度を理解し、自己理解・他者理解を深めることを通して、教育相談を実践するために必要な人間関係形成力やコミュニケーション力をつける (DP) 。2. 幼児教育の現場での幼児の理解を深め、幼児そしてその保護者を支援する具体的な方法としてのカウンセリングの基礎的な知識・技術を習得する (DP)。
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎国際社会で活躍するために必要な幅広い視野と知識と教養
○各国の保育の比較を通して身につく、自らのより望ましい保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業に関するレポートを毎回課します。授業後にそのレポートをまとめ提出してください。
さまざまな事例をとりあげるため実習等での経験を重ねて振り返ってください。
対人関係トレーニングやカウンセリング技法を学んだ際は、日常生活での対人関係の中でそのスキルや技法を試みるようにしましょう。

評価方法
授業中のレポート (40%)　課題についての提出物 (10%)　まとめレポート (50%)
レポートのフィードバックについては、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案等の紹介する。

教科書	参考図書
指定しない	「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育現場において保護者や保育者同士のコミュニケーションの基礎となる実践的な科目です。自分自身の態度を振り返ることにもなると思いますが、その都度苦しくなった場合は相談に乗りますので遠慮なく声をかけてください。
連絡方法・オフィスアワーは授業で開示します。

01	保育現場における相談ニーズとカウンセリングマインド
02	基礎的対人関係のトレーニング
03	保育場面でのカウンセリング技法の活用
04	子どもの発達理解と相談・支援
05	保護者への対応ー子育て支援の観点から
06	発達障害や気になる子どもとその保護者への対応
07	コンサルテーションやカンファレンスの理解
08	まとめ
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:0K41S1101　ことばのメカニズム	担当者:内田 政一	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業では、言語習得のメカニズムについて、第一言語習得と第二言語習得の観点から、とりわけ「英語」という言語に焦点を絞り、幅広く考えていく。現在の第一言語習得の立場から、第二言語習得の考え方を提示し、様々な角度から比較検討する。加えて、第二言語習得のメカニズムから利用できる外国語学習のプロセスについて、議論をすることで、言語習得全体の考え方を理解する。

授業の到達目標
1)言語習得に関して、第一言語、第二言語の観点から、現在の考え方を学ぶ　2）内省的な研究手法について理解する　3）外国語学習のメカニズムを学習者の視点から考えることで、外国語学習の最適な手法について考える

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養◎グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
毎回の授業において学習した内容は、復習し、自律的な学習に繋がるようにしてください。また自分自身の外国語学習を考え、その手法を検討してください。

評価方法
各学習項目における積極的な学び・態度20%　毎回のフィードバックシート30% まとめテスト50%

教科書	参考図書
『英語学習のメカニズム』　廣森友人　著　大修館	授業内で、適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
積極的な参加を期待する。連絡手段は授業内にてアナウンスする。

01	ガイダンス・人がことばを習得するということについて
02	第一言語習得の概要：チョムスキーの言語習得理論とトマセロの言語習得理論
03	コミュニケーションとは何か：言語教育の観点から考える
04	第二言語習得とは何か：第二言語習得研究の魅力
05	グローバル社会の英語教育：英語を取り巻く世界の現状
06	第二言語習得のプロセス：日本人は英語ができないのか
07	言語習得の第一歩：インプット　必要なインプットの「質」「量」「その効果的な方法」
08	言語知識の自動化：アウトプット　必要なアウトプット「質」「量」「その効果的な方法」
09	言語学習をサポートする原動力：動機付け　英語を学ぶ動機付けの中身
10	自律的な言語学習のために(1)：学習方略　学習とは何か　メタ認知とは何か
11	自律的な言語学習のために(2)：英語学習にはどのような方法があるか
12	個性に合った学びのあり方：学習スタイル　内向性と外向性
13	英語学習は早くから始めるべきか：臨界期仮説と児童英語教育
14	自分の英語学習に活かせること：自分の外国語学習を振り返利、検討する
15	まとめ・確認テスト
16	なし

科目名:OK41S1304　国際教養総論	担当者:髙橋 一郎、田端 智美、石山 英明	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
留学で得た幅広い知識と視野、そして言語力アップにともなう対外的発言力の向上を基本として、各学生１回の授業内発表を行う。学生は社会時事全般及び国際情勢から日常の事象まで自由にトピックを選ぶことができ、それを元に討論、意見交換、提議などが行われ、その内容や進め方は発表する学生がコントロール(司会)することにする。

授業の到達目標
学生はこの授業を通して、社会に対する自らの興味を確認するとともにその興味を自らの言葉でクラス内で発表することを通して自らの発信力を確立できるものとするのを到達目標とします。学生各自が自らの選択でトピックを決めて発表し、授業の展開をコントロールすることを通して、留学で得た対外的な発言力を確認することをもって留学の事後指導的位置づけの科目とするものである。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
○課題を見出し解決する力と論理的思考力
◎多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日々、ニュース(ネット、新聞）に目を通し社会時事にアンテナを張り巡らす。毎週の授業始めに時事情報交換の場で発言できるようにニュースに目を向ける

評価方法
ディスカッションへの参加姿勢70%　毎回のレポート30%
課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。

教科書 なし	参考図書 なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
積極的な発言（意見、提案）が求められるこの授業において、学生の活発な議論を期待しています。また自由な発想でテーマを選んで

01	全体授業　授業概要　授業の進め方　以下は2022/20233発表トピック例の一部
02	きょうだいについて
03	男性脳と女性脳
04	EMOJI
05	聴覚障害と手話
06	カエル化現象
07	令和の出会い～マッチングアプリ
08	世界の卒業式
09	ぬいぐるみの歴史
10	日本の自殺問題
11	お金のお話し
12	世界の年末年始
13	公共性と倫理
14	キラキラネーム
15	園バス置き去り問題を考える
16	まとめ

2024年度シラバス

科目名:OK42S2005　教育実習Ⅱ	担当者:寺田 恭子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	実習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
現在までの学びや体験を活かして、応用的に課題を持ちながら幼児と関わる中で、幼稚園教育の実際を学ぶ。また、教師としての職業倫理などの理解を深め知識・技術・態度の実践的な履修を目指す。同様に、修得した理論を実践することを通して、応用的に教師としての専門性や資質を理解して保育観・教育観を培う。
主に参加実習、指導実習を行う。

授業の到達目標
①幼稚園の役割や機能について実際に即して理解する。　②幼児の実際の姿や活動を通して理解を深める　③観察、参加、指導実習を通して、幼稚園の教育・保育の実際について体験的に学ぶ④幼稚園教諭の職務内容について実際に即して学ぶ⑤地域の幼児教育センターとしての幼稚園の役割について実際に即して学ぶことを通して、幼稚園と家庭・地域等との関係について学ぶ。⑥特別支援教育について理解を深める⑦幼小の連携について理解を深める　⑧幼児の教育・保育に関する自らの問題意識や課題意識を実際に即して検証し深める。（DP）
（
【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・多様性を受け入れる能力（DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
実習の実施に先立って、教育実習1で学んだことをよく確認すること
・事前訪問時に実習園から頂いた指導をよく確認して、実習の事前準備をすること

評価方法
実習園からの評価６０％・実習日誌２０％・事後レポート１０％・その他（実習の意欲・実習状況・巡回指導報告書など）１０％を総合して評価する。フィードバックについて授業シートを記入

教科書	参考図書
教育実習Ｉハンドブック	幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本実習を行うにあたり「教育実習指導Ⅱ」を履修すること　・実習中の遅刻早退欠席は事前にその旨を申し出、許可を取ること　合計実習時間数が80時間を満たない場合は、延長実習を行うこと
連絡先　tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01	Ⅰ.幼稚園における80時間(計10日間)の実習を通して観察・参加・指導実習(部分・全体)を体験する。 2.観察・参加を通しては、幼稚園での子どもの姿、幼稚園教諭の教育や園務の実際、家庭や地域との関係、施設・設備・環境構成等、幼稚園教育のあり方について、体験を通した理解を課題とする。 3.参加・指導実習(部分・全体)を通しては、子どもの発達の姿、教育の実際、幼稚園教諭の職務と実際、幼稚園の役割や機能、家庭や地域との関係等を踏まえ、子どもの援助・指導案の立案・教育実践の展開・実践の評価など、体験を通して応用的に学ぶ。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OK41S2004　教育実習指導Ⅱ	担当者:寺田 恭子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
教育実習Ⅱのための事前事後指導としての本授業では、実習のあり方、指導案の作成、実習への心構えを学び、実習後の振り返り、自己課題を明らかにし、大学生活における教育実習（幼稚園）の総まとめを行う。

授業の到達目標
①幼稚園教育実習の意義や目標を理解する。　②実習への心構えを学び、実践に必要な準備に自ら取り組む。　③観察実習・参加実習・責任実習の内容について理解し、準備・実践・振り返りに意欲的に取り組み。　④実習終了後、実習への取り組みを振り返り、自己課題を把握し、今後の就職に生かしていく。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・多様性を受け入れる能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業内で詳細を提示
２年次の実習を踏まえて、本実習ではさらに何を学びたいのか自己課題を明確にもてるよう自ら進んで事前学習をすること。

評価方法
事前課題（ワークシート・指導案等）５０％、事後課題（事後課題発表等）５０％、授業への意欲１０％を総合的に評価する。フィードバックについて授業シートを記入

教科書	参考図書
教育実習Ⅱハンドブック	幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
公欠以外の理由で事後指導を欠席した学生は、実習を実施することができなくなります。授業を欠席する場合はその前後に必ず、教務課と授業担当教員に直接連絡をしてください。課題があります。連絡先tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01	教育実習Ⅱの課題と事前事後指導の計画の理解
02	幼稚園における教育・保育の理解（応用）
03	３・４・５歳児の発達過程における理解（応用）
04	教育実習における指導案の書き方（応用）
05	指導案の作成と発表
06	事前訪問のための学内指導・実習直前指導（教師としての心構え）
07	教育実習事後指導１（学びの振り返り・総まとめ）
08	教育実習事後指導２（自己課題の明確化・総まとめ）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OK42S2006　教職実践演習（幼）	担当者:田端 智美、森山 雅子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
教職に関する学修の集大成としての実践的授業である。履修カルテで教職課程の履修を振り返り、講師の講話を聞き、指導力や実践的な課題を学ぶ。それらを通じて自己課題を明らかにしていく。2名の教員で連携・協力して行う。またおおよその講義を2クラスに分けて行う。

授業の到達目標
本学科が目標とする教職課程教員像の到達すべき目標から自分を常に振り返る。
①教員の使命や責任を自覚し、自主的・積極的に自己課題を立て、学び続ける姿勢を養う。（DP）
②他の教員との協力や保護者・地域住民との連携性を理解し、対人関係を養う。
③子どもの発達状況に応じた適切な指導を行うことができる学級経営の基礎を習得する。
④幼稚園指導要領に対応した教育・保育の的確な指導力・実践的なマネージメント力を身につける。
教員としての責任や姿勢、必要な資質能力が形成されたかについて最終的に判断する授業である。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・多様な文化を受け入れる能力（DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業外に行うべき課題（授業時に発表し討論する課題）を複数課すので、それを丁寧に考察して行うこと。

評価方法
提出課題（発表シート、講義ノート等）が70点、参加態度・発表態度が30点で、合計100点満点で評価する。欠席回については、欠席課題を課す。その詳細については初回に指示する。フィードバックについて授業シートを記入

教科書	参考図書
特に設定しない。毎回、ムードルを経由して資料と課題を配布する。	授業の中で指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ムードルを経由して課題や資料等を配布し、ムードルを経由して提出する。毎回、ＰＣを持参すること。教員としての責任や姿勢、必要な資質能力が形成されたかについて最終的に確認する授業である。連絡先tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01	今日の教員養成の課題と教職実践演習の目的について
02	「教職履修カルテ　振り返りシート」発表　今までの履修について話し合い
03	「教職履修カルテ　振り返りシート」発表　今後の履修について話し合い
04	外部講師講義①幼稚園教諭について(表現等・グループに分かれ事例研究を行う・講義ノート作成・提出)
05	外部講師講義②幼稚園教諭について(多文化共生等・グループに分かれ事例研究を行う・講義ノート作成・提出)
06	外部講師講義③幼稚園教諭について(幼小連携等・グループに分かれ事例研究を行う・講義ノート作成・提出)
07	幼稚園教諭の使命・責任について
08	幼稚園教諭の社会性について
09	幼稚園教諭としての子ども理解について
10	教育・保育内容の指導力の補足①(ロールプレーイング)
11	教育・保育内容の指導力の補足②(まとめ)
12	教育・保育内容の事例研究
13	指導案の作成と模擬保育
14	自分が目指したい教員像
15	教職履修カルテの最終発表・教育実践演習の振り返り
16	

科目名:OK41S2109　保育実践演習	担当者:木村 達志、ダーリンプル 規子、石山 英明	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 保育に関わる専門的学修を振り返り、保育士として必要な資質・知識・技能を修得したことを確認する。それにより、自らのより望ましい保育のあり方について考察する力が身についたことを確認する(DP)。そして、子どもや保護者に対する援助の技術・方法等について課題を掲げてグループ討議やプレゼンテーションによる主体的な学修を行う(DP)。保育の課題を見出し、問題解決能力を身につけ論理的に思考し、保育実践への理解を深めていく(DP)。
授業の到達目標 ① 保育士として必要な専門的な知識及び技術、幅広く深い教養及 び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか について自らの学びを振り返り把握する。②保育実習等を通した自らの体験や収集した情報に基づき、保育 に関する現代的課題を分析し、保育士や保育現場、地域社会に求め られることは何かを多様な視点から考察する力を習得する。 ③自己の課題を明確にし、保育実践に必要となる基礎的資質・能力を定着させる。 【到達目標と深く関連する学科DP】 ○保育のあり方について考察する力 ◎課題を見出し解決する力と論理的思考力 ○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 ① 保育実習に必要な知識や技術は自らの課題や目標に照らし合 わせ、保育関係科目を復習し、自主的に学修する。 ②保育に関する現状や課題に関心を持ち、その要因や背景、課題の 解決方法について考察する。 ② 社会人としての対応能力や協調性を高めるため、より良い人間 関係づくりに努める。
評価方法 授業態度40％・提出物60％ 課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。

教科書	参考図書
無し	保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 最終学年なので、毎回の授業で、学んだことを確認し、保育者としての資質を身に付けましょう。連絡手段は初回授業時に案内いたします。

01	オリエンテーション
02	外部講師の講話
03	課題教材研究（わらべうた）
04	外部講師の講話
05	打楽器の奏法を理解し、アンサンブルを行う
06	保育実習の反省（保育現場に求められる、知識技術教養判断力倫理観など）
07	Ⅰ度・Ⅳ度・Ⅴ度（主要3和音）による伴奏があなたを救う、かも？幼児歌曲の弾き歌いのまとめ
08	外部講師の講話（卒業生）
09	課題教材研究（絵本について考える）
10	マーチとワルツ、あなたはどっちがお好き？ピアノ演奏のまとめと、様々な音楽活動
11	課題教材研究　（手つくりおもちゃ制作）
12	運動遊びの指導に必要な保育者の資質を考える
13	運動指導と体育嫌いについて
14	幼児における運動遊びの保育実践例
15	合同：保育現場に求められる現代的課題の考察・履修カルテ作成・振り返りとまとめ
16	

科目名:0K41S2106　保育実習Ⅱ	担当者:石山 英明、ダーリンプル 規子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育実習Ⅰで学んだことを踏まえて保育所での実習を通して、保育・養護・地域福祉・子育て支援・保育士としての職業倫理等に関するより発展的な知識・技術・態度の体系的な修得を目指す。保育実習Ⅰを踏まえ、保育実習Ⅱの目標を明確に持ち、保育の現状や子どもの見方についての理解を深め、指導案の作成、教材制作、意見交流等を行う。実習終了後は、自己の課題を明確化する。

授業の到達目標
1）保育所の役割や機能について具体的な実践に結びつけて理解を深める。 2）子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。3) 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえて、子どもの保育及び保護者支援について総合的に理解する。4) 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み・理解を深める。 5）保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。6) 実習（学内実習）における自己の課題を明確化する。 7）自信を持って、卒業後就職できるように実践力を身に付ける。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：実習 1 の経験を踏まえて、自己課題を明確にしておく。
事後学修：実際の場で体験し、実践力を身につけるようにする。
予習復習課題の事前事後課題提出を求めることもある。

評価方法
課題提出、それに伴う事前事後課題の提出により評価を行う。具体的には実習Ⅱの６つの目標に沿った内容で、それぞれの課題レポートでの評価と発表・実技内容を合わせて評価する。 日誌・指導案・レポート・実習態度・準備・現場の評価等 合計100％

教科書	参考図書
保育所保育指針解説書	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育現場での実習であるので、緊張感と共に、社会人及び保育者としてのモラルと自覚をもって、健康で、実習目標を達成するために全力を尽くすこと

01	学生自らの課題意識に基づき、実習の目標 6 点【１．保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める ２．子どもの観察や関りの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。３．既存の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえて、子どもの保育及び保護者支援について総合的に理解する４．保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価などについて、実際に取り組み、理解を深める。５．保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解する。６．実習における自己の課題を明確にする。】に合わせて次のように実施する
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OK41S2108　保育実習Ⅲ	担当者:木村 達志	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	実習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育実習Ⅰで学んだことを踏まえて、保育所以外の児童福祉施設での実習を通して、保育・養護・地域福祉・子育て支援・保育士としての職業倫理等に関する発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。より多くの有意義な学びができるよう、実習前には保育の現状や子どもの見方についての理解を深め、援助案の作成・発表等を行うことで準備を進め、実習後はグループ討議等を通して実習を振り返り、自己の課題を明確化する（A L）。

授業の到達目標
1）既習の教科や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解する（D P）。
2）家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する（D P）。
3）保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する（D P）。
4）実習おける自己の課題を理解する（D P）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・多様性を受け入れる能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
実習での実践に向けて、心身の健康管理や養護に必要な知識・技術・態度等の力量を磨き高める努力を日頃から自覚して行うこと。実習実施に先立ち、保育実習指導Ⅲで学んだことをよく確認し、事前・事後訪問時に実習施設からいただいた資料やご指導をよく確認して準備すること。

評価方法
実習施設からの評価60%、実習日誌20%、実習事後レポート10%、その他（実習への意欲・実習状況等）10%を総合して評価する。

教科書	参考図書
保育実習Ⅲハンドブック（大学より配布）	平成29年告示の「保育所保育指針」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
大学生活最後の実習であることの重要な意味を各自よく胸に刻み、真摯に実習に取り組みましょう。
連絡手段等については、授業時に指示します。

01	自らの課題意識に基づき、保育所以外の児童福祉施設にて以下の内容について概ね10日間の実習を実施する予定である。 1）観察・参加実習 ①保育の概要の理解、②当該施設の人的・物的・地域的環境についての理解、③利用者の行動や姿の観察・理解、④保育士の職務内容と役割についての概要の理解、⑤家庭や地域社会との関係についての概要の理解 2）参加・指導実習 ①業務全般に参加しながら、利用者の生活や発達、ニーズについての体験的な学習 ②業務全般に参加しながら、保育の方法や技術の体験的な学習　③援助計画に
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OK41S2105　保育実習指導Ⅱ	担当者:石山 英明、ダーリンプル 規子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育実習Ⅱを充実したものにするために事前事後指導を行う。事前指導では指導案の作成、実習の心構え等について学び、事後指導では省察を通して自己の課題を明確にし、各自今後に活かしていくという流れの中で保育実践力と見識を深める。

授業の到達目標
１）保育実習Ⅰや既習科目で学んだことを関連づけて理解し、保育実習Ⅱ（学内実習）の実践に活かすことができる。２）保育所実習のために必要な知識・技術・態度を修得し、事前の準備課題・留意事項等をよく理解している。３）実習及び学内実習での学びや体験を整理し、振り返りと自己評価を通して、以後の学修課題を明確に
することができる。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：日頃から自己を振り返り、実習及び学内実習で何を学びたいのか、今すべきことは何かをよく考えて行動するように努めること。事後指導：各回の学びを振り返りながら十分に復習し、必要な知識・技術・態度について省察・整理をし、自身の考えを深めておくこと。

評価方法
事前課題：課題レポート・指導案の提出、発表レポート等（65%）
事後課題：実習の目標１～５についての振り返りシート（35%）

教科書	参考図書
保育所保育指針解説書	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
無断欠席は厳禁であり、実習Ⅱそのものの履修資格を失う。やむを得ず欠席や遅刻をする場合は、教務課実習担当者に必ず連絡すること。欠席者には課題を出すため、センターに欠席届を提出し、センターで欠席課題を受け取り、担当教員に課題を提出する。

01	ガイダンス 保育実習Ⅱの位置づけ、目標、課題、学内実習について 実習についての諸注意
02	子どもの発達について（復習・確認）
03	指導案の書き方について（記述の再確認）
04	教材作成 廃材等を利用した教材作成
05	教材研究 制作した教材を使用した指導案作成
06	実践 指導案の実践（グループワーク）
07	事後指導 実習の目標に対する振り返り
08	事後指導 実習の目標に対する振り返りの交流
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OK41S2107　保育実習指導Ⅲ	担当者:木村 達志	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育実習Ⅲを充実したものにするための事前事後指導を行う。事前指導では、実習の在り方や援助案の作成、実習への心構え等について学び、事後指導では省察を通して自己の課題を明確にし、各自今後に活かしていくという流れの中で、保育実践力を培うことを目指す。演習形式で行う（A L）。

授業の到達目標
1）保育実習Ⅰや既習科目で学んだことを関連づけて理解し、保育実習Ⅲでの実践に活かすことができる（D P）。
2）実習のために必要な知識・技術・態度を修得し、事前の準備課題・留意事項等をよく理解している（D P）。
3）自己の実習体験を整理し、振り返りと自己評価を通して、以後の学習課題を明確にすることができる（D P）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・多様性を受け入れる能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日頃から自己を振り返り、実習で何を学びたいのか、今すべきことは何かをよく考えて行動するように努めること。実習に必要な知識・技術・態度は自主的に修得し、磨いていくこと。

評価方法
事前課題（授業課題シート、援助案、発表、提出物等）50%、事後課題（実習日誌、実習レポート、実習振り返りシート、体験発表等）40%、授業への参加態度10%で総合的に評価する。

教科書	参考図書
保育実習Ⅲハンドブック（大学より配布）	教科書■保育実習Ⅲハンドブック（大学より配布）□参考図書□ 平成29年告示の「保育所保育指針」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
無断欠席は厳禁であり、実習そのものの履修資格を失う。止むを得ず欠席や遅刻をする場合は、教育・保育職支援センターに必ず自分で連絡をすること。欠席者には課題を出すため、必ず担当教員を訪ね指導を受けること。保育実習Ⅲを再履修する学生においても、保育実習指導Ⅲを再受講することが原則であり、実習の履修資格となる。
教員への連絡手段は授業時に提示する。

01	オリエンテーション（保育実習Ⅲの位置づけ・目標・課題）、事前訪問についての説明
02	福祉施設利用者との交流（予定）
03	施設長先生から施設での保育現場のお話を聞き、現状を学ぶ（予定）
04	児童福祉施設での援助案演習①　援助案の書き方説明、案の作成
05	児童福祉施設での援助案演習②　援助案の発表・交流（グループ別）
06	児童福祉施設での援助案演習③　援助案の発表・交流（グループ別）
07	実習直前指導（諸注意、各自の課題整理・確認）
08	実習事後指導（各自の振り返り及び実習体験を通して学んだことの発表・交流）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OK41S3101　卒業研究演習Ⅰ	担当者:髙橋　一郎	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業では、「人類の福祉と世界の子どもの最善の利益に貢献できる高度な専門性を具えた有為な人材を養成する」という教育理念のもとで、4年次の「卒業研究」において論文を執筆するにあたり、その道筋について学ぶ。教育・保育・国際教養など幅広い分野から子どもに対する多様なアプローチにおいて自身の興味・関心のあるテーマに関する文献を読み、理解を深める。各ゼミ担当教員のもと、テーマを設定し、ゼミのメンバーとも共有・議論しながら、研究計画書を作成する。各々の研究課題の学問上の位置づけを明確にし、研究手法や論文の構成法や表現法について学ぶ。

授業の到達目標
１）「卒業研究」に向けて、論文執筆に必要な事項を学修する。
２）自身の興味・関心のあるテーマを設定し、ゼミのメンバーとも共有しながら考察する。
３）研究計画書を作成する。

【到達目標と深く関連する学科DP】○幅広い視野と知識と教養○保育のあり方について考察する力◎課題を見出し解決する力と論理的思考力○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力○グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業内容に必要な準備を行い臨むようにすること。自律的で深い学修に繋がるようにすること。

評価方法
積極的な学修態度20%、提出物・学修成果物30%、ゼミ内発表20%、各教員の評価点30%で評価を行う。

教科書 授業内で、適宜各教員より紹介する。	参考図書 授業内で、適宜各教員より紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
創造的で深い学びに繋がるよう、学修環境を整え積極的な授業参加を期待する。連絡手段は、授業内に各教員より伝達する。

01	ガイダンス・オリエンテーション・研究テーマについて（共通）
02	研究テーマについて、ゼミ内で発表・意見交換（共通）
03	研究手法と研究計画書の作成（共通）
04	研究計画書の見直し（共通）
05	研究計画書の完成とゼミ内共有（共通）
06	先行研究の分析・調査（共通）
07	先行研究からの問題点の整理（共通）
08	国際社会に目を向ける
09	ゼミのメンバーによる意見交換（共通）
10	個別指導及びディスカッション（共通）
11	教養を身につけることを再確認する～なぜ学ぶのか
12	保育の世界に目を向ける～日本とオーストラリア・ＮＺとの比較
13	ゼミ内交流企画
14	社会見学または他ゼミとの交流
15	ゼミ内中間発表会・今後の学修の流れについて（共通）
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK41S3101　卒業研究演習Ⅰ	担当者:内田 政一	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業では、「人類の福祉と世界の子どもの最善の利益に貢献できる高度な専門性を具えた有為な人材を養成する」という教育理念のもとで、4年次の「卒業研究」において論文を執筆するにあたり、その道筋について学ぶ。教育・保育・国際教養など幅広い分野から子どもに対する多様なアプローチにおいて自身の興味・関心のあるテーマに関する文献を読み、理解を深める。各ゼミ担当教員のもと、テーマを設定し、ゼミのメンバーとも共有・議論しながら、研究計画書を作成する。各々の研究課題の学問上の位置づけを明確にし、研究手法や論文の構成法や表現法について学ぶ。

授業の到達目標
１）「卒業研究」に向けて、論文執筆に必要な事項を学修する。
２）自身の興味・関心のあるテーマを設定し、ゼミのメンバーとも共有しながら考察する。
３）研究計画書を作成する。
４）論理的・効果的にアウトプットできる。
【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
○グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業内容に必要な準備を行い臨むようにすること。自律的で深い学修に繋がるようにすること。

評価方法
積極的な学修態度20%、提出物・学修成果物30%、ゼミ内発表20%、ディスカッション・プレゼンテーションを含め、アウトプットに関わる手法・展開30%で評価を行う。前回のフィードバックは翌週行います。

教科書	参考図書
授業内で、適宜各教員より紹介する。	授業内で、適宜各教員より紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
創造的で深い学びに繋がるよう、学修環境を整え積極的な授業参加を期待する。連絡手段は、授業内に各教員より伝達する。

01	ガイダンス・オリエンテーション・研究テーマについて（共通）
02	研究テーマについて、ゼミ内で発表・意見交換（共通）
03	研究手法と研究計画書の作成（共通）
04	研究計画書の見直し（共通）
05	研究計画書の完成とゼミ内共有（共通）
06	先行研究の分析・調査（共通）
07	先行研究からの問題点の整理（共通）
08	先行研究についての再分析・ハンドアウト（個別）
09	ゼミのメンバーによる意見交換（共通）
10	個別指導及びディスカッション（共通）
11	フィードバック・ディスカッションのまとめ・整理（個別）
12	研究手法の再考察（個別）
13	研究計画書の再考察（個別）
14	ハンドアウト・PPT作成・プレゼンテーション準備（個別）
15	ゼミ内中間発表会・今後の学修の流れについて（共通）
16	なし

科目名:OK41S3101　卒業研究演習Ⅰ	担当者:加藤 あや美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業では、「人類の福祉と世界の子どもの最善の利益に貢献できる高度な専門性を具えた有為な人材を養成する」という教育理念のもとで、4年次の「卒業研究」において論文を執筆するにあたり、その道筋について学ぶ。教育・保育・国際教養など幅広い分野から子どもに対する多様なアプローチにおいて自身の興味・関心のあるテーマに関する文献を読み、理解を深める。各ゼミ担当教員のもと、テーマを設定し、ゼミのメンバーとも共有・議論しながら、研究計画書を作成する。各々の研究課題の学問上の位置づけを明確にし、研究手法や論文の構成法や表現法について学ぶ。【AL】

授業の到達目標
１）「卒業研究」に向けて、論文執筆に必要な事項を学修する。（DP）
２）自身の興味・関心のあるテーマを設定し、ゼミのメンバーとも共有しながら考察する。（DP）
３）研究計画書を作成する。（DP）
４）自らのテーマに関連する事柄について実例を交えながら専門性のある議論ができる。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
○グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業内容に必要な準備を行い臨むようにすること。自律的で深い学修に繋がるようにすること。加えて、ディスカッション、プレゼンテーションを多く取り入れるため、毎週のテーマに関する事前学修を怠らないこと。なお、発表用スライドやハンドアウトの作成は毎回必須とする。

評価方法
積極的な学修態度20%、提出物・学修成果物30%、ゼミ内発表20%、プレゼンテーション&ディスカッション（スライド・ハンドアウト提出は必須）30%で評価を行う。

教科書	参考図書
授業内で、適宜各教員より紹介する。	授業内で、適宜各教員より紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
創造的で深い学びに繋がるよう、学修環境を整え積極的な授業参加を期待する。連絡手段は、授業内に各教員より伝達する。

01	ガイダンス・オリエンテーション・研究テーマについて（共通）
02	研究テーマについて、ゼミ内で発表・意見交換（共通）
03	研究手法と研究計画書の作成（共通）
04	研究計画書の見直し（共通）
05	研究計画書の完成とゼミ内共有（共通）
06	先行研究の分析・調査（共通）
07	先行研究からの問題点の整理（共通）
08	先行研究の課題に関するプレゼンテーション
09	ゼミのメンバーによる意見交換（共通）
10	個別指導及びディスカッション（共通）
11	先行研究のまとめ・分析方法の検討
12	分析方法に関するプレゼンテーション
13	分析方法に関するディスカッション
14	論文構成および目次案の検討
15	ゼミ内中間発表会・今後の学修の流れについて（共通）
16	なし

科目名:OK41S3101　卒業研究演習Ⅰ	担当者:寺田 恭子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業では、「人類の福祉と世界の子どもの最善の利益に貢献できる高度な専門性を具えた有為な人材を養成する」という教育理念のもとで、4年次の「卒業研究」において論文を執筆するにあたり、その道筋について学ぶ。教育・保育・国際教養など幅広い分野から子どもに対する多様なアプローチにおいて自身の興味・関心のあるテーマに関する文献を読み、理解を深める。各ゼミ担当教員のもと、テーマを設定し、ゼミのメンバーとも共有・議論しながら、研究計画書を作成する。各々の研究課題の学問上の位置づけを明確にし、研究手法や論文の構成法や表現法について学ぶ。

授業の到達目標
１）「卒業研究」に向けて、論文執筆に必要な事項を学修する。
２）自身の興味・関心のあるテーマを設定し、ゼミのメンバーとも共有しながら考察する。
３）研究計画書を作成する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
○グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業内容に必要な準備を行い臨むようにすること。自律的で深い学修に繋がるようにすること。毎回の授業後に授業の内容をノートやファイルにまとめておくこと。

評価方法
積極的な学修態度20%、提出物・学修成果物30%、ゼミ内発表20%、平常点30%で評価を行う。

教科書	参考図書
授業内で、適宜各教員より紹介する。	授業内で、適宜各教員より紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
創造的で深い学びに繋がるよう、学修環境を整え積極的な授業参加を期待する。連絡手段は、授業内に各教員より伝達する。

01	ガイダンス・オリエンテーション・研究テーマについて（共通）
02	研究テーマについて、ゼミ内で発表・意見交換（共通）
03	研究手法と研究計画書の作成（共通）
04	研究計画書の見直し（共通）
05	研究計画書の完成とゼミ内共有（共通）
06	先行研究の分析・調査（共通）
07	先行研究からの問題点の整理（共通）
08	問題点・課題点を踏まえた卒論ストーリーの確認（個別）
09	ゼミのメンバーによる意見交換（共通）
10	個別指導及びディスカッション（共通）
11	ゼミ内中間発表準備　全体の骨子作成・確認　個別）
12	個別指導及びディスカッション（個別）
13	ゼミ内中間発表準備 PPt作成（個別）
14	ゼミ内中間発表準備 発表原稿最終チェック（個別）
15	ゼミ内中間発表会・今後の学修の流れについて（共通）
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK41S3101　卒業研究演習Ⅰ	担当者:田端 智美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業では、「人類の福祉と世界の子どもの最善の利益に貢献できる高度な専門性を具えた有為な人材を養成する」という教育理念のもとで、4年次の「卒業研究」において論文を執筆するにあたり、その道筋について学ぶ。教育・保育・国際教養など幅広い分野から子どもに対する多様なアプローチにおいて自身の興味・関心のあるテーマに関する文献を読み、理解を深める。各ゼミ担当教員のもと、テーマを設定し、ゼミのメンバーとも共有・議論しながら、研究計画書を作成する。各々の研究課題の学問上の位置づけを明確にし、研究手法や論文の構成法や表現法について学ぶ。

授業の到達目標
１）「卒業研究」に向けて、論文執筆に必要な事項を学修する。
２）自身の興味・関心のあるテーマを設定し、ゼミのメンバーとも共有しながら考察する。(DP)
３）研究計画書を作成する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
○グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業内容に必要な準備を行い臨むようにすること。自律的で深い学修に繋がるようにすること。

評価方法
積極的な学修態度20%、提出物・学修成果物30%、ゼミ内発表20%、教員の評価点30%で評価を行う。

教科書	参考図書
授業内で、適宜各教員より紹介する。	授業内で、適宜各教員より紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
創造的で深い学びに繋がるよう、学修環境を整え積極的な授業参加を期待する。連絡手段は、授業内に各教員より伝達する。

01	ガイダンス・オリエンテーション・研究テーマについて（共通）
02	研究テーマについて、ゼミ内で発表・意見交換（共通）
03	研究手法と研究計画書の作成（共通）
04	研究計画書の見直し（共通）
05	研究計画書の完成とゼミ内共有（共通）
06	先行研究の分析・調査（共通）
07	先行研究からの問題点の整理（共通）
08	表現の分野における実践研究について
09	ゼミのメンバーによる意見交換（共通）
10	個別指導及びディスカッション（共通）
11	実践研究についてのディスカッション１（前半グループ）(AL)
12	実践研究についてのディスカッション２（後半グループ）(AL)
13	実践研究におけるまとめ
14	中間発表会における準備（今までの内容のまとめ）
15	ゼミ内中間発表会・今後の学修の流れについて（共通）
16	なし

科目名:OK41S3101　卒業研究演習Ⅰ	担当者:木村 達志	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業では、「人類の福祉と世界の子どもの最善の利益に貢献できる高度な専門性を具えた有為な人材を養成する」という教育理念のもとで、4年次の「卒業研究」において論文を執筆するにあたり、その道筋について学ぶ。教育・保育・国際教養など幅広い分野から子どもに対する多様なアプローチにおいて自身の興味・関心のあるテーマに関する文献を読み、理解を深める。各ゼミ担当教員のもと、テーマを設定し、ゼミのメンバーとも共有・議論しながら、研究計画書を作成する。各々の研究課題の学問上の位置づけを明確にし、研究手法や論文の構成法や表現法について学ぶ

授業の到達目標
１）「卒業研究」に向けて、論文執筆に必要な事項を学修する。
２）自身の興味・関心のあるテーマを設定し、ゼミのメンバーとも共有しながら考察する。
３）研究計画書を作成する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
○グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業内容に必要な準備を行い臨むようにすること。自律的で深い学修に繋がるようにすること。

評価方法
積極的な学修態度20%、提出物・学修成果物50%、ゼミ内発表20%、研究発表に対する理解10%で評価を行う。

教科書 授業内で、適宜各教員より紹介する。	参考図書 授業内で、適宜各教員より紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
創造的で深い学びに繋がるよう、学修環境を整え積極的な授業参加を期待する。
連絡手段は、メール t-kimura@ohkagakuen-u.ac.jp で行う。

01	ガイダンス・オリエンテーション・研究テーマについて（共通）
02	研究テーマについて、ゼミ内で発表・意見交換（共通）
03	研究手法と研究計画書の作成（共通）
04	研究計画書の見直し（共通）
05	研究計画書の完成とゼミ内共有（共通）
06	先行研究の分析・調査（共通）
07	先行研究からの問題点の整理（共通）
08	研究手法の確定、調査票の作成、インタビューにおけるリサーチクエスチョンの作成など（個別）
09	ゼミのメンバーによる意見交換（共通）
10	個別指導及びディスカッション（共通）
11	前半グループの中間発表に向けた個別指導（個別）
12	後半グループの中間発表に向けた個別指導（個別）
13	前半グループのパワーポイントの確認、予行演習（個別）
14	後半グループのパワーポイントの確認、予行演習（個別）
15	ゼミ内中間発表会・今後の学修の流れについて（共通）
16	なし

科目名:OK41S3101　卒業研究演習Ⅰ	担当者:ダーリンプル 規子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業では、「人類の福祉と世界の子どもの最善の利益に貢献できる高度な専門性を具えた有為な人材を養成する」という教育理念のもとで、4年次の「卒業研究」において論文を執筆するにあたり、その道筋について学ぶ。教育・保育・国際教養など幅広い分野から子どもに対する多様なアプローチにおいて自身の興味・関心のあるテーマに関する文献を読み、理解を深める。各ゼミ担当教員のもと、テーマを設定し、ゼミのメンバーとも共有・議論しながら、研究計画書を作成する。各々の研究課題の学問上の位置づけを明確にし、研究手法や論文の構成法や表現法について学ぶ。

授業の到達目標
１）「卒業研究」に向けて、論文執筆に必要な事項を学修する。
２）自身の興味・関心のあるテーマを設定し、ゼミのメンバーとも共有しながら考察する。
３）研究計画書を作成する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
○グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業内容に必要な準備を行い臨むようにすること。自律的で深い学修に繋がるようにすること。

評価方法
積極的な学修態度30%、提出物・学修成果物40%、ゼミ内発表30%、で評価を行う。

教科書 授業内で、適宜各教員より紹介する。	参考図書 授業内で、適宜各教員より紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
創造的で深い学びに繋がるよう、学修環境を整え積極的な授業参加を期待する。連絡手段は、授業内に各教員より伝達する。

01	ガイダンス・オリエンテーション・研究テーマについて（共通）
02	研究テーマについて、ゼミ内で発表・意見交換（共通）
03	研究手法と研究計画書の作成（共通）
04	研究計画書の見直し（共通）
05	研究計画書の完成とゼミ内共有（共通）
06	先行研究の分析・調査（共通）
07	先行研究からの問題点の整理（共通）先行研究の分析・調査（共通）
08	先行研究の分析・調査（個別）
09	ゼミのメンバーによる意見交換（共通）
10	個別指導及びディスカッション（個別）
11	先行研究からの問題点の整理（個別）
12	先行研究からの問題点の整理（個別）
13	先行研究からの問題点の整理（個別）
14	先行研究からの問題点の整理（個別）
15	ゼミ内中間発表会・今後の学修の流れについて（共通）
16	なし

科目名:OK41S3101　卒業研究演習Ⅰ	担当者:森山 雅子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業では、「人類の福祉と世界の子どもの最善の利益に貢献できる高度な専門性を具えた有為な人材を養成する」という教育理念のもとで、4年次の「卒業研究」において論文を執筆するにあたり、その道筋について学ぶ。教育・保育・国際教養など幅広い分野から子どもに対する多様なアプローチにおいて自身の興味・関心のあるテーマに関する文献を読み、理解を深める。各ゼミ担当教員のもと、テーマを設定し、ゼミのメンバーとも共有・議論しながら、研究計画書を作成する。各々の研究課題の学問上の位置づけを明確にし、研究手法や論文の構成法や表現法について学ぶ。

授業の到達目標
１）「卒業研究」に向けて、論文執筆に必要な事項を学修する。
２）自身の興味・関心のあるテーマを設定し、ゼミのメンバーとも共有しながら考察する。
３）研究計画書を作成する。
４）自身の研究の経過や成果について適切にプレゼンテーションできる力を養う。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
○グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業内容に必要な準備を行い臨むようにすること。自律的で深い学修に繋がるようにすること。

評価方法
積極的な学修態度20%、提出物・学修成果物30%、ゼミ内発表20%、研究計画の立案とその実施過程30%で評価を行う。

教科書 授業内で、適宜各教員より紹介する。	参考図書 授業内で、適宜各教員より紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
創造的で深い学びに繋がるよう、学修環境を整え積極的な授業参加を期待する。連絡手段は、授業内に各教員より伝達する。

01	ガイダンス・オリエンテーション・研究テーマについて（共通）
02	研究テーマについて、ゼミ内で発表・意見交換（共通）
03	研究手法と研究計画書の作成（共通）
04	研究計画書の見直し（共通）
05	研究計画書の完成とゼミ内共有（共通）
06	先行研究の分析・調査（共通）
07	先行研究からの問題点の整理（共通）
08	先行研究の課題と自身の研究とのつながりと方向性について検討・整理（個別）
09	ゼミのメンバーによる意見交換（共通）
10	個別指導及びディスカッション（共通）
11	個別指導及びディスカッション（個別）
12	ゼミ内研究交流会（ミニ中間発表会）（個別）
13	個別指導及びディスカッション（個別）
14	ゼミ内中間発表会にむけてのプレゼンテーションの準備・確認（個別）
15	ゼミ内中間発表会・今後の学修の流れについて（共通）
16	なし

科目名:OK41S3101　卒業研究演習Ⅰ	担当者:石山 英明	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
保育学部の教育理念は「人類の福祉と世界の子どもの最善の利益に貢献できる高度な専門性を具えた有為な人材を養成する」である。この理念の下、本授業では、4年次の「卒業研究」における論文執筆の道筋について学ぶ。教育・保育・国際教養など幅広い分野から子どもに対する多様なアプローチにおいて自身の興味・関心のあるテーマに関する文献などから理解を深める(DP)。ゼミ担当教員のもと、テーマを設定し、ゼミのメンバーとも共有・議論しながら、研究計画書を作成する。各々の研究課題の学問上の位置づけを明確にし、研究手法や論文の構成法や表現法について学ぶ。

授業の到達目標
１）「卒業研究」に向けて、論文執筆に必要な事項を学修する。
２）自身の興味・関心のあるテーマを設定し、ゼミのメンバーとも共有しながら考察する。
３）研究計画書を作成する。
４）プレゼンテーションを行う。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
○グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業内容に必要な準備を行い臨むようにすること。自律的で深い学修に繋がるようにすること。

評価方法
積極的な学修態度20%、提出物・学修成果物30%、ゼミ内発表20%、ゼミ内のコミュニケーションの様子15%、研究に対する理解度15%で評価を行う。

教科書	参考図書
授業内で、適宜教員より紹介する。	授業内で、適宜教員より紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
創造的で深い学びに繋がるよう、学修環境を整え積極的な授業参加を期待する。連絡手段は、授業内に教員より伝達する。

01	ガイダンス・オリエンテーション・研究テーマについて（共通）
02	研究テーマについて、ゼミ内で発表・意見交換（共通）
03	研究手法と研究計画書の作成（共通）
04	研究計画書の見直し（共通）
05	研究計画書の完成とゼミ内共有（共通）
06	先行研究の分析・調査（共通）
07	先行研究からの問題点の整理（共通）
08	角度を変えて世の中の事象を見て・感じてみよう
09	ゼミのメンバーによる意見交換（共通）
10	個別指導及びディスカッション（共通）
11	コミュニケーション・スキルを身につけよう
12	多様な「研究」に目を向けてみよう
13	実践力を身につけよう
14	研究に「形」をつけてみよう、中間発表に向けての準備
15	ゼミ内中間発表会・今後の学修の流れについて（共通）
16	なし

科目名:OK42S3102　卒業研究演習Ⅱ	担当者:髙橋　一郎	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業では、「人類の福祉と世界の子どもの最善の利益に貢献できる高度な専門性を具えた有為な人材を養成する」という保育学部の教育理念のもとで、卒業研究における様々な分野に関する学びを深め、論文又は制作及び制作レポートを完成させることを目的とする。教育・保育・国際教養など幅広い分野から子どもに対する多様なアプローチにおいて自身の興味・関心のあるテーマに関する文献を読み、研究し、理解を深める。各ゼミ担当教員のもと、各々の研究課題の学問上の位置づけを明確にし、ゼミのメンバーとも共有・議論しながら、「卒業研究演習Ⅰ」において作成した「卒業研究」執筆のための研究計画書・中間発表のコメントをもとに、論文の構成法や表現法についてさらに学びを深め、各担当教員の計画に基づき研究をを仕上げる。

授業の到達目標
１）中間発表や担当教員のコメントを参考に、「卒業研究」の学びを深める
２）自身の興味・関心のあるテーマについて、ゼミのメンバーとも共有しながら理解を深める。
３）「卒業研究」を完成させる。（DPの定めるレベルに到達すること）
４）各教員により設定された独自の到達目標

【到達目標と深く関連する学科DP】〇幅広い視野と知識と教養〇保育のあり方について考察する力◎課題を見出し解決する力と論理的思考力〇多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力〇グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業内容に必要な準備を行い臨むようにすること。自律的で深い学修に繋がるようにすること。加えて、各教員により独自に伝達される事項がある。

評価方法
積極的な学修態度20%、提出物・学修成果物30%、ゼミ内発表20%、※各教員の評価点30%で評価を行う。

教科書	参考図書
授業内で、適宜各教員より紹介する。	授業内で、適宜各教員より紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
創造的で深い学びに繋がるよう、学修環境を整え積極的な授業参加を期待する。連絡手段は、授業内に各教員より伝達する。

01	中間発表会①（自分の発表を行う）（合同）
02	中間発表会②（他の発表を聴講し考察する）（合同）
03	ガイダンス・オリエンテーション・研究テーマ・今後の卒業論文完成まで予定を決める（共通）
04	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
05	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
06	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
07	各進捗状況の確認・ゼミメンバによる意見交換（共通）
08	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
09	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
10	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
11	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
12	卒業論文「抄録」について（共通）
13	個別ゼミ内でのプレゼンテーション（自分の発表を行う）（共通）
14	個別ゼミ内でのプレゼンテーション（他の発表を聴講し考察する）（共通）
15	研究成果の確認（共通）

科目名:OK42S3102　卒業研究演習Ⅱ	担当者:内田 政一	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業では、「人類の福祉と世界の子どもの最善の利益に貢献できる高度な専門性を具えた有為な人材を養成する」という保育学部の教育理念のもとで、卒業研究における様々な分野に関する学びを深め、論文又は制作及び制作レポートを完成させることを目的とする。教育・保育・国際教養など幅広い分野から子どもに対する多様なアプローチにおいて自身の興味・関心のあるテーマに関する文献を読み、研究し、理解を深める。各ゼミ担当教員のもと、各々の研究課題の学問上の位置づけを明確にし、ゼミのメンバーとも共有・議論しながら、「卒業研究演習Ⅰ」において作成した「卒業研究」執筆のための研究計画書・中間発表のコメントをもとに、論文の構成法や表現法についてさらに学びを深め、各担当教員の計画に基づき研究をを仕上げる。

授業の到達目標
１）中間発表や担当教員のコメントを参考に、「卒業研究」の学びを深める
２）自身の興味・関心のあるテーマについて、ゼミのメンバーとも共有しながら理解を深める。
３）「卒業研究」を完成させる。（DPの定めるレベルに到達すること）
４）各教員により設定された独自の到達目標

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
○グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業内容に必要な準備を行い臨むようにすること。自律的で深い学修に繋がるようにすること。加えて、各教員により独自に伝達される事項がある。

評価方法
積極的な学修態度20%、提出物・学修成果物30%、ゼミ内発表20%、※各教員の評価点30%で評価を行う。

教科書	参考図書
授業内で、適宜各教員より紹介する。	授業内で、適宜各教員より紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
創造的で深い学びに繋がるよう、学修環境を整え積極的な授業参加を期待する。連絡手段は、授業内に各教員より伝達する。

01	中間発表会①（自分の発表を行う）（合同）
02	中間発表会②（他の発表を聴講し考察する）（合同）
03	ガイダンス・オリエンテーション・研究テーマ・今後の卒業論文完成まで予定を決める（共通）
04	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
05	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
06	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
07	各進捗状況の確認・ゼミメンバによる意見交換（共通）
08	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
09	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
10	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
11	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
12	卒業論文「抄録」について（共通）
13	個別ゼミ内でのプレゼンテーション（自分の発表を行う）（共通）
14	個別ゼミ内でのプレゼンテーション（他の発表を聴講し考察する）（共通）
15	研究成果の確認（共通）

2024年度シラバス

科目名:OK42S3102　卒業研究演習Ⅱ	担当者:加藤 あや美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業では、「人類の福祉と世界の子どもの最善の利益に貢献できる高度な専門性を具えた有為な人材を養成する」という保育学部の教育理念のもとで、卒業研究における様々な分野に関する学びを深め、論文又は制作及び制作レポートを完成させることを目的とする。教育・保育・国際教養など幅広い分野から子どもに対する多様なアプローチにおいて自身の興味・関心のあるテーマに関する文献を読み、研究し、理解を深める。各ゼミ担当教員のもと、各々の研究課題の学問上の位置づけを明確にし、ゼミのメンバーとも共有・議論しながら、「卒業研究演習Ⅰ」において作成した「卒業研究」執筆のための研究計画書・中間発表のコメントをもとに、論文の構成法や表現法についてさらに学びを深め、各担当教員の計画に基づき研究をを仕上げる。

授業の到達目標
１）中間発表や担当教員のコメントを参考に、「卒業研究」の学びを深める
２）自身の興味・関心のあるテーマについて、ゼミのメンバーとも共有しながら理解を深める。
３）「卒業研究」を完成させる。（DPの定めるレベルに到達すること）
４）各教員により設定された独自の到達目標

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
○グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業内容に必要な準備を行い臨むようにすること。自律的で深い学修に繋がるようにすること。加えて、各教員により独自に伝達される事項がある。

評価方法
積極的な学修態度20%、提出物・学修成果物30%、ゼミ内発表20%、※各教員の評価点30%で評価を行う。

教科書 授業内で、適宜各教員より紹介する。	参考図書 授業内で、適宜各教員より紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
創造的で深い学びに繋がるよう、学修環境を整え積極的な授業参加を期待する。連絡手段は、授業内に各教員より伝達する。

01	中間発表会①（自分の発表を行う）（合同）
02	中間発表会②（他の発表を聴講し考察する）（合同）
03	ガイダンス・オリエンテーション・研究テーマ・今後の卒業論文完成まで予定を決める（共通）
04	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
05	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
06	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
07	各進捗状況の確認・ゼミメンバによる意見交換（共通）
08	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
09	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
10	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
11	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
12	卒業論文「抄録」について（共通）
13	個別ゼミ内でのプレゼンテーション（自分の発表を行う）（共通）
14	個別ゼミ内でのプレゼンテーション（他の発表を聴講し考察する）（共通）
15	研究成果の確認（共通）
16	

2024年度シラバス

科目名:OK42S3102　卒業研究演習Ⅱ	担当者:寺田 恭子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業では、「人類の福祉と世界の子どもの最善の利益に貢献できる高度な専門性を具えた有為な人材を養成する」という保育学部の教育理念のもとで、卒業研究における様々な分野に関する学びを深め、論文又は制作及び制作レポートを完成させることを目的とする。教育・保育・国際教養など幅広い分野から子どもに対する多様なアプローチにおいて自身の興味・関心のあるテーマに関する文献を読み、研究し、理解を深める。各ゼミ担当教員のもと、各々の研究課題の学問上の位置づけを明確にし、ゼミのメンバーとも共有・議論しながら、「卒業研究演習Ⅰ」において作成した「卒業研究」執筆のための研究計画書・中間発表のコメントをもとに、論文の構成法や表現法についてさらに学びを深め、各担当教員の計画に基づき研究をを仕上げる。

授業の到達目標
１）中間発表や担当教員のコメントを参考に、「卒業研究」の学びを深める
２）自身の興味・関心のあるテーマについて、ゼミのメンバーとも共有しながら理解を深める。
３）「卒業研究」を完成させる。（DPの定めるレベルに到達すること）
４）各教員により設定された独自の到達目標

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
○グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業内容に必要な準備を行い臨むようにすること。自律的で深い学修に繋がるようにすること。加えて、各教員により独自に伝達される事項がある。

評価方法
積極的な学修態度20%、提出物・学修成果物30%、ゼミ内発表20%、※各教員の評価点30%で評価を行う。

教科書	参考図書
授業内で、適宜各教員より紹介する。	授業内で、適宜各教員より紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
創造的で深い学びに繋がるよう、学修環境を整え積極的な授業参加を期待する。連絡手段は、授業内に各教員より伝達する。

01	中間発表会①（自分の発表を行う）（合同）
02	中間発表会②（他の発表を聴講し考察する）（合同）
03	ガイダンス・オリエンテーション・研究テーマ・今後の卒業論文完成まで予定を決める（共通）
04	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
05	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
06	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
07	各進捗状況の確認・ゼミメンバによる意見交換（共通）
08	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
09	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
10	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
11	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
12	卒業論文「抄録」について（共通）
13	個別ゼミ内でのプレゼンテーション（自分の発表を行う）（共通）
14	個別ゼミ内でのプレゼンテーション（他の発表を聴講し考察する）（共通）
15	研究成果の確認（共通）
16	

2024年度シラバス

科目名:OK42S3102　卒業研究演習Ⅱ	担当者:田端 智美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業では、「人類の福祉と世界の子どもの最善の利益に貢献できる高度な専門性を具えた有為な人材を養成する」という保育学部の教育理念のもとで、卒業研究における様々な分野に関する学びを深め、論文又は制作及び制作レポートを完成させることを目的とする。教育・保育・国際教養など幅広い分野から子どもに対する多様なアプローチにおいて自身の興味・関心のあるテーマに関する文献を読み、研究し、理解を深める。各ゼミ担当教員のもと、各々の研究課題の学問上の位置づけを明確にし、ゼミのメンバーとも共有・議論しながら、「卒業研究演習Ⅰ」において作成した「卒業研究」執筆のための研究計画書・中間発表のコメントをもとに、論文の構成法や表現法についてさらに学びを深め、各担当教員の計画に基づき研究をを仕上げる。

授業の到達目標
１）中間発表や担当教員のコメントを参考に、「卒業研究」の学びを深める
２）自身の興味・関心のあるテーマについて、ゼミのメンバーとも共有しながら理解を深める。
３）「卒業研究」を完成させる。（DPの定めるレベルに到達すること）
４）各教員により設定された独自の到達目標

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
○グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業内容に必要な準備を行い臨むようにすること。自律的で深い学修に繋がるようにすること。加えて、各教員により独自に伝達される事項がある。

評価方法
積極的な学修態度20%、提出物・学修成果物30%、ゼミ内発表20%、※各教員の評価点30%で評価を行う。

教科書	参考図書
授業内で、適宜各教員より紹介する。	授業内で、適宜各教員より紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
創造的で深い学びに繋がるよう、学修環境を整え積極的な授業参加を期待する。連絡手段は、授業内に各教員より伝達する。

01	中間発表会①（自分の発表を行う）（合同）
02	中間発表会②（他の発表を聴講し考察する）（合同）
03	ガイダンス・オリエンテーション・研究テーマ・今後の卒業論文完成まで予定を決める（共通）
04	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
05	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
06	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
07	各進捗状況の確認・ゼミメンバによる意見交換（共通）
08	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
09	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
10	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
11	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
12	卒業論文「抄録」について（共通）
13	個別ゼミ内でのプレゼンテーション（自分の発表を行う）（共通）
14	個別ゼミ内でのプレゼンテーション（他の発表を聴講し考察する）（共通）
15	研究成果の確認（共通）
16	

2024年度シラバス

科目名:OK42S3102　卒業研究演習Ⅱ	担当者:木村 達志	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業では、「人類の福祉と世界の子どもの最善の利益に貢献できる高度な専門性を具えた有為な人材を養成する」という保育学部の教育理念のもとで、卒業研究における様々な分野に関する学びを深め、論文又は制作及び制作レポートを完成させることを目的とする。教育・保育・国際教養など幅広い分野から子どもに対する多様なアプローチにおいて自身の興味・関心のあるテーマに関する文献を読み、研究し、理解を深める。各ゼミ担当教員のもと、各々の研究課題の学問上の位置づけを明確にし、ゼミのメンバーとも共有・議論しながら、「卒業研究演習Ⅰ」において作成した「卒業研究」執筆のための研究計画書・中間発表のコメントをもとに、論文の構成法や表現法についてさらに学びを深め、各担当教員の計画に基づき研究をを仕上げる。

授業の到達目標
１）中間発表や担当教員のコメントを参考に、「卒業研究」の学びを深める
２）自身の興味・関心のあるテーマについて、ゼミのメンバーとも共有しながら理解を深める。
３）「卒業研究」を完成させる。（DPの定めるレベルに到達すること）
４）各教員により設定された独自の到達目標

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
○グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業内容に必要な準備を行い臨むようにすること。自律的で深い学修に繋がるようにすること。加えて、各教員により独自に伝達される事項がある。

評価方法
積極的な学修態度20%、提出物・学修成果物30%、ゼミ内発表20%、※各教員の評価点30%で評価を行う。

教科書	参考図書
授業内で、適宜各教員より紹介する。	授業内で、適宜各教員より紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
創造的で深い学びに繋がるよう、学修環境を整え積極的な授業参加を期待する。
連絡手段は、メール t-kimura@ohkagakuen-u.ac.jp で行う。

01	中間発表会①（自分の発表を行う）（合同）
02	中間発表会②（他の発表を聴講し考察する）（合同）
03	ガイダンス・オリエンテーション・研究テーマ・今後の卒業論文完成まで予定を決める（共通）
04	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
05	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
06	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
07	各進捗状況の確認・ゼミメンバによる意見交換（共通）
08	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
09	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
10	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
11	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
12	卒業論文「抄録」について（共通）
13	個別ゼミ内でのプレゼンテーション（自分の発表を行う）（共通）
14	個別ゼミ内でのプレゼンテーション（他の発表を聴講し考察する）（共通）
15	研究成果の確認（共通）
16	

2024年度シラバス

科目名:OK42S3102　卒業研究演習Ⅱ	担当者:ダーリンプル 規子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業では、「人類の福祉と世界の子どもの最善の利益に貢献できる高度な専門性を具えた有為な人材を養成する」という保育学部の教育理念のもとで、卒業研究における様々な分野に関する学びを深め、論文又は制作及び制作レポートを完成させることを目的とする。教育・保育・国際教養など幅広い分野から子どもに対する多様なアプローチにおいて自身の興味・関心のあるテーマに関する文献を読み、研究し、理解を深める。各ゼミ担当教員のもと、各々の研究課題の学問上の位置づけを明確にし、ゼミのメンバーとも共有・議論しながら、「卒業研究演習Ⅰ」において作成した「卒業研究」執筆のための研究計画書・中間発表のコメントをもとに、論文の構成法や表現法についてさらに学びを深め、各担当教員の計画に基づき研究を仕上げる。

授業の到達目標
１）中間発表や担当教員のコメントを参考に、「卒業研究」の学びを深める
２）自身の興味・関心のあるテーマについて、ゼミのメンバーとも共有しながら理解を深める。
３）「卒業研究」を完成させる。（DPの定めるレベルに到達すること）
４）各教員により設定された独自の到達目標

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
○グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業内容に必要な準備を行い臨むようにすること。自律的で深い学修に繋がるようにすること。加えて、各教員により独自に伝達される事項がある。

評価方法
積極的な学修態度20%、提出物・学修成果物30%、ゼミ内発表20%、※各教員の評価点30%で評価を行う。

教科書 授業内で、適宜各教員より紹介する。	参考図書 授業内で、適宜各教員より紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
創造的で深い学びに繋がるよう、学修環境を整え積極的な授業参加を期待する。連絡手段は、授業内に各教員より伝達する。

01	中間発表会①（自分の発表を行う）（合同）
02	中間発表会②（他の発表を聴講し考察する）（合同）
03	ガイダンス・オリエンテーション・研究テーマ・今後の卒業論文完成まで予定を決める（共通）
04	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
05	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
06	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
07	各進捗状況の確認・ゼミメンバによる意見交換（共通）
08	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
09	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
10	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
11	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
12	卒業論文「抄録」について（共通）
13	個別ゼミ内でのプレゼンテーション（自分の発表を行う）（共通）
14	個別ゼミ内でのプレゼンテーション（他の発表を聴講し考察する）（共通）
15	研究成果の確認（共通）
16	

2024年度シラバス

科目名:OK42S3102　卒業研究演習Ⅱ	担当者:森山 雅子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業では、「人類の福祉と世界の子どもの最善の利益に貢献できる高度な専門性を具えた有為な人材を養成する」という保育学部の教育理念のもとで、卒業研究における様々な分野に関する学びを深め、論文又は制作及び制作レポートを完成させることを目的とする。教育・保育・国際教養など幅広い分野から子どもに対する多様なアプローチにおいて自身の興味・関心のあるテーマに関する文献を読み、研究し、理解を深める。各ゼミ担当教員のもと、各々の研究課題の学問上の位置づけを明確にし、ゼミのメンバーとも共有・議論しながら、「卒業研究演習Ⅰ」において作成した「卒業研究」執筆のための研究計画書・中間発表のコメントをもとに、論文の構成法や表現法についてさらに学びを深め、各担当教員の計画に基づき研究をを仕上げる。

授業の到達目標
１）中間発表や担当教員のコメントを参考に、「卒業研究」の学びを深める
２）自身の興味・関心のあるテーマについて、ゼミのメンバーとも共有しながら理解を深める。
３）「卒業研究」を完成させる。（DPの定めるレベルに到達すること）
４）各教員により設定された独自の到達目標

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
○グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業内容に必要な準備を行い臨むようにすること。自律的で深い学修に繋がるようにすること。加えて、各教員により独自に伝達される事項がある。

評価方法
積極的な学修態度20%、提出物・学修成果物30%、ゼミ内発表20%、※各教員の評価点30%で評価を行う。

教科書	参考図書
授業内で、適宜各教員より紹介する。	授業内で、適宜各教員より紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
創造的で深い学びに繋がるよう、学修環境を整え積極的な授業参加を期待する。連絡手段は、授業内に各教員より伝達する。

01	中間発表会①（自分の発表を行う）（合同）
02	中間発表会②（他の発表を聴講し考察する）（合同）
03	ガイダンス・オリエンテーション・研究テーマ・今後の卒業論文完成まで予定を決める（共通）
04	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
05	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
06	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
07	各進捗状況の確認・ゼミメンバによる意見交換（共通）
08	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
09	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
10	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
11	※各教員による独自の授業内容設定（個別）
12	卒業論文「抄録」について（共通）
13	個別ゼミ内でのプレゼンテーション（自分の発表を行う）（共通）
14	個別ゼミ内でのプレゼンテーション（他の発表を聴講し考察する）（共通）
15	研究成果の確認（共通）
16	

2024年度シラバス

科目名:OK42S3102　卒業研究演習Ⅱ	担当者:石山 英明	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業では、「人類の福祉と世界の子どもの最善の利益に貢献できる高度な専門性を具えた有為な人材を養成する」という保育学部の教育理念のもとで、卒業研究における様々な分野に関する学びを深め、論文又は制作及び制作レポートを完成させることを目的とする。教育・保育・国際教養など幅広い分野から子どもに対する多様なアプローチにおいて自身の興味・関心のあるテーマに関する文献を読み、研究し、理解を深める（DP)。各ゼミ担当教員のもと、各々の研究課題の学問上の位置づけを明確にし、ゼミのメンバーとも共有・議論しながら、「卒業研究演習Ⅰ」において作成した「卒業研究」執筆のための研究計画書・中間発表のコメントをもとに、論文の構成法や表現法についてさらに学びを深め、各担当教員の計画に基づき研究をを仕上げる。

授業の到達目標
１）中間発表や担当教員のコメントを参考に、「卒業研究」の学びを深める
２）自身の興味・関心のあるテーマについて、ゼミのメンバーとも共有しながら理解を深める。
３）「卒業研究」を完成させる。（DPの定めるレベルに到達すること）
４）各教員により設定された独自の到達目標

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
○グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業内容に必要な準備を行い臨むようにすること。自律的で深い学修に繋がるようにすること。加えて、各教員により独自に伝達される事項がある。

評価方法
積極的な学修態度20%、提出物・学修成果物30%、ゼミ内発表20%、※各教員の評価点30%で評価を行う。

教科書	参考図書
授業内で、適宜各教員より紹介する。	授業内で、適宜各教員より紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
創造的で深い学びに繋がるよう、学修環境を整え積極的な授業参加を期待する。連絡手段は、授業内に各教員より伝達する。

01	中間発表会①（自分の発表を行う）（合同）
02	中間発表会②（他の発表を聴講し考察する）（合同）
03	ガイダンス・オリエンテーション・研究テーマ・今後の卒業論文完成まで予定を決める（共通）
04	研究目標の確認（個別）
05	先行研究のレビュー（個別）
06	先行研究の批判的考察（個別）
07	各進捗状況の確認・ゼミメンバによる意見交換（共通）
08	研究手法の確認（個別）
09	アンケート・インタビュー・制作など（個別）
10	第9回の考察（個別）
11	まとめ、執筆（個別）
12	卒業論文「抄録」について（共通）
13	個別ゼミ内でのプレゼンテーション（自分の発表を行う）（共通）
14	個別ゼミ内でのプレゼンテーション（他の発表を聴講し考察する）（共通）
15	研究成果の確認（共通）
16	

科目名:OK42S3103　卒業研究	担当者:石山 英明、内田 政一、加藤 あや美、木村 達志、髙橋 一郎、田端 智美、ダーリンプル 規子、寺田 恭子、森山 雅子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
保育学部の教育理念は「人類の福祉と世界の子どもの最善の利益に貢献できる高度な専門性を具えた有為な人材を養成する」ことである。
本科目は、教育・保育・国際教養など幅広い分野から子どもに対する多様なアプローチにおいて自身の興味・関心のあるテーマに関する学びを深め、卒業研究としてまとめられた論文又は制作及び制作レポートを成果物として評価するものである。

授業の到達目標
卒業研究としてまとめられた論文又は制作及び制作レポートは、桜花学園大学保育学部のディプロマポリシーである、教育・保育専門職として課題を発見し、その内容を深く理解し、課題の解決を創造する力を養うレベルに達していなければならない。また「論文」や「創作」を適切にプレゼンテーションできることも本科目の重要な到達目標である。【DP】
【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
○グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
卒業研究は、国際教養こども学科における学びの「集大成」であり、自律的で深い学修と、授業内外での研究に対する弛まぬ努力と情熱は、研究の成果を結実させる必須事項である。また、ゼミメンバーは勿論のこと、友人や知り合い、担当教員や担当外教員等も含め、自身の研究に対する意見や批判を仰ぎ、研究内容を確固としたものになるよう、努めるよう期待する。

評価方法
卒業研究の論文又は制作及び制作レポート、卒業研究発表会での発表内容と参加内容を100点満点で評価する。フィードバック：提出・終了後に最終的講評を直接伝えると共に、卒研発表会で様々な教員からもコメントを伝える。

教科書 なし	参考図書 なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
口頭試問や発表会のプレゼンテーションに関しては、発表機材の把握や確認を怠らず、リハーサルなどを複数回行うなど、入念に準備すること。又、配布物にも工夫を凝らし、自身の研究成果を学科内で共有することをで、この卒業研究は完結すると考えてもらいたい。

01	
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OK33S1302　海外語学研修	担当者:髙橋 一郎、内田 政一、加藤 あや美、寺田 恭子、田端 智美、木村 達志、ダーリンプル 規子、森山 雅子、石山 英明、佐久間 潔	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	実習
免許･資格:Certificate III in Early Childhood Education and Care		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	5
		必須.選択	必須

授業概要と方法
国際教養こども学科では、オーストラリアのアシスタント保育士資格であるCertificate Ⅲ in Early Childhood Education and Careの取得を目指すオーストラリアへの11か月留学である海外保育ライセンス・プログラムを必修として位置付けている。本科目は、留学当初の3か月間のオーストラリアの保育コース入学まえ段階としてそれに対応できる英語力の向上を目的とするものである。所定の英語レベル（語学学校におけるUpper-intermediate）の取得を経て、保育コースに進学するものとする。本英語研修期間は、次の保育コースに備えて、保育関連用語をはじめとした保育コース進学を見据えた英語研修内容となっている。【EN】

授業の到達目標
オーストラリアの保育コースに入学するために必要な英語習熟度レベル（Upper-intermediate）のクラスに在籍をする。（DP）様々な国からの留学生とともに学ぶことにより、多様な考え方や価値観を知る。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
○課題を見出し解決する力と論理的思考力◎グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
各語学学校・クラスにおいて、課される課題に積極的に取り組むこと。また、定期的に実施されている補習クラスには、できるだけ参加するようにし、4技能をバランスよく学修すること。

評価方法
語学学校における評価（出席状況、テストスコア等）70%　アカデミックアドバイザーへ提出する語学研修報告書 30%

教科書 なし	参考図書 なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
語学学校のルールに従い授業を受講し、留学中の出欠席は特に厳しく管理されるため注意すること。また、アカデミックアドバイザーとの連絡は大学メールアドレスを使用し、提出期限厳守で報告書を作成すること。

01	【現地研修内容】 提携先の語学学校にて語学研修を実施する。渡航後、すぐにPlacement Testを受け、自らの英語習熟度レベルのクラスにて3か月間、集中的に英語4技能のトレーニングを行う（一日平均約6時間の授業を受講予定）。クラス編成はインターナショナルクラスで、日本のみならず他国からの留学生とともに授業を受ける。 【国際教養こども学科における指導内容】 2週間ごとに現地での研修について報告書を指定フォーマットを使用しメールにてアカデミックアドバイザーに提出する。その他の事項（相談等）についても、メールのみならずオンラインミーティングなどを通して直接行い、適宜アドバイスや指導等を行っていく。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OK33S1303　海外保育留学	担当者:髙橋 一郎、内田 政一、加藤 あや美、寺田 恭子、田端 智美、木村 達志、ダーリンプル 規子、森山 雅子、石山 英明、佐久間 潔	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	実習
免許･資格:Certificate III in Early Childhood Education and Care		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	10
		必須.選択	必須

授業概要と方法
国際教養こども学科では、オーストラリアのアシスタント保育士資格であるCertificate Ⅲ in Early Childhood Education and Careの取得を目指すオーストラリアへの11か月留学である海外保育ライセンス・プログラムを必修として位置付けている。本科目は、海外語学研修（3か月の語学研修）後にオーストラリアの保育コース（約7か月）に入学し、資格取得のプログラムにて学ぶものである。プログラム内において、オーストラリアの保育事情について知識を得るとともに現地のChildcare Centreでの実習を通して保育現場の実情についても同時に学んでいく。

授業の到達目標
オーストラリアの保育コースに入学し、所定のプログラムを修了することにより、オーストラリアのアシスタント保育士資格であるCertificate Ⅲ in Early Childhood Education and Careの取得を目指す。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
◎保育のあり方について考察する力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
専門学校において、課される課題に積極的に取り組むこと。保育の専門性を高めるために、日々日本の保育との相違点を見出しながら、オーストラリアの保育について学修する。

評価方法
各専門学校における評価（出席状況、課題等）60%、実習日誌20%、アカデミックアドバイザーによるオンラインミーティング（出席状況、課題等）20%

教科書 なし	参考図書 なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
専門学校のルールに従い授業を受講し、留学中の出欠席は特に厳しく管理されるため注意すること。また、アカデミックアドバイザーとの連絡は大学メールアドレスを使用し、オンラインミーティングは必ず出席。提出期限厳守で課題等は提出すること。

01	【現地研修内容】 提携先専門学校の保育コースで学修する。その保育コースにおいて、講義の受講と実習へ参加する。また、プログラムに設定されている各ユニットで課される課題において合格ラインに達することにより、Certificate III in Early Childhood Education and Careの資格を取得するために必要な知識と技能を養っていく。 【国際教養こども学科における指導内容】 保育実習については、実習日に実習日誌を必ず記入し、毎回指定のフォルダ（オンライン）に提出する。SAP保育留学担当が、その都度必要な指導を適宜行っていく。また帰国後、印刷し、1冊にまとめ提出する。アカデミックアドバイザーは月に1回、オンラインミーティングを通して留学全般について聞き取りを行い、適宜指導にあたる。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OK32S2102　保育実習Ⅰ（保育所）	担当者:ダーリンプル 規子、石山 英明	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	実習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 保育所の社会的役割や意義、子どもの理解や保護者の理解などを理解し、実際の実習を通して学ぶ。保育所における保育士の役割は、子どもの保育と保護者の支援や子育て支援が含まれる。そうした保育士の職務を実際に実習で体験することで理解する。保育所の社会的役割や、子ども理解、保護者理解をしていく
授業の到達目標 １．保育を実際に体験することにより、子どもの姿や子どもと保育士のかかわり方、援助の仕方などが理解でき、学生の保育理解に生かされ、保育技術や実践力として身につく(DP2)。 ２．臨機応変な対応や判断力を学ぶ(DP2)。 ３．社会人としての自覚を身に付ける(DP1)。 【到達目標と深く関連する学科DP】DP1：幅広い視野と知識と教養　DP2：保育のあり方について考察する力
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 実習に先立ち保育実習Ⅰの事前指導での学びをよく確認すること。事前準備をしっかり行い、ゆとりを持って実習できるようにすること。保育実践に役立つ手遊び・歌遊びや年齢に応じた教材研究をしっかりしておく。
評価方法 ルーブリックの視点から、実習園からの評価60%　実習日誌20%　実習事後レポート10%　その他（実習への意欲・実習状況など）10%で総合的に評価する。課題のフィードバックは、個々にコメントを書くとともに、必要に応じで全体へも伝える。

教科書 無し	参考図書 保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 実習前から健康管理に気を付け、実習中は遅刻などしないようにする。急病などで欠席・遅刻する場合は必ず園と大学に連絡を入れる。保育士を目指すものとしての自覚と態度で臨む

01	各地域の指定保育所で2週間の実習を行う 主に、観察・参加・指導実習の形態が中心となる：以下実習で学ぶこと ・保育所保育士の保育や業務の実際・保育所の施設設備・地域家族との関係・各年齢の子どもの発達の姿・保育所での子どもの生活や遊びの姿・保育士の子どもの関わり方の実際・食事の内容や指導・部分実習、全日実習の指導案の作成・保育記録などを体験的に学ぶ
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OK32S2104　保育実習Ⅰ（施設）	担当者:木村 達志	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	実習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
児童福祉施設において約１０日間の実習を行う。保育士が働くことのできる施設についての理解を深めるとともに、施設における保育士の養護を実際に体験することを通して、保育士の多様な役割を深く理解する。

授業の到達目標
１．児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する(DP)。２．観察や子ども（利用者）とのかかわりを通して子ども（利用者）への理解を深める(DP)。３．既習の内容を踏まえ、施設での養護内容や生活環境について総合的に学ぶ(DP)。 ４．支援計画の理解と活用、記録及び自己評価等について具体的に理解する(DP)。５．施設における保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ(DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・多様性を受け入れる能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
施設実習へ行くためには、保育実習指導Ⅰの「すべての授業で出席であること」、「すべての課題で合格すること」、これら２点をクリアしておくことが求められる。保育実習指導Ⅰにおける無断欠席や遅刻、提出物忘れ等に加えて、普段からの挨拶は実習生としての資質にかかわることであるから、十分に注意されたい。

評価方法
実習園からの評価60%、実習日誌20%、実習事後レポート10%、その他（実習への意欲・実習状況など）10%を総合して判断する。

教科書 随時紹介する。	参考図書 保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
実習前から健康管理に気をつけること。実習中は遅刻、早退、欠席をせず、充実した実習ができるように心がけること。急病など致し方ない事情で欠席する場合は、ただちに実習先と大学事務に電話すること。保育実習Ⅰ（施設）を再履修する学生においても、保育実習指導Ⅰを再受講することが原則で、実習の履修資格にになる。

01	＜居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容＞ １．施設の役割と機能 （１）施設の生活と一日の流れ （２）施設の役割と機能 ２．子どもの理解 （１）子どもの観察とその記録 （２）個々の状態に応じた援助や関わり ３．施設における子どもの生活と環境 （１）計画に基づく活動や援助 （２）子どもの心身の状態に応じた生活と対応 （３）子どもの活動と環境 （４）健康管理、安全対策の理解 ４．計画と記録 （１）支援計画の理解と活用 （２）記録に基づく省察・自己評価 ５．専門職としての保育士の役割
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OK32S2101　保育実習指導Ⅰ（保育所）	担当者:ダーリンプル 規子、石山 英明	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育実習Ⅰの事前指導として保育所に関する知識・実習の意義や実習の在り方、具体的な指導法や実習の心構えを学ぶ。実習後においては、自己評価を行い自己の課題に気付き、事後指導が次の指導に生かせるようにする。講義と演習の方法で行い、確認事項などが確実に伝達され、実習に支障が無いようにする

授業の到達目標
１．保育所保育についての理解と子ども理解を学ぶとともに保育士の職務について理解する(DP2)。
２．具体的な指導案や記録の書き方を学び、実習に向けた実践力と意欲を高める(DP2)。
３．実習後は自己の課題を明確にし改善を図る(DP1)。

【到達目標と深く関連する学科DP】DP1：幅広い視野と知識と教養　DP2：保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
実習する前に担当する年齢の発達や特徴について十分理解しておく
年齢にあった教材研究や責任実習のための準備を早めにしておく
子どものモデルとして恥ずかしくないよう、日ごろから態度や言葉に気を付け、保育士としての自覚を持つ

評価方法
ルーブリックの視点から、事前の課題（指導案やエピソード記録作成など）50%　事後課題（実習レポート）40%　授業への意欲10%　で総合的に評価する。課題のフィードバックは、個々にコメントを書くとともに、必要に応じで全体へも伝える。

教科書 手引き	参考図書 保育所保育指針解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
実習を行う前提としての知識・態度・技能を獲得する授業なので、無断欠席をした場合は、実習そのものの履修資格を失う

01	保育実習Ⅰについてのオリエンテーション（実習の流れと諸注意・提出物）・事前訪問について・教育実習Ⅰのふりかえり
02	実習に向けての心構え・実習目標の作成
03	実習前および実習期間の健康管理・実習日誌の書き方
04	指導計画の作成
05	エピソード記録の書き方
06	教材研究
07	部分責任実習について考える
08	直前指導
09	事後指導
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OK32S2103　保育実習指導Ⅰ（施設）	担当者:木村 達志	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
児童福祉施設において約１０日間の実習を行ための準備を行う。保育士が働くことのできる施設についての理解を深めるとともに、施設における保育士の養護を実際に体験することを通して、保育士の多様な役割を深く理解する。

授業の到達目標
１．児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する(DP)。２．観察や子ども（利用者）とのかかわりを通して子ども（利用者）への理解を深める(DP)。３．既習の内容を踏まえ、施設での養護内容や生活環境について総合的に学ぶ(DP)。 ４．支援計画の理解と活用、記録及び自己評価等について具体的に理解する(DP)。５．施設における保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ(DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・多様性を受け入れる能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
施設実習に行くためには、保育実習指導Ⅰの「すべての授業に出席であること」、「すべての課題に合格すること」、これら２点をクリアしておくことが求められる。保育実習指導Ⅰにおける無断欠席や遅刻、提出物忘れ等をしない事に加え、普段からの挨拶は実習生としての資質にかかわることであるから、十分に注意されたい。

評価方法
課題状況60%、出席態度30%、その他（実習への意欲・実習状況など）10%を総合して判断する。

教科書	参考図書
特になし	保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
毎回出席をとり、無断欠席があった場合や遅刻が多い場合は原則として実習は受けられない。
病欠、忌引きなどの止むを得ない事情の場合は、必ず教務課に連絡すること。後日担当教員から課題の指示をするので必ず教職・保育職支援センターに聞きに行くこと。（欠席課題の他に、次回までの共通課題がある場合がある）。
この授業は、オーストラリア留学を終え帰国したら、保育所実習に引き続き実施する予定であり、集中的に授業を行うことがある。その事を踏まえ、個人的な予定を入れる時は注意する。感染症が多い時期であるので、欠席が重ならないよう健康に留意する。

01	オリエンテーション、施設実習について、細菌検査について
02	自己課題、自己覚知について
03	施設の種別に関する調べ学修(AL)
04	実習日誌の書き方
05	指導計画の書き方
06	傾聴について
07	直前指導・実習に臨む心構え
08	事後指導、成績開示
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OK21S0012　子ども理解の理論と方法	担当者:ダーリンプル 規子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
本科目は、保育・教育において基盤となる子ども理解について、その理論を学ぶ。特に、子どもは様々な関係性の中で生きているという視点について学習する。そのうえで、様々な事例（エピソード記録）・映像資料等を通して、幼児理解の方法をグループディスカッション及びプレゼンテーションを通して学ぶ。コミュニケーションシートを使っての質疑応答を行う。【AL】

授業の到達目標
１．幼児理解の様々な理論の視点について理解する(DP1)。
２．観察及び記録そして幼児理解の意義を理解する(DP1)。
３．観察や記録から、周りの幼児との関係やその他の背景を鑑み、幼児について理解することができるようになる(DP2)。

【到達目標と深く関連する学科DP】DP1：幅広い視野と知識と教養　DP2：保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
最初の授業時に、各授業における資料や参考図書について説明をする。該当の授業の前には、それらの資料・図書を読んでおくこと（２～３時間）。また、事後学修としては、課題レポートを完成させておくこと（１時間）。

評価方法
ルーブリックの視点から、授業態度(１０％)、課題（３０％）、発表(１０％)、定期試験(５０％)で総合的に評価する。課題のフィードバックは、個々にコメントを書くとともに、必要に応じて、全体へも伝える。

教科書	参考図書
適宜資料を配布する	「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「幼稚園教育要領解説」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問等ある場合は、授業前後・オフィスアワーを使うか、私の部屋まで来てください。

01	オリエンテーション、「君が僕の息子について教えてくれたこと」から「理解」について学ぶ
02	乳幼児精神保健からの乳幼児理解：間主観性、愛着、関係性、やりとりの重要性
03	脳科学から見た乳幼児理解
04	あそびの重要性、子どもの行為の意味の探究
05	海外の保育における乳幼児理解
06	観察力・記録力・考察力・内省力と関わり
07	ロバートソンフィルム「ジョン」を見て、読み解く
08	ロバートソンフィルム「ルーシー」を見て、読み解く
09	エピソード記録：意義、事例を読み解く(グループディスカッション)
10	各グループによるプレゼンテーション
11	エピソード記録を書く
12	エピソード記録についてのカンファレンス(グループ活動)
13	カンファレンスについての振り返りの発表
14	ドキュメンテーション：エピソード記録からドキュメンテーションを書く
15	ドキュメンテーションの発表
16	定期試験

2024年度シラバス

科目名:OK22S0005　子ども家庭支援論	担当者:武藤 直子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育士・保育園長
具体的な事例検討で、子育て家庭の支援の在り方を学び理解を深め実践力を高めていく（AL）。子育て家庭を取り巻く様々な問題や課題を抱えている子育て家庭の現状把握と支援策を学びながら、保育所や地域の子育て家庭のニーズや社会的課題を踏まえた支援ができるよう理解を深めていく。

授業の到達目標
①子育て家庭を取り巻く現状を把握し、子ども家庭支援の意義と保育者の役割について理解する（DP）。子育て家庭の支援体制について理解する（DP）。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と保育所や地域との連携について理解する（DP）。
【到達目標と深く関連する学科DP】◎幅広い視野と知識と教養　○保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
子どもを取り巻く状況に関心を持ち、子育て家庭の実態と課題を把握し、子育て支援に関連する専門職として必要な知識について自らの学びを確認しながら、授業内容を幅広い知識をもって学ぶようにする。予習復習をして、教科書に記された大切な用語等を理解し覚えておく事。居住地の子育て家庭の状況や支援対策を知っておくこと。子育て支援センター等に出向き、親子のかかわり方を観察したり、保護者の子育て観や子育ての悩みを聞き、子育て支援についての学びを深めること。

評価方法
筆記試験（８０％）、授業への参加態度・レポート・提出物（２０％）。フィードバックは毎回の授業ノートに学び、感想や質問を記載。筆記試験は希望者に開示、それ以外のレポートや提出物の評価については、評価の基準内容を第１回目授業に示し、評価して返却する。

教科書	参考図書
学ぶ・わかる・みえる　保育と子ども家庭支援論　第2版（編）石動瑞代　（みらい）	＜29年告示＞保育所保育指針、　幼稚園教育要領、　幼保連携型認定子ども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
新聞等の報道による子育て家庭に関連した記事に関心を持ち、子育て家庭の現状をより理解するよう努めましょう。自身のワークライフバランスを考えた時にどのような支援が必要か考えてみましょう。連絡はメールで行います。　研究室740２。mutohn@ohkagakuen-u.ac.jp

01	授業概要及び評価方法等の説明、子ども家庭支援とは
02	子どもと家庭を取り巻く環境
03	保育者が実践する子ども家庭支援①
04	保育者が実践する子ども家庭支援②
05	子育て家庭を支える法・制度・社会資源
06	保育者に求められる基本的態度・技術
07	保育者が行う子ども家庭支援の実際①
08	保育者が行う子ども家庭支援の実際②
09	地域の子育て家庭への支援
10	さまざまな子ども家庭の理解と支援
11	不適切な養育環境の子どもやその家庭への支援
12	発達障害児等の理解と家庭への支援
13	子どもの貧困の理解と家庭への支援
14	ソーシャルワーク・小学校との接続
15	まとめ・今後の課題と保育者としての支援の在り方
16	定期試験

科目名:OK21S0006　社会的養護Ⅰ	担当者:小尾 康友	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
近年、児童虐待事件がメディアにも大きく取り上げられ、重要な社会問題として注目されている。社会的養護の意義はより一層高まっているが、課題も多く残っている。本講義では、社会的養護に関する基礎知識を学びながら、地域支援・子育て環境の現状と課題について検討、考察していく。
講義（パワーポイント使用）を中心とするが、クラス内で意見交換を行うことで理解を深めると共に考える力を養っていく。【AL】
【担当者の実務経験】児童心理治療施設・児童養護施設職員・地域支援・居場所事業等
　子ども・家族への支援の実際や直面している課題について触れながら、実践的な考察を行う。

授業の到達目標
社会的養護に関する基礎知識を習得する。(DP)
児童虐待やその他の困難に直面する子ども・家族の実態や課題について理解する。(DP)
子どもや家族への支援の在り方や課題について多角的に理解する。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
各自、配布資料を用いて自己学習し、基礎知識の習得に努力すること。また、児童関連の文献やネット・メディアなどで学生自身で情報収集を心がける。
特に「児童虐待」「愛着：アタッチメント」「発達障害」についての情報、基礎知識を頭に入れておくと授業内容の理解と考察がより一層深まる。

評価方法
確認テスト：60%　レポート：20%　授業への参加姿勢（コメントシート、発言、態度など）：20%
授業後、コメントシートなどで出た質問や疑問については、翌授業または第14回総括にてフィードバックする。

教科書	参考図書
なし（必要に応じてプリントを配布する）	保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問などは授業前後またはメールにて受け付ける。

01	オリエンテーション(社会的養護とは)
02	児童福祉法の理解
03	児童虐待の現状と課題
04	治療的養育の理解（援助技術）
05	対人援助技術（子どもへの関わり方）
06	アセスメント（ジェノグラム）
07	アセスメント（問題行動の背景）
08	児童養護施設の現状と課題
09	家庭養護（地域支援、セーフティネットワークの必要性）
10	家庭養護（里親支援の理解）
11	施設養護（各機関の理解①）
12	施設養護（各機関の理解②）
13	施設養護（各機関の理解③）
14	総括（リフレクション、フィードバック）
15	まとめと確認テスト
16	試験なし

科目名:OK22S0007　社会的養護Ⅱ	担当者:上田 一稔	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　本授業は保育学部の教育・保育の本質・目的に関する科目に配置された専門教育科目であり、子どもを社会的に養護していくための知識や技術について学修する。具体的には施設養護と家庭養護の特性把握、個々の子どもに応じた支援計画の作成、日常生活支援・心理的支援・自立支援の方法を理解し、保育者としての支援力を習得する。授業は毎回演習方式で少人数のグループを作り、各事例に対してグループワークを行う。

授業の到達目標
1. 社会的養護における子どもの権利擁護について理解する。
2. 施設養護および家庭養護の役割や機能について理解する(DP)。
3. 個々の子どもに応じた個別支援計画書の作成の意味と留意点を理解する(DP)。
4. 社会的養護における保育士の専門性を学び、支援者としての援助実践力を身に付ける(DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育のあり方について考察する力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　社会的に養護を必要とする子どもを支援する保育者は、適切な支援および技術を習得する必要がある。したがって、社会的養護に関連する文献(虐待・障害・貧困等)を読み、児童福祉施設でのボランティア活動および見学(1回4時間程度)を行うなどして研鑽することを推奨する。

評価方法
確認テスト(40%)、授業への参加態度(30%)、レポート(30%)により総合的に評価する。
・レポートは提出期限後に模範解答を示し、授業時の演習課題は毎回参考解答を示し解説する。
・最終授業時に全8回の授業のフィードバックを行う。

教科書	参考図書
授業時に資料配布するため、教科書は指定しない。適宜参考文献等を紹介する。 「保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領」	保育所保育指針。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　日頃から子どもを取り巻く報道(虐待・障害・貧困等)に関心を寄せ、自分自身の見解を持ち、授業時に発表できるようにする。授業後30分をオフィスアワーとする。連絡先は授業時に開示する。

01	オリエンテーション・子どもの権利擁護
02	施設養護の特性および実際①(乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設)
03	施設養護の特性および実際②(障害児施設・児童自立支援施設・情緒障害児短期治療施設)
04	家庭養護の特性および実際
05	社会的養護の内容(日常生活支援・心理的支援・自立支援)
06	個別支援計画の作成(自立支援計画・障害児支援計画)・記録および自己評価
07	社会的養護における保育士の専門性および相談援助の知識と技術の実践
08	社会的養護の課題および展望・確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OK22S0011　子ども家庭支援の心理学	担当者:森山 雅子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
子どもは社会に生まれ、社会の中で発達していきます。子どもにとって最初に出会う最も重要な意味を持ち身近な社会が家庭です。家庭の中での保護者やきょうだいなどとの様々な相互作用を通して子どもは発達していきます。そのような家庭における子どもの発達と家族の役割について深く理解し、保育の場で実践する際の自分なりの視点を持つことを目指します。授業方法は視覚資料を使用し、一斉授業及びVTR資料を用いたグループ・ワークを行います。【AL】

授業の到達目標
１．生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解し説明することができる（DP）
２．家庭・家族の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得し説明することができる（DP）
３．子どもの精神保健とその課題について理解し説明することができる（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
【準備学習】あらかじめMoodleにアップされている配布資料を読み、疑問点を確認し、自ら調べ、考えた内容を記録する。（2時間）
【事後学習】Moodleを通して各授業ごとの課題を提出するとともに、理解が不十分な点を教員に確認し、自ら調べてまとめなおす。（2時間）

評価方法
確認テスト（50%）、授業への取組意欲（20%）小レポート（30%）により総合的に評価する。授業において提示した課題（確認テスト、レポート等）に対しては、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案、論文などの紹介をする。

教科書	参考図書
小原倫子・小林佐知子編著(2024)　エピソードから学ぶ　子ども家庭支援の心理学　ミネルヴァ書房	保育所保育指針及び解説（平成29年告示版）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
【連絡方法・オフィスアワー】授業で開示する。【資料提示・課題提出】Moodleで受け付ける。【その他】授業に関する積極的な質問や主体的な授業参加を歓迎します。常に疑問や関心を持ちながら受講し、教育や保育にどのように活かせるのかを一緒に考え続けていきましょう。連絡先等の詳細は初回の授業内で伝えます。

01	生涯発達とは何か
02	乳幼児期の発達
03	児童期の発達 児童期の発達
04	青年期の発達
05	成人期・老年期の発達
06	家族・家庭の意義と機能 子育てを取り巻く社会状況
07	家族関係・親子関係の理解
08	子育て経験と親としての育ちの理解と支援
09	子育ての社会状況の理解と支援
10	多様な家庭への理解と支援
11	特別な配慮を要する家庭への理解と支援
12	子どもの生活・生育環境の理解と支援
13	子どもの心の健康への理解と支援
14	子どもの障がい一発達障がいへの理解と支援
15	確認テストおよび解説とフィードバック、まとめ
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK21S0014　特別支援基礎論	担当者:藤井 七瀬	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
インクルーシブ教育システムの制度を理解し、様々な障害のある幼児・児童・生徒の理解および支援についての知識を身につける。また、母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児・児童・生徒への困難さについても理解を深める。

授業の到達目標
①インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解する。[DP]
②発達障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解する。[DP]
③視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付ける。[DP]
④母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解する。[DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
教科書を読み、授業内容について予習をする。
また、障害のある子どもにかかわるテレビや新聞、ネットの記事などに着目するようにしておくこと。

評価方法
試験（60%）、授業への参加態度（40%）、により総合的に評価する。

教科書	参考図書
特別の支援を必要とする子どもの理解―共に育つ保育を目指して―（勝浦眞仁編著、ナカニシヤ出版）	幼稚園教育要領および解説、保育所保育指針および解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育者や教師を目指すにあたり、障害や特別支援教育に関する知識を理解し、特別の支援を必要とする子どもへの支援・理解について考えを深めてほしい。
【連絡先】藤井七瀬 fujiin@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション、障害とは、特別支援教育（インクルーシブ教育システム）の理念
02	発達障害児（自閉症、ADHD、LD）の理解・支援
03	知的障害児の理解・支援
04	視覚障害児・聴覚障害児・言語障害児の理解・支援
05	肢体不自由児・病弱児の理解・支援
06	特別な教育的ニーズのある子どもの理解・支援①（気になる子ども、不登校、被虐待）
07	特別な教育的ニーズのある子どもの理解・支援②（外国籍、貧困、性別違和）
08	海外の特別支援教育、本講義のまとめ・試験
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OK22S0101　保育内容指導法（健康）	担当者:木村 達志	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
幼稚園教育要領の領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康な心とからだを育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身に付ける。特に、乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発育・発達、運動発達の特徴の理解を深め、適切な指導方法を身に付ける。

授業の到達目標
（１）幼児期の健康課題と健康の発達的意味を理解する(DP)。
（２）幼児期のからだの諸機能の発達と生活習慣の形成を理解する(DP)。
（３）安全な生活と怪我や病気の予防を理解し、適切な指導方法を身に付ける(DP)。
（４）幼児期の運動発達の特徴と意義を理解し、適切な指導方法を身に付ける(DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として、シラバスの内容に関係する健康や運動の情報について予習しておくと良いです。事後学修として、他のグループが行った模擬保育の指導案やそれ対するコメントシートを、実習などで活用できるように自分でまとめを行ってください。

評価方法
①授業への取り組みに対する意欲や態度（30%)、②グループワークによる指導計画の立案とコメントシートへの記入（40%)、③模擬保育の実践（30%)
最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

教科書	参考図書
指定なし	新版　遊びの指導、同文書院

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡は t-kimura@ohkagakuen-u.ac.jp まで

01	保育における「健康」とは 幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域「健康」のねらい及び内容の理解
02	基本的生活習慣の形成を支える援助：食事、排せつ、睡眠、着脱衣、清潔の習慣形成を支える環境構成と援助
03	健康管理と安全能力を育む援助
04	健康な心と体を育む保育の構想（計画立案1)ー健康指導、安全指導を中心とした具体的な保育場面を想定した指導
05	健康な心と体を育む保育の構想（教材研究1）ー健康指導、安全指導の実際
06	健康な心と体を育む保育の実践（模擬保育1)ー幼児の動機付けや意欲などを配慮した健康指導、安全指導の在り方
07	健康な心と体を育む保育の評価と改善1（模擬保育の振り返り）
08	多様な動きの経験を促す援助：遊びや生活の中の動きの経験を促す環境構成と援助
09	領域「健康」における心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助
10	健康な心と体を育む保育の構想（計画立案2)ー運動遊びについて
11	健康な心と体を育む保育の構想（教材研究2）ー運動遊び指導の実際
12	健康な心と体を育む保育の実践（模擬保育2)ー運動遊び指導の実際
13	健康な心と体を育む保育の評価と改善2（模擬保育の振り返り）
14	幼児期に育まれる健康な心とからだと小学校とのつながり「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
15	幼児を取り巻く現代的課題を踏まえた健康な心と体を育む活動
16	まとめ

科目名:OK22S0102　保育内容指導法（人間関係）	担当者:ダーリンプル 規子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
子どもは誕生後、様々な人と出会い、関わり、繋がっていく。その過程で、共感・葛藤などいろいろな思いを体験し、自己と他者、個と集団に気付いていく。これらの具体的な子どもたちの姿を事例(エピソード記録やVTR等)を通して学ぶ。特に、多文化共生社会に生きる子どもたちに必要な異文化理解の視点をグループで討議を通して学び、これらの視点を基に、保育を構想する方法を修得する。【AL】

授業の到達目標
１．子どもと保護者の信頼関係の基盤に、保育者との信頼関係が園での生活の重要な基礎になることを理解する(DP1)。
２．子どもの、主体的な友達との関わり、試行錯誤しながらの人間関係力の育ちには、保育者の役割が重要であることを理解し、援助のあり方を考えられるようにする(DP2)。
３．人が尊重しあい、共感しあう関係を築いていくうえで、異文化理解の視点が必要であることを理解する(DP4)。

【到達目標と深く関連する学科DP】DP1：幅広い視野と知識と教養　DP2：保育のあり方について考察する力DP4：多文化共生の視点からの異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業時までに、関連する教科書の箇所・資料を熟読する。時に、事前課題を出すこともある。（２～３時間）また、事後学修として、課題レポートを完成させておくこと（１時間）。

評価方法
ルーブリックの視点から、定期試験（50%）、プレゼンテーション（20%）、課題（20%）、授業への参加態度（10%）で総合的に評価する。課題のフィードバックは、個々にコメントを書くとともに、必要に応じて全体へも伝える。

教科書	参考図書
「事例で学ぶ保育内容　領域　人間関係」無藤隆監修　萌文書林	「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「幼稚園教育要領解説」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問等ある場合は、授業前後・オフィスアワーを使うか、私の部屋まで来てください。

01	オリエンテーション、幼児と人間関係の学びから保育内容指導法「人間関係」へ
02	幼児教育・保育の基本
03	子どもと保育者の関わり：子どもの行為・思いと保育者の行為・思いを考える
04	子どもと保育者の関わり：事例検討（グループディスカッション）
05	子どもと保育者の関わり：プレゼンテーション
06	子どもと保育者の関わり：多文化共生社会に生きる子どもたち
07	子どもの人間関係の育ちにおける遊びの重要性
08	遊びの中の人とのかかわり：事例の分析
09	個と集団の育ち：リョウガ君のビデオを見て
10	人とのかかわりを見る視点：自立と依存
11	人との関わりを見る視点：協働・地域の一員として
12	人間関係に焦点を当てた保育構成を考えるーグループによる指導案作成ー
13	指導案についてのプレゼンテーションと討議
14	幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育保育要領をひもとく
15	保育実践の動向：幼児教育の現代的課題と領域人間関係の重要性
16	定期試験

2024年度シラバス

科目名:OK22S0105　保育内容指導法（表現）	担当者:田端 智美、石山 英明	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
幼稚園教育要領等の領域「表現」を理解するとともに、主に保育士・幼稚園教諭における指導者の立場として音楽・造形等に関する知識を得る。子どもの表現に関する理論を学ぶ。また子どもと豊かに関わり育ちを支えるための表現力を磨き他者と協力して創意工夫することを学ぶ。

授業の到達目標
自分が表現するだけでなく、子どもに対してどのように指導を行えばよいのかを授業全体を通して考え、模擬授業ができるまでの技術を身につける。また保育における豊かな感性や表現する力を養い、想像力を豊かにする。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎多様な支援を行うのに必要な力・多様性を受け入れる能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：表現における各年齢の発達について、今までの実習の子どもの姿を鑑み、ノート等にまとめることを勧める。
事後学修：各回の授業において、情報機器を用いてポートフォリオにまとめる

評価方法
レポートおよび課題40%･試験40%・授業態度20%。フィードバックについて授業シートを記入

教科書	参考図書
幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 保育所保育指針解説書	『楽しさはじける表現遊び』

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
学生へのアドバイス：子どもの表現について自ら楽しんで授業に積極的に参加してください。
連絡手段：tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション・授業紹介・授業の受け方・ポートフォリオの作り方説明　表現とは？
02	子どもの音楽・造形等表現について1(幼稚園教育要領等の目標と内容)
03	子どもの造形等表現について1（0－3歳児の表現について映像等を用いて育ちを考える）（担当:田端）
04	子どもの造形等表現について2（4－5歳の表現について映像等を用いて育ちを考える）（担当：田端）
05	子どもの造形等表現について3（幼稚園教育の評価・小学校の教科とのつながり）（担当：田端）
06	子どもの音楽等表現について1（0－3歳児の表現について映像等を用いて育ちを考える）（担当:石山）
07	子どもの音楽等表現について2（4－5歳の表現について映像等を用いて育ちを考える）（担当：石山）
08	子どもの音楽等表現について3（幼稚園教育の評価・小学校の教科とのつながり）（担当：石山）
09	造形等の指導法１（環境の構成や言葉がけ）（担当：田端）
10	造形等の指導法２（幼児の表現に至るプロセス）（担当：田端）
11	音楽等の指導法１（環境の構成や言葉がけ）（担当：石山）
12	音楽等の指導法２（幼児の表現に至るプロセス）（担当：石山）
13	模擬授業1（指導案作成）
14	模擬授業2（模擬保育　保育者と子どもの立場でロールプレーイング）（AL）
15	模擬保育3（模擬保育のまとめ・ＩＣＴを用いて発表・振り返り）（AL）
16	定期試験

科目名:OK21S0017　教育の方法	担当者:内田 将平	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　この授業では、小学校・幼稚園における教育の方法・技術についての講義を行う。その際、適宜、小学校・幼稚園における実践記録を読んだり、実践場面のビデオを見たりする。MoodleやTeamsを活用した相互意見交流の機会を設ける【AL】。また本授業では、適宜、講義内容をオンデマンド配信し見逃すことがないように努める。さらに毎回の講義の冒頭で前回の復習を行う。

授業の到達目標
①幼稚園教育の方法・技術を理解する(DP)。
②小学校との連携についてその方法・技術を理解する(DP)。
③小学校の教育の方法・技術について理解する(DP)。
④教育・保育におけるICTの活用方法を理解する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　日頃から保育・教育に関する新聞（ネットニュースを含む）スクラップ等を行い、各自の興味関心のある分野の情報収集を行うようにしてください。またグループディスカッションに参加する際には、事前に必ず講義動画を視聴し基礎的な学習内容を各自で把握するだけでなく、予習課題にも取り組み、フォーマットに則り資料を作成してきてください。グループディスカッションでは、相互に意見交流する活動を通して、異なる考え方に触れ、視野を広めるように努めてください。

評価方法
授業への取り組み・意欲 40%　 確認テスト 60%
最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。
※確認テスト実施日に欠席した場合は、各回(2~14回)のノートテイクをzipファイル形式でまとめて提出してもらいます。そのうえで確認テストと同等のレポート課題を課します。

教科書
特に使用しない。

参考図書
幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領及びそれらの解説。その他、講義内で適宜指示をする。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　MoodleやTeams等を活用した授業資料や課題の提示、相互意見交流の機会を設けます。講義にはPCが必携です。オフィスアワーや連絡先は初回講義で伝えます。

01	オリエンテーション
02	教育方法・技術の理論
03	西洋における教育思想と教育方法の歴史
04	日本における教育改革と教育改革の歴史
05	授業研究の歴史
06	教室言語
07	資質・能力の育成と教育方法
08	情報活用能力の育成
09	学習評価
10	授業づくり・技術とICTを活用した学習指導
11	「子どものための哲学（Philosophy for Children, P4C）」の方法論
12	諸外国の教育方法
13	パンデミック禍の学びと教育実践－学校の困難と変容の検討－
14	教職の専門性
15	確認テストおよび解説とフィードバック
16	試験なし

2024年度シラバス

科目名:OK21S0201　幼児と健康	担当者:寺田 恭子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身に付ける。具体的には、乳幼児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達等において、乳幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解する。授業ではICTの活用、協働学習も行う（AL)。

授業の到達目標
((①乳幼児期の健康課題と健康の発達的意味を理解し、説明できる（DP)。
②乳幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解し、説明できる（DP)。
③安全な生活と怪我や病気の予防を理解し、説明できる（DP)。
④乳幼児期の運動発達の特徴と意義を理解し、説明できる（DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・乳幼児を取り巻く社会状況に関する情報には常に関心を持つようにする。
・授業の事前事後に幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説をしっかりと確認し、理解を深めるように努める。
・実習等で乳幼児と関わる機会を積極的に活用し、乳幼児の心身の発達、基本的生活習慣を理解することに努める。

評価方法
①授業への取り組みに対する意欲や態度（40%）、②発表・レポート（30%）、③講義内容に関する筆記試験（30%）　学生へのフィードバックはリアクションペーパーを使用します。

教科書	参考図書
担当教員作成の資料を使用する。	幼稚園教育要領及び解脱、保育所保育指針及び解脱、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解脱

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・授業においてパソコンを使用し、資料の閲覧を行うこともある。
・授業形態としては、各自でまとめた課題レポートを基にグループで話し合ったり、話し合った内容を発表し合ったりする参加型の学習活動を重視する。
・質問や相談等の連絡手段　terada@ohkagakuen-u.ac.jp

01	乳幼児の健康問題 乳幼児期の生活習慣（着脱衣、食事、睡眠、清潔、排泄）の形成 幼児の安全教育と危険 幼児期の怪我や事故の特徴と応急処置・病気の予防 乳幼児期の運動発達の特徴 日常生活における運動 遊びとしての運動 乳幼児期の健康課題
02	領域「健康」について
03	乳幼児期の身体の発達的特徴
04	乳幼児期の生活習慣の形成
05	乳幼児期の運動発達の特徴、社会性の発達
06	日常生活における運動
07	遊びとしての運動
08	幼児の安全教育と健康管理
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OK21S0202　幼児と人間関係	担当者:ダーリンプル 規子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
本科目では、保育においてその命と成長を保障すべき、乳幼児という存在が、人とのかかわりの中で、成長していく様子について学ぶ。その時に重要なことを学ぶ。そして、家庭から園や地域へと活動範囲が広くなるにつれて、関わる人たちも増え、社会性が育まれていく様子を事例や映像を通し学ぶ。グループディスカッションで学生同士の意見を分かち合うとともに、コミュニケーションシートを使って質疑応答を行う。【AL】

授業の到達目標
１．乳幼児の育ちに、安心・安全を培う養育者との相互交流が重要であることを理解する(DP2)。
２．様々な人とのかかわりの中で、社会性が育つことを理解する(DP1)。

【到達目標と深く関連する学科DP】DP1：幅広い視野と知識と教養　DP2：保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業時までに、関連する教科書・資料等を熟読するとともに、課題に取り組む（２～３時間）。事後学修では、課題レポートを完成させる(１時間)。

評価方法
ルーブリックの視点から、最終レポート（50%）、課題（40%）、授業への参加態度（10%）で総合的に評価する。課題のフィードバックは、個々にコメントを書くとともに、必要に応じで全体へも伝える。

教科書	参考図書
「事例で学ぶ保育内容　領域　人間関係」無藤隆監修　萌文書林	「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「幼稚園教育要領解説」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問等ある場合は、授業前後・オフィスアワーを使うか、私の部屋まで来てください。

01	オリエンテーション、人を求めて生まれてくる赤ちゃん　人間関係って？
02	自分自身を見つめることと他者・他者との関係について考えること
03	乳幼児の人とのかかわりの中での発達を考える
04	親や家族との出会いと関わり：事例を読んで
05	保育者との出会いと関わり：リョウガ君のビデオを見て
06	保育者との出会いと関わり：安心な場所と人を得て
07	友達との出会いと関わり：対等な他者に出会う
08	友達との出会いと関わり、課題テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OK21S0005　幼児と表現	担当者:田端 智美、石山 英明	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
身体・造形・音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶ。自らも表現する事によって、幼児の表現を支えるための感性の素地を身につける。また協働して表現することにより他者の表現を受け止め共感する力を身につける。これらのことを通し、幼児の表現活動に展開する力を身につける。

授業の到達目標
幼児の表現する姿や、その発達を理解する。（DP）
表現遊びや環境構成などの知識･技能、表現力を身につける。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：授業で使用する素材等を準備し、特性を調べる。
事後学修：授業のドキュメンテーションを作成し、実際の保育に役立つ様にする。

評価方法
レポート及び課題・表現活動40％　ポートフォリオ40％　授業態度20％フィードバックについて授業シートを記入

教科書	参考図書
幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 保育所保育指針幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領	幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 保育所保育指針 授業内で指示

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日頃から身体・造形・音楽表現を自ら楽しんでください。
田端：tabata@ohkagakuen-u.ac.jp
石山：isiyama@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション・幼児の表現の特性（具体的事例を通して）（石山・田端）
02	第２回：身近な素材を用いた表現活動１（絵本を製作する事を通して自然を伝える）（田端）
03	第３回：身近な素材を使った表現活動２（絵本を製作する事を通して文化を伝える）（田端）
04	第４回：身近な素材を使った表現活動３（壁面を製作する事を通して季節を伝える）（田端）
05	第５回：身近な素材を使った表現活動４（手作り楽器をつくって合奏を楽しむ）（石山）
06	第６回：身近にある「音」を探す（生活を取り巻く音を採取し鑑賞を楽しむ）（石山）
07	第７回：音と身体表現（音や音楽に合わせた身体表現を楽しむ）（石山）
08	第８回：まとめと振り返り　ICTを用いたポートフォリオの作成（石山・田端）（AL）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OK21S0011　幼児音楽C	担当者:石山 英明	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どものための音楽活動に関する基礎技術として、ピアノ・幼児歌曲の弾き歌いの技能、及び音楽理論の基礎（楽典）を学ぶ。それにより、より望ましい保育のあり方について考察し身につける（DP)。また、子どもの発達と音楽を中心とする表現活動を理解し保育・幼児教育を展開できるようになる。また、どうしたら学生自らの力で音楽・音楽表現及び指導力を高めていけるかの道筋を示し、様々な角度から音楽について学ぶ。授業は、クラスをグループに分け、レッスンとグループワークを行う。

授業の到達目標
幼児の表現及び音楽活動の援助を円滑に行うために、課題の習得による音楽的なピアノ演奏及び幼児歌曲の弾き歌いが出来るようにする。ピアノ演奏の初心者は、バイエル80番程度と、同程度までの楽曲、既修者は更に上のレベルを目指す。楽典とソルフェージュ、幼児歌曲の弾き歌いなども同時に学び、楽典の範囲は音階の理解までとする。
【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎日、楽器に触れ、練習する習慣を身に付けましょう。また、日常の中から、音や音楽・表現に関する場面に関心を持つようにしましょう。

評価方法
弾き歌い実技(50%)、実技担当教員の評価による平常点(20%)、楽典(30%)で評価する。平常点は、実技担当教員が、学習意欲、目標到達度、積極性を評価するものである。弾き歌い実技は、発表会において教員が個々の演奏を評価する。課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。

教科書	参考図書
「歌のカレンダー」、「ピアノ実技と楽典」	楽譜のほか、音源なども参考にしましょう。幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説書。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
音楽に興味を持ち、楽しみながら練習することが上達の近道だと思います。
連絡はisiyama@ohkagakuenn-u.ac.jpまで。

01	ガイダンス、授業概要、レッスン
02	弾き歌い（季節の歌）、ピアノ曲
03	弾き歌い（世界の歌、英語の歌）、ピアノ曲
04	弾き歌い（日本の歌、わらべうた）、ピアノ曲
05	弾き歌い（コード弾き、カデンツ）、ピアノ曲
06	弾き歌い（簡易伴奏、編曲）、ピアノ曲
07	弾き歌い（初見、移調奏）、ピアノ曲
08	実技試験とまとめ
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OK22S0012　幼児音楽D	担当者:石山 英明	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どものための音楽活動に関する基礎技術として、ピアノ・幼児歌曲の弾き歌いの技能、及び音楽理論の基礎（楽典）を学ぶ。それにより、より望ましい保育のあり方について考察し身につける（DP)。また、子どもの発達と音楽を中心とする表現活動を理解し保育・幼児教育を展開できるようになる。また、どうしたら学生自らの力で音楽・音楽表現及び指導力を高めていけるかの道筋を示し、様々な角度から音楽について学ぶ。授業は、クラスをグループに分け、レッスンとグループワークを行う。

授業の到達目標
幼児の表現及び音楽活動の援助を円滑に行うために、課題の習得による音楽的なピアノ演奏及び幼児歌曲の弾き歌いが出来るようにする。ピアノ演奏の初心者は、バイエル80番程度と、同程度までの楽曲、既修者は更に上のレベルを目指す。楽典とソルフェージュ、幼児歌曲の弾き歌いなども同時に学び、楽典の範囲は音階の理解までとする。
【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎日、楽器に触れ、練習する習慣を身に付けましょう。また、日常の中から、音や音楽・表現に関する場面に関心を持つようにしましょう。

評価方法
弾き歌い実技(50%)、実技担当教員の評価による平常点(20%)、楽典(30%)で評価する。平常点は、実技担当教員が、学習意欲、目標到達度、積極性を評価するものである。弾き歌い実技は、発表会において教員が個々の演奏を評価する。課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。

教科書	参考図書
「歌のカレンダー」、「ピアノ実技と楽典」	楽譜のほか、音源なども参考にしましょう。幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説書。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
音楽に興味を持ち、楽しみながら練習することが上達の近道だと思います。
連絡はisiyama@ohkagakuenn-u.ac.jpまで。

01	ガイダンス、授業概要、レッスン
02	弾き歌い（季節の歌）、ピアノ曲
03	弾き歌い（世界の歌、英語の歌）、ピアノ曲
04	弾き歌い（日本の歌、わらべうた）、ピアノ曲
05	弾き歌い（コード弾き、カデンツ）、ピアノ曲
06	子どもの音楽活動についての発表会①実践
07	子どもの音楽活動についての発表会②考察
08	実技試験とまとめ
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OK21S0018　子どもの保健	担当者:木村 達志	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どもの保健では、子どもの健やかな成長や発達、病気の特徴や予防法などを学びます。この講義では子ども達の健全な成長を支援するため、子どもの保健の意義を理解し、発育（月齢や年齢）にともない変化する身体的な特徴、生理機能、運動機能や精神機能（社会性）の発達、子どもの疾病とその予防について学びます。

授業の到達目標
1.子どもの身体発育、生理機能、運動機能、疾病などに関する幅広い知識を習得し、体系的・総合的に理解を深める(DP)
2.ICT スキル（PC を用いて学習を展開するスキル）の基礎を獲得する(DP)
【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
子どもの保健で覚えるべき内容が多く、その知識を確実なものとするため、授業外での復習を必ず行って下さい。子どもを取り巻く社会状況に関する情報には常に関心を持って下さい。

評価方法
授業への取組20%、授業内での提出物30%、学期末試験50%
最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

教科書	参考図書
保育者のためのわかりやすい子どもの保健（日本総合医学社）	幼稚園教育要領及び解説、保育所保育指針及び解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡は t-kimura@ohkagakuen-u.ac.jp まで
Moodleを利用しますので、毎週の授業時にノートパソコンを持参してください。
自身の母子健康手帳があれば、手元に用意しておいて下さい。
授業内容を実習などで応用するため、実習のタイミングに合わせ授業計画を変更する場合があります。

01	ガイダンスおよび子どもの保健の現状、保健水準
02	子どもの発育発達、子どもの健康管理
03	子どもの貧困、エコチル調査
04	子どもの死亡率を低下させる方策
05	胎児の形態発達、DOHaD仮説
06	年齢階級別の死因、低出生体重児とは
07	虐待の防止と支援
08	発育と発達の評価　成長曲線、統計用語の理解
09	子どもの運動機能の発達、スキャモンの臓器別発育曲線
10	子どもの生理機能の発達、体温調節、熱中症予防
11	幼児が身につけるべき基本的生活習慣、子どもの歯牙の発達
12	子どもの健康状態の観察
13	感染症の種類と予防(AL)
14	感染症対策(AL)
15	子どもに多い疾患、アレルギー
16	まとめと試験

2024年度シラバス

科目名:OK22S0019　子どもの健康と安全	担当者:木村 達志	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どもの健康及び安全は、子どもの生活の基本である。この授業では、子どもの健康管理や安全の確保について、関連するガイドラインなどを参照しながら学習を進めていく。安全の確保の一環として防災についても学習する。

授業の到達目標
1.保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する(DP)。
2.関連するガイドライン等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する(DP)。
3.子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する(DP) 。
4.子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する(DP) 。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育のあり方について考察する力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
子どもの保健で覚えるべき内容が多く、その知識を確実なものとするため、授業外での復習を必ず行って下さい。子どもを取り巻く社会状況に関する情報には常に関心を持って下さい。

評価方法
授業への取り組み（30%)、プレゼンテーション課題、提出物（30%)、講義内容に関する筆記試験（40%)
最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

教科書	参考図書
保育者のためのわかりやすい子どもの保健（総合医学社）、 前期の子どもの保健で使用したもの	厚生労働省のホームページにある各種のガイドライン

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡は t-kimura@ohkagakuen-u.ac.jp まで
Moodleを利用しますので、授業時にノートパソコンを持参してください。

01	子どもの健康と安全とは、オリエンテーション
02	不慮の事故、現場での事故対応
03	保育所における感染症対策ガイドラインなど(AL)
04	感染症などに関するプレゼンテーション(AL)
05	教育・保育施設等における安全管理・衛生管理
06	感染症を予防する手洗いの実践(AL)
07	傷害予防、避難訓練、防災訓練
08	まとめと確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OK21S0020　子どもの食と栄養	担当者:辻岡 和代、鈴村 昌子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
１．健康な生活の基本として食生活の意義や栄養に関する基礎知識を学ぶための講義（6回）
２．子どもの発育・発達と食生活、特別な配慮を要する子どもの食についての理解を深める為の演習（6回）
３．グループ学習とプレゼンテーション（3回）

授業の到達目標
１．食と健康がどのように関わっているかを理解できる。【DP】
２．保育者として必要な栄養についての基礎知識や技能、食育、食生活に関する諸問題について理解できる。【DP】
３．保育園、幼稚園、小学校における食育を実践するための基礎的なスキルを身につけ、仲間と協力しながら他者へ伝えることができる。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
自分自身の食生活についての振り返りを常に行ってください。また、食と栄養に関する情報の真偽が自分で判断できるように授業内での学習をもとに積極的に考える力を養ってください。さらに、子どもの食について理解を深めるため、ボランティア活動や実習の際には、園での取り組みをしっかり学んできてください。
具体的な学修活動については、授業内で提示します。（4時間程度）また、提出された課題のフィードバックは、次回授業内での話題提供、提出物の返却、Moodle等を通して行います。

評価方法
授業への参加態度30%、確認テスト40%、プレゼンテーション30%の割合で評価します。

教科書	参考図書
子どもの食と栄養　建帛社	保育所保育指針　等

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問等は、メール、Moodleまたはオフィスアワーで受け付けます。詳細については授業で開示します。

01	子どもの健康と食生活の意義　　（辻岡）
02	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活（１）母乳・育児用ミルク　（辻岡）
03	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活（２）冷凍母乳・離乳食　（辻岡）
04	幼児期・学童期の心身の発達と食生活・家庭や児童福祉施設における食事と栄養　（辻岡）
05	特別な配慮を要する子どもの食と栄養　（辻岡）
06	食育の基本と内容　（辻岡）
07	プレゼンテーションとその活用　（辻岡）　【AL】
08	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（１）炭水化物　（鈴村）
09	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（２）タンパク質　（鈴村）
10	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（３）脂質　（鈴村）
11	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（４）ビタミン　（鈴村）
12	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（５）ミネラル　（鈴村）
13	食事摂取基準　（鈴村）
14	子どもの栄養と生理　（鈴村）
15	総括と確認テスト　（辻岡・鈴村）
16	

2024年度シラバス

科目名:OK22S0021　障害児保育	担当者:山下 直樹	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
１．障がい児保育を支える理念、２． 障がい児等の理解と保育における発達の援助、３．障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際、４．家庭及び自治体・関係機関との連携 、５．障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題 、これらについてDVD等の映像や事例を活用しながら学びます。

授業の到達目標
この授業では、保育者として必要不可欠である、障害のある子どもに対しての理解を深めることを目的とします。また、障がいを持つ子どもを取り巻く理念等の理解を深め、保育現場でできる配慮や環境設定の工夫などを演習を通して体験的に理解します。
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
障がいのある子どもの理解と支援は、授業だけでは学びきれませんから、夏休みなどの長期休暇中に施設や地域でのボランティアなど、積極的に子ども達と関わってください。また障がいのある子どもに関するテレビや新聞・ネットの記事などに普段から着目するようにしてください。

評価方法
授業への参加態度35％　毎時間のワークシート35％　　確認テスト30％

教科書	参考図書
小林徹・栗山宣夫「ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育」　株式会社　みらい	授業時にお知らせします

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
学修が進んでいくと「障がいとは？」「人間とは？」など、色々な「問い」が生じるかもしれません。学生時代にこうした「問い」を持つことは、将来みなさんが保育者になったとき、必ず心の支えとなると思います。

01	障がい児保育とは～障がい児保育における「あたり前なこと」と「特別なこと」～
02	障がいの概念と障がい児保育の歴史的変遷
03	インクルーシブ保育と合理的配慮
04	肢体不自由児の理解と保育における発達の援助
05	知的障がい児の理解と保育における発達の援助
06	視覚障がい・聴覚障がい・言語障がい児などの理解と保育における発達の援助
07	自閉スペクトラム症（ASD）児の理解と保育における発達の援助①
08	自閉スペクトラム症（ASD）児の理解と保育における発達の援助②
09	注意欠如多動症（ADHD）児の理解と保育における発達の援助
10	重度心身障がい児・医療的ケア児の理解と保育における発達の援助
11	その他の特別な配慮を要する子どもへの理解と保育における発達の援助
12	個々の発達を促す生活や遊び
13	保護者や家族に対する理解
14	発達を目指した様々な連携
15	まとめと確認テスト
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK22S0022　乳児保育Ⅰ	担当者:ダーリンプル 規子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
本科目は、保育の中でも乳児の保育に特化し、３歳未満児および３歳児の発達の姿とそれを踏まえた保育の内容・方法を系統的に学ぶ。そして、３歳未満児保育の意義、乳児理解に関する様々な理論等について学ぶ。特に、乳児の具体的な姿を想像しながら学べるように、動画や事例を活用し、また、わらべうた等実践も取り入れる。コミュニケーションシートを使っての質疑応答を行う。【AL】

授業の到達目標
１．乳児保育がなぜ必要か、その意義と目的について理解する(DP1)。
２．乳児保育の現状と課題について理解する(DP1)。
３．３歳未満児の発達を踏まえた保育内容について理解する(DP2)。
４．乳児保育における職員・保護者や地域との連携について理解する(DP2)。

【到達目標と深く関連する学科DP】DP1：幅広い視野と知識と教養　DP2：保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業時までに、関連する教科書の箇所・資料を熟読するとともに、授業に向かう際の目標を決めておくこと。時に、事前課題を出すこともある。（２～３時間）また、事後学修として、課題レポートを完成させておくこと（１時間）。

評価方法
ルーブリックの視点から、定期試験（50%）、課題（40%）、授業への参加態度(10%)で総合的に評価する。課題のフィードバックは、個々にコメントを書くとともに、必要に応じて全体へも伝える。

教科書	参考図書
「改訂5版　資料で分かる乳児の保育新時代」乳児保育研究会編　ひとなる書房	「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問等ある場合は、授業前後・オフィスアワーを使うか、私の部屋まで来てください。

01	オリエンテーション・赤ちゃんって？
02	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷
03	子どもの姿を通しての発達理解と保育（その１：０歳児）
04	子どもの姿を通しての発達理解と保育（その２：１歳児）
05	子どもの姿を通しての発達理解と保育（その３：２～３歳児）
06	3歳未満児の生活（その1：栄養と食事）
07	3歳未満児の生活（その２：排泄）
08	3歳未満児の生活（その３：安全・清潔・睡眠）
09	3歳未満児のあそび（その１：ふれあいの大切さ　わらべうた）
10	3歳未満児のあそび（その２：子どものひとりあそびの映像から考える）
11	3歳未満児のあそび（その３：教科書のエピソードから考える）
12	保育の記録
13	保育の計画
14	保育士のあり方―職員・保護者・地域との連携協働
15	乳児保育の現状と課題とこれから
16	定期試験

科目名:OK21S0301　海外の保育	担当者:内田 政一、加藤 あや美、田端 智美、ダーリンプル 規子、石山 英明、内田 将平	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育・幼児教育にグローバル・スタンダードはあるのだろうか。国や地域によって、保育・幼児教育に「差異」があるとしたら、それはどのような背景からもたらされるのだろうか。我が国では保育者不足が深刻である。人間の営みにおいて、根源的で「エッセンシャル・ワーク」とも言われる保育者のなり手が現在何故減少しているのだろうか。この授業では上記の問題意識から、諸外国の保育・幼児教育の制度、特性、形態を学び、それを考察する。具体的な事例に基づき、受講者の「幼児教育観・保育観」を、アクティブラーニングの手法も取り入れ、醸成していく。新しい時代を生きる子どもたちに相応しい保育、幼児教育、子育てのあり方を、共に考えたい。

授業の到達目標
海外の保育･幼児教育のあり方（制度、概念、背景）を知り、その共通性と多様性を理解する（DPab）。
海外の保育・幼児教育との比較から、日本の保育･幼児教育の現状と目指している姿・方向性についても、自分なりに考察し、説明することができる（DPb）。
海外の保育･幼児教育について包括的な知識を得て、多様な子どもや子育てに関する支援を行うのに必要な力や考え方を身につける（DPc）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養（DPa）
◎保育のあり方について考察する力（DPb）
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力（DPc）

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
新聞やニュースに触れて、時事問題や文化を知り、自分の興味の幅や視野を広げておく。
日常生活の中で出会う、子ども・子育てに関する場面から、子どもの姿やその素晴らしさについて、常にそのイメージを持つようにする。
毎回の授業で、課題や次回のテーマをアナウンスします。授業までに予習をし、テーマについて自身の考えを持って授業に臨むようにすること。また、授業後に、テーマに沿った学びを深め、その次の授業で積極的に発表をしてください。

評価方法
授業への参加態度 50%　小テスト　25%　確認テスト　25%
フィードバックの方法：各回の質問等に関しては、次回授業時又は最終回にフィードバックする。

教科書	参考図書
保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領	授業内で紹介します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業担当者への連絡方法は、授業内でお知らせします。

01	授業概要（日本と世界の保育･幼児教育はどこに向かうのか、世界が保育･幼児教育に投資する理由）（担当教員）
02	イタリアの保育･幼児教育② モンテッソーリ教育とイタリア文化・人・環境（石山）
03	イタリアの保育･幼児教育① レッジョ・アプローチとイタリアの公立園（石山）
04	ドイツの保育･幼児教育① フレーベル幼稚園と森の幼稚園（内田将）
05	ドイツの保育･幼児教育②　シュタイナー幼稚園とドイツの子育て（内田将）
06	オーストラリアの保育･幼児教育①（EYLF）（内田政）
07	オーストラリアの保育･幼児教育②（The NQF）（内田政）
08	オーストラリアの保育･幼児教育③（NQS）（内田政）
09	ニュージーランドの保育･幼児教育①（Te Whariki）（加藤）
10	ニュージーランドの保育･幼児教育②（Assessment in Early Childhood Settings）（加藤）
11	アメリカの保育・幼児教育(加藤)
12	カナダの保育・幼児教育（田端）
13	イギリス他の保育･幼児教育（ダーリンプル）
14	アジアの保育・幼児教育（田端）
15	まとめとレポート（担当教員）
16	

2024年度シラバス

科目名:OK22S1002　地域研究Ⅰ	担当者:髙橋　一郎	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
オーストラリアの歴史は、高校の世界史にも登場せず、一般に学ぶ機会はほとんどない。本科目では、国際教養こども学科学生としてオーストラリアへの長期留学を見据えて、同国事情を学ぶ。同国の成立から歴史、社会全般を学ぶ。特に白豪主義から文化多元主義に転換したオーストラリア社会の変化については詳しく扱う

授業の到達目標
オーストラリア事情全般に明るくなるようになることを到達目標とする。実際にこの科目終了後1ヶ月後には現地での生活(留学)が始まるので、現地事情とその文化的・歴史的背景をしっかり学び同国事情に詳しく知っていると言えるものとなるようにする。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
近づく長期留学と有機的に関連付けて、オーストラリアに関する総合的知識を上げるべく各自で努力すること。

評価方法
出席及び受講姿勢　20%　　授業毎のレポート　30%　　年末レポート　20%　　期末試験　30%　　課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。

教科書 参考文献等　授業内で提示する	参考図書 「オーストラリアの歴史」M.クラーク(絶版につき図書館等で閲覧してください)

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー　月曜ランチタイム

01	地域研究とは　オーストラリア研究
02	先住民アボリジニー (1)
03	イギリスのボタニー湾入植
04	ニュージーランド事情
05	オーストラリア大陸全土への入植
06	日豪関係史　ブルームの今昔
07	①ゴールドラッシュ　②ユーレカ砦事件
08	ブッシュレンジャー　オージーフットボール
09	オーストラリア連邦結成の道程
10	①白豪主義　②オーストラリア連邦成立後
11	①第一次世界大戦とオーストラリア　②第二次世界大戦～カウラ事件
12	ガリポリ戦を考える
13	先住民アボリジニー (2) ～アボリジニー政策の変化
14	「盗まれた世代」とは
15	ヘンリー・ローソン　オーストラリア文学
16	期末試験

科目名:OK21S1004　地域研究Ⅲ	担当者:生井 正人	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
ドイツは政治的影響力とそれを裏打ちする経済・産業技術力によって、オーストリアは文化的魅力によってヨーロッパのみならず世界において強い存在感を放っています。この講座ではそれらの国の歴史に名を留める人物を取り上げます。皆さんは彼らの思想と活動を知る中で中欧の歴史、社会、文化を学びます。授業時間の前半では講義を、後半では皆さん自身による調べと発表、意見交換を行い、まとめとしてワークシートを完成させます。

授業の到達目標
この授業を通じて皆さんは、まず歴史のダイナミズムを理解するために中世から近世への、近世から近代への大転換に関する知識を、そして現代社会の有りようを認識するために資本主義の生成・発展の過程に関する知識を、さらに生命、平和、幸福をより深く考えるために戦争と平和運動ならびに地域統合の思想と実践に関する知識を獲得するでしょう。
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養 ○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
予習として基本事項の確認（世界史・世界地理の復習）をしておいてください。（1～2時間程度）
復習として参考文献（授業内で指示します）を通読してください。（2～3時間程度）
新聞、テレビなどでニュースをチェックするようにしてください。（毎日1～2時間程度）

評価方法
授業への積極的な取り組み：25%（レポート類は成績評価の後コメントを加えて後日返却します。）
小テスト：25%（答案の返却時に解説を行います。）
定期試験：50%（試験終了後に解答の手引きを配布します。）

教科書	参考図書
テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。	授業中に指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業への参加によって皆さんがヨーロッパに関する知識を増やし、自らの教養を高め、思考を訓練し、あるいは感性を磨くことを希望します。
初回のガイダンス時に連絡先（メールアドレス）をお知らせします。

01	ガイダンス
02	中欧の地理（1）ドイツ
03	中欧の地理（2）オーストリア
04	ドイツの中・近世（1）マン『ドイツとドイツ人』を導きとして
05	ドイツの中・近世（2）リーメンシュナイダー：中世の都市空間
06	ドイツの中・近世（3）ルター：宗教改革の経済的背景
07	フランス革命の世紀（1）ゲーテ：フランス革命とゲーテ
08	フランス革命の世紀（2）シラー：「歓喜に寄せて」
09	フランス革命の世紀（3）ベートーヴェン：ベートーヴェンの経済生活
10	オーストリアの近・現代（1）メッテルニヒ：ウィーン体制
11	オーストリアの近・現代（2）ズットナー：女性による19世紀の平和運動
12	オーストリアの近・現代（3）クーデンホーフ・カレルギー：欧州統合の思想と実践
13	ドイツの近・現代（1）ビスマルク：ドイツの統一と資本主義の発展
14	ドイツの近・現代（2）ヒトラー：ホロコースト
15	ドイツの近・現代（3）ヴァイツゼッカー『荒れ野の40年』を導きとして
16	定期試験

2024年度シラバス

科目名:OK22S1006　地域研究Ⅴ	担当者:布 和	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限: 特になし		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　この授業は保育学部ディプロマポリシーで求められる学びの課題の一部である「課題を発見・理解し解決しうる力（豊かな教養、専門的な知識・技能・思考力・判断力の育成）」の養成に関連している。授業は、広くアジアを視野にそれぞれの地域に分けて学習する。授業過程では、アジア全体の状況を紹介した上、関連する国々の歴史・文化・宗教などの事相を紙媒体資料並びに視聴覚資料を通して学ぶ。授業の形として、グループ学習やプレゼンテーションを取り入れるつもりである（AL）。

授業の到達目標
　15回の講義を通じて、アジアに関する基本的な知識(DP)を身につけ、それぞれの地域が直面する課題についての深い理解(DP)を持つことを期待したい。
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養 ○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　アジアの多様性や各国が直面する多くの課題を十分に理解するには予習と復習にそれぞれ2時間を使ってほしい。

評価方法
　欠席数が6回になれば、単位を不認定する。成績は授業参加意欲（30%）、プレゼンテーション（30%）及びレポート（40%）を総合して評価する。なお、プレゼン後の質疑応答時間を以ってフィードバックとしている。

教科書	参考図書
教科書を使用しないが、授業ごとに資料を配布する予定。	授業中に指定する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　授業の内容は進度によって多少の変更が生じる。教員の連絡先とオフィスアワーは授業中に知らせる。

01	講義紹介（アジアの現状）
02	アジアの歴史
03	アジアの政治
04	アジアの経済
05	アジアの宗教
06	アジアの文化
07	アジアの課題
08	第一回目の学生によるプレゼンテーション
09	東アジア
10	東南アジア
11	南アジア
12	西アジア
13	中央アジア
14	これからのアジア
15	第二回目のプレゼンテーション
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK21S1007　地域研究VI	担当者:塚本 江美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
【アメリカ】
文化・政治・社会・歴史といった様々な視点からアメリカ合衆国を多角的に読み解き、その問題を考えることで、国際教養こども学科のディプロマポリシーにある「グローバル社会で通用する異文化適応能力及び異文化コミュニケーション能力」を養います。授業は事前課題への取り組みをもとに、グループディスカッションを通してアメリカについての理解を深めます。【AL】授業後、授業内容を踏まえた分析や考察をレポートにしてMoodleから提出してもらいます。

授業の到達目標
①アメリカ合衆国の社会・文化・思想についての基礎的な知識を習得し、グローバルな時代におけるアメリカ合衆国のあり方を理解する。②他国を理解することを通し、私たちの生きる自国と現代を理解する。③多角的なアプローチを学ぶことにより、異なる文化への理解を深め、多様な立場を理解する。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
各授業において、以下の通りの授業外学習活動が求められます。
準備学習（2時間）：事前に与えられたリーディング課題を読んでおくこと。
事後学習（2時間）：授業内で学んだ内容について復習し、情報を自分なりに整理、分析、考察を行い指示された成果物（レポート等）を提出すること。
授業において提示した課題に対するフィードバックは提出後の授業の中で共有します。

評価方法
授業への参加態度(受講態度・意欲、授業内発言等含む）40%、レポート60%
授業において提示した課題に対するフィードバックは提出後の授業の中で共有します。

教科書	参考図書
授業時に資料を配布します。	有賀夏紀・油井大三郎『アメリカの歴史 -- テーマで読む多文化社会の夢と現実』（2003年、有斐閣 アルマ）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業内で取り上げるトピックについて、ただ受動的に受け止めるだけでなく、能動的に自分なりに考える姿勢を大切にしましょう。「自分はどう感じ、考えたか」に常に意識的になってください。オフィスアワー、教員連絡先は授業内に指示します。

01	イントロダクション：アメリカを学ぶ
02	アメリカの地理
03	アメリカの歴史１
04	アメリカの歴史２
05	奴隷制と近代化
06	先住民とホロコースト
07	アフリカ系アメリカ人
08	日系人
09	現代アメリカの格差問題１
10	現代アメリカの格差問題２
11	現代アメリカの格差問題３
12	現代アメリカの格差問題４
13	現代アメリカの格差問題５
14	ディスカッション
15	まとめ、レポート提出
16	なし

科目名:OK11S1201　Teaching English for Children	担当者:加藤 あや美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
This aim of this course focuses on the teaching of English to children between 5 and 12 years old. This course provides effective teaching methodology and various teaching materials that can be used when teaching English to EFL children. 【AL】【EN】

授業の到達目標
By the end of this course, students will be able to
1) Understand what skills are required for teaching English to children (DP)
2) Plan lessons focused on selected themes, vocabulary items, grammatical structure (DP)
3) Understand important factors to construct teaching including ICT use. (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
◎グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students will be required to bring English/ Japanese dictionary to class. The course uses an active learning approach. Students should be prepared to speak a lot in class.

評価方法
Attitude and Class Participation 20%　Writing Assignment 20%　Micro-teaching 20%　Teaching Materials 20%　Review Test 20%
Students will be able get direct feedback at the end of the course.

教科書	参考図書
	Course materials will be provided by the teacher

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Students will be expected to participate during class discussions, ask questions during class, and actively work on improving their communication skills. (Office Hour : Thursday lunch time)

01	Course introduction
02	First and Second Language Acquisition
03	Methods and Approaches in Language Teaching
04	Teaching Listening & Speaking
05	Teaching Reading & Writing
06	Classroom Management
07	English Expressions Familiar to Children①　Classroom Commands
08	English Expressions Familiar to Children②　Daily Life of Children
09	Teaching Materials①　Games & Flashcards
10	Teaching Materials②　Songs & Picture Books
11	Individual Lesson Planning①
12	Group Lesson Planning②
13	Individual Micro-teaching①
14	Group Micro-teaching②
15	Review Test
16	None

科目名:OK21S1102　チームビルディング実践	担当者:寺田 恭子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　海外研修及び留学では、個々人で乗り切ることが難しい課題に直面することも多い。本講義では、チームで取り組むことの意味や意義を理解し、協力して課題に取り組み、課題解決及びより良いものを創り上げていくための理論と実践について学ぶ。また個々人の力がチーム内で発揮できるよう個々の思考力や行動力にも着目しつつ、具体的には海外研修及び留学を想定した内容を軸としてワークを行い（AL)、チーム力の重要性とその力を向上させることの意味と意義を理解しながら必要な態度を見につける。

授業の到達目標
　①チームで働く力を身につけ、国際社会において保育者として活躍することができる能力を持つ（DP)　②保育・幼児教育に関する基礎的知識を基盤としつつ、諸外国のあり方への理解を深め、そこから自分の考えを持ち、チーム力をに支えられた保育・幼児教育のあり方を考えることができる（DP)。③多文化共生社会におけるチームでの保育・幼児教育の重要性を意識し、考え行動することができる（DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
○グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
与えられたテーマに対して発言できるよう準備をしてくることを準備学修とする。また授業で学んだ内容をフィードバックし、現在の自分に足りない力を客観的に把握すること、さらにその力の習得に必要な方法を自ら考え実践することが事後学修に相当する。

評価方法
受講態度（20点）、実践研究のグループ発表（20点×3回＝60点）、確認レポート20点　合計100点満点で評価する。フィードバックは授業最後のリアクションペーパーを使用します。

教科書	参考図書
特になし。その都度プリントを配布。	その都度提示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
チームビルディング用のファイルまたはノートを用意すること（A4サイズ）連絡を取りたい場合は寺田恭子研究室（7号館7322）まで。授業の前後でもOKです。また、実践研究③では、大きめのコルクボードを使用します。100均などで購入できるので準備すること。

01	チームビルディングとは何か
02	チームで課題に取り組む力について
03	自己の成長　他者の成長（自己分析・他己分析）自己期待と他者期待
04	チームの課題達成のプロセスにおける重要ポイント・リーダーシップとフォロワーシップ
05	実践研究①　多様な子どもたちの共生を目指して・保育実践内容・方法の思索　その１
06	実践研究①　　アクティブラーニング　グループワーク
07	実践研究①　グループ発表 ディスカッション&フィードバック
08	実践研究②　食文化の研究で”発見”したことをSDG'sを通して考察する
09	実践研究②　グループワーク
10	実践研究②　グループ発表 ディスカッション&フィードバック
11	実践研究①②のまとめ
12	実践研究③　　未来と向き合う・夢と希望の実現に向けて
13	実践研究③　　グループワーク・個別ワーク
14	実践研究③　作品の発表・ディスカッション
15	実践研究を通して個々人の課題を考える
16	チームビルディングのまとめ　チームビルディング力の客観的評価と今後の課題

科目名:OK22S1301　Study Abroad Preparation	担当者:髙橋 一郎、内田 政一、加藤 あや美、寺田 恭子、田端 智美、木村 達志、ダーリンプル 規子、森山 雅子、石山 英明	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:Certificate III in Early Childhood Education and Care		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　この授業は、3年次の海外保育ライセンス・プログラムに向けた事前指導である。約11カ月間の留学生活を有意義なものにするために、留学先で起こり得る様々な課題を想定した内容－オーストラリアの事情、現地での学生生活、語学・保育各コースプログラムについての詳細な説明等－を学ぶ。また、留学に必要な提出書類作成や手続きも行う。講義形式を交えながら、グループワークをとりいれた授業形態で行う。毎授業時に担当者によるAUS事情発表あり。【AL】

授業の到達目標
１．海外保育ライセンス・プログラムに参加する意義を理解する。
２．留学先の国や保育分野の事情について理解する。
３．留学への手続きを通して、優先順位を考え物事を遂行する習慣・態度を身につける。
４．協働して動く力を身につけ、コミュニケーション能力を向上させる。（DP）
５．留学中に起こると予測される事例を通して、危機管理能力を向上させる。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
留学に関する書類等の提出を求められた場合は指示に従い、必ず期限までに提出できるようにすること。また、留学先の国や地域の情報は、授業外においても自ら積極的に収集するようにし、参加前までに留学に対する意識を高めつつ、毎回の授業に臨むこと。英語学習は日常的に行い、保育は日々の授業に真摯に取り組むこと。

評価方法
　授業への参加態度30%　　レポート・書類作成30%　　グループワーク20%　プレゼンテーション20%
　課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。

教科書	参考図書
適宜、プリントを配布する。	授業内で紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　海外保育ライセンス・プログラムは必修留学となっていることから、全員が毎回の授業に必ず出席すること。また、留学参加に必要な重要な説明や書類作成等、実務的な作業も含まれるため、やむを得ない事情以外の遅刻・欠席は認めない。加えて、現地生活を見据えたグループワークも多く取り入れていくことから、留学をする仲間たちとのコミュニケーションを密に図っておくこと。（教員との連絡手段は授業にて紹介する。）

01	海外保育ライセンス・プログラムの概要・渡航先紹介
02	ImmiAccount説明・作成（１）
03	ImmiAccount説明・作成（２）・健康診断について
04	先輩を交えてのQ&A（１） 出発日スケジュールとホームステイについて（保護者説明会について）
05	提携先学校による説明会（語学コース・保育コース）
06	語学コースのプレースメントテスト
07	奨学金制度(廣瀬氏)・オーストラリアでの生活・現在の下宿についての対応
08	オーストラリアの保育の実際・実習について・日誌について
09	留学についてのQ&A・Facebookでの日記提出について（Account作成）
10	留学費用振り込みについての説明・FacebookでDiary作成（日英）
11	本学の保育留学プログラムについて（小川先生）・留学保険説明（旅行業者）
12	誓約書について・提携先学校ごとのグループワーク
13	個別面談・英語でボードゲーム
14	先輩を交えてのQ&A（２）
15	安全指導：本学の危機管理体制
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK21S1105 Intermediate Communication in English Ⅰ	担当者:Indu Juneja、Joseph Sichi	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course will help students improve their overall ability to use spoken English. Classes will include a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English communicators. Students will also develop their vocabulary and learn useful phrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics.

授業の到達目標
By the end of the course, to become more proficient speakers of English in everyday topics in preparation for your future jobs and time abroad.【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養◎グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students can expect to spend from 45-60 minutes outside of class for homework and class preparation before each class. More time will be expected when preparing for assessment tasks.

評価方法
Class participation: 15%　Homework and class preparation: 15%
Assessment #1: 20%　Assessment #2: 20%　Final assessment: 30%
Students will be able get direct feedback at the end of the course.

教科書	参考図書
Miles Craven (2018) Breakthrough Plus 2nd Edition 3, Macmillan	Other course materials will be provided by the teacher

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Please come to class and try to speak English as much as possible. Do not be worried about mistakes, that is how we learn! Please spend time reviewing what you learn in class. Instructor’s contact information will be announced in the first class.

01	Unit 1: Memories part 1: Listening & Speaking
02	Unit 1: Memories part 2: Skills Expansion
03	Unit 2: Life Changes part 1: Listening & Speaking
04	Unit 2: Life Changes part 2: Skills Expansion
05	Unit 3: Viewpoints part 1: Listening & Speaking
06	Unit 3: Viewpoints part 2: Skills Expansion
07	Review 1
08	Unit 4: Problems part 1: Listening & Speaking
09	Unit 4: Problems part 2: Skills Expansion
10	Unit 5: Thinking Ahead part 1: Listening & Speaking
11	Unit 5: Thinking Ahead part 2: Skills Expansion
12	Unit 6: Imagine! part 1: Listening & Speaking
13	Unit 6: Imagine! part 2: Skills Expansion
14	Review 2
15	Review of all units and progress check
16	No test

2024年度シラバス

科目名:OK22S1106 Intermediate Communication in English Ⅱ	担当者:Indu Juneja、Joseph Sichi	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course will help students improve their overall ability to use spoken English. Classes will include a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English communicators. Students will also develop their vocabulary and learn useful phrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics.

授業の到達目標
By the end of the course, to become more proficient speakers of English in everyday topics in preparation for your future jobs and time abroad.【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養◎グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students can expect to spend from 45-60 minutes outside of class for homework and class preparation before each class. More time will be expected when preparing for assessment tasks.

評価方法
Class participation: 15%　Homework and class preparation: 15%
Assessment #1: 20%　Assessment #2: 20%　Final assessment: 30%
Students will be able get direct feedback at the end of the course.

教科書	参考図書
Miles Craven (2018) Breakthrough Plus 2nd Edition 3, Macmillan	Other course materials will be provided by the teacher

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Please come to class and try to speak English as much as possible. Do not be worried about mistakes, that is how we learn! Please spend time reviewing what you learn in class. Instructor’s contact information will be announced in the first class.

01	Unit 7: My World part 1: Listening & Speaking
02	Unit 7: My World part 2: Skills Expansion
03	Unit 8: Past Events part 1: Listening & Speaking
04	Unit 8: Past Events part 2: Skills Expansion
05	Unit 9: Feelings and Opinions part 2: Skills Expansion
06	Review 3
07	Unit 10: What if…? part 1: Listening & Speaking
08	Unit 10: What if…? part 2: Skills Expansion
09	Unit 11: Work it out part 1: Listening & Speaking
10	Unit 11: Work it out part 2: Skills Expansion
11	Unit 12: Looking back part 1: Listening & Speaking
12	Unit 12: Looking back part 2: Skills Expansion
13	Review 4
14	Review of all units and progress check
15	No test
16	

2024年度シラバス

科目名:OK22S2003　教育実習Ⅰ	担当者:田端 智美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	実習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
今までの学びや体験を活かして、課題を持ちながら幼児と関わる中で、幼稚園教育の実際を学ぶ。また、教師としての職業倫理などの理解を深め知識・技術・態度の実践的な履修を目指す。同様に、修得した理論を実践することを通して、教師としての専門性や資質を理解して保育観・教育観を培う。
主に観察実習を行い、後半に参加実習、指導実習を行う。

授業の到達目標
①幼稚園の役割や機能について実際に即して理解する。　②幼児の理解を深める　③幼稚園の教育・保育について体験的に学ぶ　④幼稚園教諭の職務内容について実際に即して学ぶ　⑤地域の幼児教育センターとしての幼稚園の役割について実際に即して学ぶ。また幼稚園と家庭・地域等との関係について学ぶ。　⑥幼小の連携について理解を深める　⑦幼児の教育・保育に関する自らの問題意識や課題意識を実際に即して検証し深める。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・多様性を受け入れる能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・実習の実施に先立って、教育実習入門で学んだことをよく確認すること
・事前訪問時に実習園から頂いた指導をよく確認して、実習の事前準備をすること

評価方法
実習園からの評価６０％・実習日誌２０％・事後レポート１０％・その他（実習の意欲・実習状況・巡回指導報告書など）１０％を総合して評価する。フィードバックについて授業シートを記入

教科書	参考図書
教育実習Ⅰハンドブック 保育・教育　実習日誌の書き方（中央出版）	幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・本実習を行うにあたり「教育実習指導Ⅰ」を履修すること　・実習中の遅刻早退欠席は事前にその旨を申し出、許可を取ること　合計実習時間数が80時間を満たない場合は、延長実習を行うこと
連絡先　tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01	Ⅰ.幼稚園における80時間(計10日間)の実習を通して観察・参加・指導実習(部分・全体)を体験する。 2.観察・参加を通しては、幼稚園での子どもの姿、幼稚園教諭の教育や園務の実際、家庭や地域との関係、施設・設備・環境構成等、幼稚園教育のあり方について、体験を通した理解を課題とする。 3.参加・指導実習(部分・全体)を通しては、子どもの発達の姿、教育の実際、幼稚園教諭の職務と実際、幼稚園の役割や機能、家庭や地域との関係等を踏まえ、子どもの援助・指導案の立案・教育実践の展開・実践の評価など、体験を通して実践的に学ぶ。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OK21S2002　教育実習指導Ⅰ	担当者:田端 智美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
教育実習Ⅰのための事前事後指導としての本授業では、実習のあり方、指導案の作成、実習への心構えを学び、実習後の振り返り、自己課題を明らかにし、今後の課題に生かしていく。

授業の到達目標
①幼稚園教区実習の意義や目標を理解する。　②実習への心構えを学び、実践に必要な準備に自ら取り組む。　③観察実習・参加実習・責任実習の内容について理解し、準備・実践・振り返りに意欲的に取り組み。　④実習終了後、実習への取り組みを振り返り、自己課題を把握し、今後の学習や就職に生かしていく。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・多様性を受け入れる能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業内で詳細を提示
１年次の実習を踏まえて、本実習ではさらに何を学びたいのか自己課題を明確にもてるよう自ら進んで事前学習をすること。

評価方法
事前課題（ワークシート・指導案等）５０％、事後課題（事後課題発表等）５０％、授業への意欲１０％を総合的に評価する。フィードバックについて授業シートを記入

教科書	参考図書
教育実習Ⅰハンドブック　保育・教育　実習日誌の書き方（中央出版）	幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
公欠以外の理由で事後指導を欠席した学生は、実習を実施することができなくなります。授業を欠席する場合はその前後に必ず、教務課と授業担当教員に直接連絡をしてください。課題があります。連絡先tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01	教育実習Ⅰの課題と事前事後指導の計画の理解
02	幼稚園における教育・保育の理解
03	３・４・５歳児の発達過程における理解
04	教育実習における指導案の書き方
05	指導案の作成と発表
06	事前訪問のための学内指導・実習直前指導（教師としての心構え）
07	教育実習事後指導１（学びの振り返り）
08	教育実習事後指導２（自己課題の明確化）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:0K21S3001　総合演習Ａ	担当者:寺田 恭子、髙橋 一郎、森山 雅子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本科目は1年を通しての活動となる

1　3年次以降の学術研究(卒業論文)につながる基礎を作る
2　ゼミ行事として「日帰りゼミ研修旅行(前期)」「図書選定ツアー(後期)」を実施する
3　「フィールドワーク」を行う。
4　学年全体での行事も取り入れる（上記研修旅行も含めて月に1回の割合で実施）
5　図書館ツアーに参加し、書籍と親しむ機会を作る
6　大学祭の準備、活動を通して仲間の交流をはかる
7　先輩、後輩（1年）との交流を学部運営委員を中心に行う。

授業の到達目標
「前向きな明るいコッコを作る～留学に向けて～」
ゼミ運営を通して、留学にワクワクして行く日を心待ちになるような雰囲気と団結を作る。論文指導との割合を調整し、学修結果を明るく楽しくグループで作り上げる形で、学術プラス人間関係の構築の両方をバランスよく運営する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力
○共同作業のあり方、進め方を理解し、団体行動力をつける
○グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
フィールドワーク
ゼミ内を複数のグループに分けて行う。各グループで調べる内容を定め､学外での調査を行う。後期に発表を行う。

大学祭
授業外での準備やミーティングを通して団結力を築く。

評価方法
出席及び行事への積極的参加を評価する
ゼ
詳細は授業の初回に説明します。 課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。

教科書 課題図書及び課題文献については授業内で指示する。	参考図書 授業内に適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
留学に向けて前向きな気持ちで学びましょう

寺田先生　terada@ohkagakuen-u.ac.jp
森山先生　moriyamam@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション・役決め
02	研究するってどういうこと① 先行研究の調査方法（先行研究と文献収集について）（論文の精読とまとめ・分析について）
03	研究するってどういうこと② 先行研究の調査方法（ハンドアウトの作成につて）（グループ内発表）
04	卒論中間発表会への参加
05	フィールドワークの調査方法
06	プレゼンテーションとディスカッション（研究手法と研究計画書の作成方法について）
07	プレゼンテーションとディスカッション（効果的なプレゼンテーションの方法について）
08	プレゼンテーションとディスカッション（研究テーマの設定・研究計画書の作成）
09	ゼミ研修旅行(学外)
10	ゼミ研修旅行(学外)
11	幼児のための芸術・文化活動を通して幼児のそだちについて考える
12	フィールドワーク
13	フィールドワーク
14	フィールドワークの中間発表
15	前期の振り返り / 夏季休業中の課題説明
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK22S3002　総合演習Ｂ	担当者:寺田 恭子、髙橋 一郎、森山 雅子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本授業では、「総合演習A」に引き続き、習得したアカデミックスキルズを応用する力を身につけていきます。自ら問題を発見し、その問題を調査・分析し、発信する力を養っていきます。少人数のクラス編成によるゼミナール形式で授業を行い、グループワーク等のアクティブラーニングの手法を取り入れて実践していきます。

授業の到達目標
①保育者基礎力（観察する力、洞察する力、記述する力）、②研究法（文献資料の検索・読み方・レポート作成）、③ICTスキル（PCを用いて学習を展開するスキル）を駆使してレポートやプレゼンテーションの作成に取り組むことを通して、自ら発信する力を向上させることを目指す。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力
◎課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
○グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　各授業において課題が示されるため、授業前に必ず準備をしてくるようにしましょう。また、毎回の授業において学習した内容は、復習をし自律的な学びにつなげるように意識してください。多くのグループワークを行うため、ゼミメンバーとは積極的にコミュニケーションを図ることを心掛けましょう。詳細な活動に関しては、Moodle等で指示します。

評価方法
授業参加と積極的姿勢を元に評価する　100％

教科書	参考図書
課題図書及び課題文献については授業内で指示する。	授業内に適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
今後の学習の土台となる科目であるため、積極的に参加してください。また、PCを必ず持参すること。各ゼミ担当教員への連絡手段は授業内にてアナウンスします。

01	ガイダンス（前期の課題確認・後期の科目デザインとその達成について）
02	実習準備　手遊び　絵本の読み聞かせ・予行演習と相互評価
03	フィールドワークの発表の準備
04	フィールドワークの発表①
05	フィールドワークの発表②　　論文作成方法（）
06	大学祭を通して自らの学びを発信する
07	卒業論文に向けて　ここの課題・研究テーマを探る
08	卒業論文に向けて　文章構成・章立て・研究倫理について　個別指導１
09	卒業論文に向けて　研究手法（応用編）・多様な研究手法について　個別指導２
10	研究テーマと国際教養こども学科　教員訪問を通して研究テーマを絞る
11	図書選定ツアーを通して卒論に必要な図書・文献を収集/学生時代に読みたい本を選ぶ
12	1年生・4年生との交流行事　～　先輩より学ぶ　後輩へ伝える
13	選書の紹介
14	学部運営委員と共に団体交流のあり方を考える・アカデミックアドバイザーとの面談
15	1年間のまとめ（ポートフォリオ作成）留学に向けての心構え
16	なし

科目名:OK11S0001　保育原理	担当者:吉見 昌弘	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本授業では高度で実践的な保育と子育ての専門家を目指して、保育の意義を学び、普遍的な子どもの原理・原則と今日の子どもを取り巻く環境に適した柔軟な保育のあり方について学んでいきます。授業の方法は、教科書を中心に基礎的な事項を読んで解説することと、ビデオや実例などをもとに保育の現状を伝えて行きます。授業毎にmoodleへ課題を提示した上で、持参したノートパソコンで回答してもらい、随時、アクティブ・ラーニングで意見交換や発表をしてもらいます。moodleで回答した課題は、ルーブリック評価で随時フィードバックします。なお、座席は指定し、授業の課題や資料の提示はmoodleなどのeラーニングも活用します。【AL】

授業の到達目標
１　保育の意義について理解し、現代の保育の課題と目指すものを述べることができる。
２　幼稚園・保育所、認定こども園に関する諸制度を理解し、意見を述べることができる。
３　保育の歴史上の人物の実践と思想、保育の専門性について理解し、将来の保育者像を描くことができる。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎保育と保育者の本質に関わる知識・技能
◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として事前に次に学ぶ教科書のページ及び参考資料を読んでおいて下さい（授業毎に2時間程度）。事後学修として教科書で学んだ事柄に関連する新聞記事や著書などを主体的に調べて授業での学びをさらに深めて下さい（授業毎に２時間程度）。日頃から保育の現状、新しい制度の発足などに関心をもって情報を収集するようにして下さい。

評価方法
受講態度やmoodleなどで提示された毎回の授業の課題等の回答に加えて、予習復習の学修状況を60%、最後の確認テスト40%を目安として総合的に評価します。なお、授業回数の３分の２以上の出席者のみ評価対象とします。授業時の課題等のフィードバックは、Ohka moodle等により伝達します。

教科書	参考図書
はじめて学ぶ保育原理（斎藤裕・吉見昌弘編　北大路書房）	幼稚園教育要領解説（フレーベル館）、保育所保育指針解説（フレーベル館）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
moodleへの課題の回答のためノートパソコンを毎回持参して下さい。連絡、質問等があれば、授業後に直接質問するか、teamsから問いあわせて下さい。また、オフィスアワー（授業のある日のお昼休み）の時に来訪して下さい。なお本授業では、指示しない限りスマホ、携帯電話の使用及び飲食を禁止します。

01	オリエンテーション（授業全体の流れ、授業の進め方やルールの説明）
02	保育の意義と現代的課題
03	幼稚園における諸制度
04	幼稚園教育要領
05	保育所における諸制度
06	保育所保育指針
07	幼稚園と保育所の比較
08	幼保一元化の流れ
09	認定こども園
10	保育内容（５領域とねらい、内容）
11	保育形態　－自由保育、一斉保育
12	保育形態　－設定保育、統合保育
13	子どもと自然の関わり
14	保育の歴史と思想　保育者の専門性
15	まとめと確認テスト
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK12S0002　教育原理	担当者:金子 晃之	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　教育と学校の歴史・理念・思想についての知識を理解し、特性や問題点について展望できる思考力を獲得する(国際教養こども学科DP1、2)。　方法は、各回、ムードルに資料を掲載し、授業時に説明し、各自がその資料に書き込みをして学修を進める。それと共に、授業ノートをムードルへ提出する(7回)。映像を用いて説明し事例検討を行う。グループ・ディスカション(2回)。毎回、パソコンを持参すること。

授業の到達目標
　到達目標は、①家族・社会を含めた教育・学校の理念・目的・営みの歴史について知識を身に付けること、②近代の教育・学校の理念・目的・営みが、どのようなものとして出現し展開してきたのか、そこにおける特性や課題は何かについて展望する思考力を身に付けることにある。　(国際教養こども学科DP1、2)

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　基本的に、次回の資料を開示するので、予習として読んでおくこと（事前学修30分）。授業後は、書き込んだ資料を読み直し、ポイントを振り返りながら、授業ノートを記載し後日提出すること(事後学修90分)。

評価方法
　事後学修として毎回提出する授業ノートを合計して100点満点で評価する。授業ノートのフィードバックについては授業内で行う。

教科書	参考図書
毎回、資料と授業ノートをムードルに掲載する。	「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」「小学校学習指導要領」その他については授業時に指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　毎回、パソコンを持参して下さい。
　オフィスアワー　木曜日　昼休み。　　メールアドレス　t-kaneko@ohkagakuen-u.ac.jp

01	人間形成と学校教育
02	明治期以前の家族・学校・社会と人間形成
03	明治期の家族・学校・社会と教育①　近代教育制度の歴史・理論
04	明治期の家族・学校・社会と教育②　幼稚園・保育所の歴史・思想
05	大正期の家族・学校・社会と教育①　新教育運動と日本型学校文化の歴史・思想
06	大正期の家族・学校・社会と教育②　幼稚園の歴史・思想と教育家族
07	昭和期の家族・学校・社会と教育①　軍国主義下の教育の歴史・理論
08	昭和期の家族・学校・社会と教育②　戦後教育の歴史・理論
09	昭和期の家族・学校・社会と教育③　詰込み型教育の歴史・理論
10	昭和期の家族・学校・社会と教育④　ゆとり型教育への転換
11	平成期の家族・学校・社会と教育　　学力観の転換
12	欧米近代の家族・学校・社会と教育①　宗教改革と子ども観の転換
13	欧米近代の家族・学校・社会と教育②　家庭教育と学校教育の思想
14	欧米近代の家族・学校・社会と教育③　新教育運動の学校と思想
15	近代の学校と教育の特性と課題について
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK12S0003　子ども家庭福祉	担当者:新沼 英明	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
子どもの成長発達と生活を保障するとともに、家庭・保護者（妊産婦を含む）に対して子育ての支援（保障）を目的として実施する種々の社会的な施策・援助を子ども家庭福祉という。講義では以下の５点、すなわち、①現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷についての理解、②子ども家庭福祉と保育との関連性及び子どもの人権についての理解、③子ども家庭福祉の制度や実施体系等の理解、④子ども家庭福祉の現状と課題についての理解、⑤子ども家庭福祉の動向と展望の５点について学習する。　授業は、担当者作成のレジュメに基づき進める。なお、本科目は、「教育・保育の本質・目的に関する科目群」に位置づく科目である。

授業の到達目標
①子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷（DP）、②子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権（DP）、③子ども家庭福祉の制度や実施体系（DP）、④子ども家庭福祉の現状と課題（DP）、⑤子ども家庭福祉の動向と展望（DP）、を理解する。
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
児童をとりまく環境は、その保護者をとりまく社会経済状況の変化に大きな影響を受けます。普段から社会事象に関心を持つよう、新聞記事等には日常的に接してください。その上で、各回のテーマに即した資料やテキストの該当箇所を事前に提示しますので、それらについて事前に目を通すようにしてください。事後にあっては、学修したテーマの概要を簡単にノート等にまとめるようにしてください。　授業前後に予習復習として2時間程度の学修が必要。

評価方法
小レポート20%、確認テスト80%
　【試験に対するフィードバックについて】
小テストの際は採点、確認後速やかにフィードバックを行います。
試験については追再試験後にteamsによりフィードバックを行います。

教科書	参考図書
こどもまんなか福祉論　新沼英明編著　中央法規	保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
毎回、穴埋め式のレジュメを配布します。A4版のフラットファイルなどを用意し、資料の整理に努めてください。　質問等のある学生は、８号館２階の研究室に来室するかteamsのチャット機能を用いてください。

01	オリエンテーション・子ども家庭福祉を学ぶ意義と目的
02	現代社会と子ども家庭福祉
03	子ども家庭福祉の歴史的展開
04	子どもの権利擁護（子どもの権利）
05	子ども家庭福祉の法律と行財政
06	子ども家庭福祉の実施機関・施設と専門職
07	少子化と子育て支援サービス
08	母子保健と子どもの健全育成
09	多様な保育ニーズへの対応
10	児童虐待とドメスティック・バイオレンス①（児童虐待を中心に）
11	児童虐待とドメスティック・バイオレンス②（DVを中心に）
12	障害のある子どもへの対応
13	少年非行への福祉的支援
14	子ども・子育て支援と子ども家庭福祉の今後の展望
15	保育と子ども家庭福祉との関連の整理と確認テスト
16	

科目名:OK11S0004　社会福祉	担当者:新沼 英明	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本講義では、「社会福祉」の理念、法制度、援助技術などの基本を学習しながら、日本社会が抱える福祉的課題を見つめていく。特に、子どもや家庭に関わる社会問題に着目し、専門職に求められる役割や今後の課題について検討する。講義（パワーポイント使用）を中心とするが、クラス内で意見交換を行うことで理解を深めると共に考える力を養っていく。【AL】
【担当者の実務経験】児童心理治療施設・児童養護施設職員
　福祉現場の実際や直面している課題に触れながら、法制度の問題点や必要な専門性について実践的な考察を行う。

授業の到達目標
近年の日本社会が抱える生活問題と、それらが生じた要因や背景について説明できる。（DP）
社会福祉の理念と代表的な法制度や福祉サービスについて説明できる。（DP）
支援を要する人々に対して共感的な眼差しを持ち、ソーシャルワークの技術や考え方を述べることができる。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・授業中にとったノートを見返し、授業内容を振り返るとともに、メモの修正や補足を加えることで知識の定着を図る。また、その過程で生じた疑問点をノートにまとめておく。
・関連するテーマについて、書籍、新聞、インターネット等から情報を収集し、ノートにまとめておく。
・授業内容については批判的に吟味し、考察を行った上で、疑問点については次回授業時に質問ができるように整理しておく。

評価方法
　確認テスト：60%、ミニレポート：20%、授業への参加姿勢（コメントシート、発言、態度など）：20%
　授業後、コメントシート、メールなどで寄せられた質問や疑問については、翌授業日または第15回まとめにてフィードバックする。

教科書	参考図書
担当者作成のレジュメ・資料を用いて授業を行う。	保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　ノート（ルーズリーフ可）を持参すること。講義内容は丁寧にノートをとるよりも、「素早くメモをとる」ことを心がける。質問等は授業後、またはコメントシート、メールでも受け付ける。

01	オリエンテーション・事例紹介
02	子ども、家庭のための福祉①　～子ども虐待の現状と課題～
03	子ども、家庭のための福祉②　～子ども虐待の防止と保育・教育者の役割～
04	家族問題（困難）が顕在化した歴史的背景
05	障害児・者のための福祉①　～「障害」か「障がい」か～
06	障害児・者のための福祉②　～共生社会の実現と課題～
07	社会福祉の理念と法制度
08	社会福祉をとりまく状況と社会保障
09	社会福祉を支える専門職と倫理
10	事例から学ぶソーシャルワーク（相談援助）
11	対人援助職のコミュニケーション技術　～子どもの声を聴く～
12	権利擁護と第三者評価　～施設内虐待にどう向き合うか～
13	諸外国の社会福祉の動向　～日本との比較検討～
14	在宅・地域で生きる、支え合うための専門職の役割
15	まとめと確認テスト
16	試験なし

2024年度シラバス

科目名:OK12S0008　保育者論	担当者:ダーリンプル 規子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
本科目は、資格取得と目指そうとしている保育者の全体像を学ぶ。具体的には、役割と職務内容と必要な専門性を、具体的な映像や事例を、グループディスカッション等を取り入れながら学ぶ。そして保育者の専門性について、絵本を毎回２人に読んでもらうという実践の中からも学ぶ。【AL】

授業の到達目標
１．保育者の役割・制度的位置づけについて理解する(DP1)。
２．保育者の職務内容を学ぶ中で、資質・専門性について理解する(DP2)。
３．保育者が同僚・家族や地域と連携・協働していく必要性について理解する(DP1)。

【到達目標と深く関連する学科DP】DP1：幅広い視野と知識と教養　DP2：保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として、該当箇所のテキスト及び資料を熟読しておくこと。また、絵本の順番にあたっている人は、必ず練習をしておくこと。（２～３時間）事後学修としては、課題プリントを完成させておくこと(１時間)。

評価方法
ルーブリックの視点から、定期試験（50%）、課題（40%）、授業態度（10%）で総合的に評価する。コミュニケーションシートへのフィードバックは、個々にコメントを書くとともに、必要に応じて全体へも伝える。

教科書	参考図書
「アクティベート保育学02　保育者論」大豆生田啓友・秋田喜代美・汐見稔幸編著　ミネルヴァ書房	「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「幼稚園教育要領解説」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問等ある場合は、授業前後・オフィスアワーを使うか、私の部屋まで来てください。

01	オリエンテーション、保育者のイメージ・保育者になりたいと思った理由・保育者とは
02	保育者になるために：保育者の免許・資格
03	幼稚園教諭の仕事とその１日
04	保育士の仕事とその１日
05	子どもの体験や発達を理解する
06	子どもと一緒にこころとからだを動かす―あそびを援助すること
07	個と集団を生かす保育者
08	保護者・家庭・地域と“一緒に”育てる
09	０・１・２歳児保育における保育者の役割
10	子どもが主体的に生きる保育の日々を保障する
11	多様な子どもの理解とその支援－様々な文化を尊重する
12	教材などを通して学びを深めるー引き出しを増やしながら
13	保育者自身の体験と感性を育むこと
14	学び合う保育者
15	保育者の専門性
16	定期試験

2024年度シラバス

科目名:OK11S0010　発達心理学	担当者:小川 絢子、森山 雅子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
「人間は一生かけて発達していく」という生涯発達の視点に立ち、人生の基礎を築く乳幼児期を中心に、保育との関連で子どもの心理発達の特徴としくみについて学びます。乳幼児の映像や事例による学習を随時取り入れて、実践的な学びを深められるようにしていく。

授業の到達目標
１．子どもの発達に関する基礎的な知識を確実に身につけている（DP）。２．さまざまな機能領域での発達を理解し、それを統合して「一人の人間」として「人や物とかかわりながら発達していく子ども」の姿を具体的に思い描く（DP）ことができる。３．生涯発達の視点から保育の重要性を理解し、子どもの発達と保育の関係について考える（DP）ことができる。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
Moodleを通して、準備学習、事後学習の課題を課します。
準備学修を通して、各回に自分なりの視点をもち授業に臨むことができ、理解が深まりますので、授業の前日までに実施しましょう。
事後学修では、各回の授業を学んだうえで、保育と照らし合わせて考えるような課題を課します。授業を振り返りまとめ自分なりに調べることで、さらに学びを深めていくことを期待します。

評価方法
確認テスト（55%）、レポート・課題提出（45%）から、総合的に評価します。
レポート等課題のフィードバックについては、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案等の紹介する。

教科書	参考図書
「ベーシック八達心理学」開一夫・斎藤慈子（編）　東京大学出版 開一夫・齋藤慈子（2018）ベーシック発達心理学　東京大学出版会	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）フレーベル館

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
レポートについては次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や、学生の代表的なコメントなどを紹介します。オフィスアワーや連絡先は授業で開示します。

01	オリエンテーション/発達心理学とは/遺伝と環境
02	生涯発達の視点
03	胎児期・周産期
04	感覚・運動の発達
05	愛着の発達
06	自己と感情の発達
07	認知の発達
08	言語の発達
09	社会性・道徳性の発達
10	遊び・仲間関係
11	学童期～青年期
12	成人期～老年期
13	障害と支援
14	心と行動の問題および児童虐待
15	まとめと確認テスト
16	

2024年度シラバス

科目名:OK11S0016　保育内容総論	担当者:吉田 真弓、伊藤 茂美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】公立幼稚園勤務（40年：内11年園長）の経験を踏まえ、保育全般について具体的な実践例をまじえながら学んでいけるようにする。
　３法を知り、幼児教育・保育の基本を学び、各年齢及び一人一人に応じた保育内容・指導計画、園と家庭や地域との連携、地域における子育て支援などについて理解する。また、保育内容の変遷、諸外国の保育内容についても学ぶ。さらに、少子化の進行、子どもの生活や遊びの変容による保育のニーズの高まりや今日的課題を考えた保育のあり方について、仲間と話し合い、発表・報告する。

授業の到達目標
○到達目標１　　幼児教育・保育の基本を習得し、各年齢の発達・保育内容・保育の計画について理解する。【DP】
○到達目標２　　一人一人の子どもの理解・遊び・環境・保育者の関わりについて、子どもの姿をイメージしながら考える。【DP】
○到達目標３　　自分の考えを表したり他者の考えを聞いたりして、自ら学び仲間と一緒に学び合う。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・授業計画を確認して授業に参加する。授業内容に関する項目を教科書を見て予習をする。
・授業内容を復習する。

評価方法
授業への参加・学習態度・学びの振り返り３０％、課題の提出３０％、筆記試験４０％にて評価する。
課題については、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案を紹介する。

教科書	参考図書
津金美智子・新井美保子編　新時代の保育双書『子どもの主体性を育む保育内容総論』　（株）みらい	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・免許・資格を取る学生は、休まず履修する。
・ボランティア活動等への積極的参加をし、子どもとのかかわりをもつ。
・周りの環境（人・物・事・自然など）に関心をもち感性を磨くことに努める。
伊藤のアドレス　s-itou@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション・授業の進め方・子育てを巡る動向と課題＜グループディスカッション＞
02	子どもを取り巻く社会環境の変化と保育内容（社会環境の変化・保育内容の基準）
03	幼児教育・保育の基本（環境を通して行う保育、育みたい資質・能力、１０の姿の理解等）
04	遊びと保育内容（保育内容５領域の総合性）＜グループディスカッション＞
05	子ども理解①（乳児保育に関わる保育内容）
06	子ども理解②（１歳以上３歳未満児の保育内容）
07	子ども理解③（３歳以上児の保育内容）
08	子ども理解④（3歳以上児の保育内容）
09	子ども理解⑤（3歳以上児の保育内容）
10	家庭・地域との連携、健康及び安全、子育て支援
11	保育の計画①（教育課程・全体的な計画とカリキュラムマネジメント）
12	保育の計画②（指導計画と保育の展開、保育の記録と評価）
13	保育の計画③（記録の実際）
14	我が国における保育内容の変遷（戦前・戦後、現代の課題）
15	諸外国の保育内容＜演習＞世界の幼児教育・保育内容の調査発表　　★授業全体まとめ
16	筆記試験

2024年度シラバス

科目名:OK12S0103　保育内容指導法（環境）	担当者:ダーリンプル 規子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
本科目では、“保育は環境を通して行われる”と言われる、保育にとって重要な領域“環境”のねらい及び内容を学ぶ。特に、多文化共生社会にいきる子どもたちに必要な環境について、どの様な視点が必要かを、事例等から学ぶ。また、実際に環境構成案を作成し、グループで発表・討論することで、領域”環境”についての実際について学ぶ。【AL】

授業の到達目標
DP１と４に関連し、下記を到達目標とする。
１．一人ひとりが生き生きと生活をする環境を考えるためには、異文化理解の視点が必要であることを理解する。
２．環境の視点から、乳幼児の生活や遊びについて、保育者が留意、配慮すべき事項を理解する。
３．乳幼児の発達過程に即し、子ども主体の保育場面を想定し、環境構成等できるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業時までに、関連する教科書の箇所・資料を熟読する。時に、事前課題を出すこともある。（２～３時間）また、事後学修として、課題レポートを完成させておくこと（１時間）。

評価方法
ルーブリックの視点から、定期試験（50%）、課題（40%）、授業への参加態度(10%)で総合的に評価する。課題のフィードバックは、個々にコメントを書くとともに、必要に応じて全体へも伝える。

教科書	参考図書
適宜、資料を配布する。	「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「幼稚園教育要領解説」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問等ある場合は、授業前後・オフィスアワーを使うか、私の部屋まで来てください。

01	オリエンテーション、幼児教育の基本・子ども主体の保育は、環境を通した保育から
02	一センスオブワンダー・森のダンゴムシ・里山保育人ひとりを大切にする保育－乳幼児の育ちと領域「環境」
03	自然と関わるということ（実践）①
04	自然と関わることから見えてくること（振り返り）
05	自然と関わるということ（実践）②
06	自然と関わるということを保育者の目線で考える
07	ものや道具に関わって遊ぶ
08	文字や標識、数量や図形、遊びや生活の情報に興味を持つ・地域に親しむ
09	乳児、１～２歳児の世界と環境・幼児期の思考力の芽生え
10	多文化共生社会にいきる子どもたちに必要な環境
11	主体性を大切にした指導案とは①
12	主体性を大切にした指導案とは②
13	自然とのかかわりを支える保育の指導案の作成（グループディスカッション）
14	グループごとの発表
15	草木染の保育を展開する指導案の作成
16	定期試験

科目名:OK12S0104　保育内容指導法（言葉）	担当者:吉見 昌弘	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本授業では、豊かな学びの共同体として、自主的、主体的に学び活動する力を養うために、保育内容指導法の言葉に関する専門的知識と技能を修得します。具体的には「言葉と児童文化財について、さらに言葉の発達を促すための教材として絵本等をどう活用すべきか学んでいきます。授業の方法は、授業の最初に絵本の読み聞かせを３名ほどが実演し、その後、教科書を読みビデオ視聴をした上で課題を解答します。座席は指定し、適宜、グループ・ワーク等のアクティブ・ラーニングの技法を用いて読み聞かせや絵本の制作を実施します。授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングを活用します。【AL】

授業の到達目標
１　言葉と児童文化財について発達を促す援助と計画を理解できる
２　幼稚園教育要領、保育所保育指針では領域「言葉」をどのように捉えているか理解できる
３　言葉の発達を促す保育者の働きかけや援助について、絵本等を通して理解し、実践できる（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　準備学修として事前に次に学ぶ資料のページ及び参考資料を読むこと。加えて授業開始時に絵本の読み聞かせを実施するため事前に読み聞かせの練習を繰り返して下さい（授業毎に2時間程度）。事後学修としては、図書館などで絵本のあらすじや内容をまとめてたり、絵本の制作においては、各授業の進度に合わせて制作活動を自主的に進め下さい（授業毎に2時間程度）。

評価方法
　受講態度や毎回の授業の課題等の提出物に加えて、予習復習の学修状況を40%、絵本の制作を20%、最後の確認テスト40%を目安として総合的に評価します。なお、授業回数の３分の２以上の出席者のみ評価対象とします。授業時の課題等のフィードバックは、Ohka moodle等により伝達します。

教科書	参考図書
初回授業時に資料を提供します。	幼稚園教育要領解説（フレーベル館）、保育所保育指針解説（フレーベル館）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　連絡、質問等があれば、授業毎に回収する課題（ミニレポート）に記入するかオフィスアワー（水曜昼休み）の時に来訪して下さい。連絡はteamsからお願いします。なお本授業では、指示しない限りスマホ、携帯電話の使用及び飲食を禁止します。

01	言葉の発達を促す保育教材
02	ペープサートとパネルシアター
03	ペープサートの制作と実演
04	子どもの言葉の発達（誕生から1歳頃）
05	子どもの言葉の発達（1歳から2歳頃）
06	子どもの言葉の発達（2歳から6歳頃）
07	カルタの意義と制作
08	カルタの実演
09	保育内容の領域「言葉」
10	言葉と絵本（絵本の構造）
11	言葉と絵本（絵コンテ作り）
12	言葉と絵本（絵本下書き）
13	言葉と絵本（絵本制作）
14	言葉と絵本（実演
15	まとめと確認テスト
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK11S0003　幼児と環境	担当者:ダーリンプル 規子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
本科目では、保育においてその命と成長を保障すべき、乳幼児という存在にとって環境とは何かについて学ぶ。その重要な位置付けを具体的な環境と関わる子どもの姿から学ぶ。さらに、保育所保育指針や認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領に結び付けていく。実践・映像を取り入れる。コミュニケーションシートを使っての質疑応答を行う。【AL】

授業の到達目標
DP１に関連し、下記を到達目標とする。
１．乳幼児が多種多様な環境との関係の中で育まれていることを理解する。
２．乳幼児の育ちには、その環境との五感を通した関わりが大切であることを理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業時までに、関連する資料等を熟読するとともに、課題に取り組む（２～３時間）。事後学修では、課題レポートを完成させる（１時間）。

評価方法
ルーブリックの視点から、最終レポート（50%）、課題（40%）、授業への参加態度（10%）で総合的に評価する。課題のフィードバックは、個々にコメントを書くとともに、必要に応じで全体へも伝える。

教科書	参考図書
「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「幼稚園教育要領解説」	適宜、資料を配布する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	オリエンテーション、春見つけ、草木染用の種植え
02	乳幼児期に育む大切なこと：五感を通した体験と意欲・好奇心
03	いろいろな実践に学ぶ（自然との関わり）：モリノスと関市の公立保育園
04	いろいろな実践に学ぶ：森のようちえん・プレーパーク
05	いろいろな実践に学ぶ：レッジョ・エミリア・園の環境を整える
06	自然とのかかわりから体験すること：植物採取（植物を植える・世話をする）
07	草木染め
08	保育所保育指針・幼稚園教育要領・保育要領をひもとこう、課題テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OK11S0004　幼児と言葉	担当者:吉見 昌弘、杉山 実加	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　本授業では、豊かな学びの共同体として、自主的、主体的に学び活動する力を養うために、次の学修内容を習得していく。幼児の言葉の発達について、発達段階を追いながら具体的な事例を踏まえて理解を深める。幼稚園教育要領における領域「言葉」のねらい及び内容について理解を深める。言葉の発達を促す絵本や紙芝居などの児童文化財等の種類と使い方について理解していく。授業の方法は、授業中に適宜課題を提示した上で、アクティブ・ラーニングで意見交換や発表をする。なお、座席は指定し、授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングも活用する。【AL】

授業の到達目標
1　幼児の発達特性を踏まえ、幼児の言葉の発達を理解できる。
2　幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解し、援助ができる。（DP）
3　言葉の発達を促す絵本や紙芝居などの児童文化を理解し適切に利用することができる。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として事前に次に学ぶ内容（参考資料等を含む）をよく調べて下さい（授業毎に2時間程度）。事後学修として授業で学んだ事柄に関連する新聞記事や著書などを主体的に調べて授業での学びをさらに深めて下さい（授業毎に２時間程度）。

評価方法
受講態度や毎回の授業の課題等の提出に加えて、予習復習の学修状況を40%、授業の初回に指定した課題を20%、最後のまとめにおける確認テスト40%として総合的に評価する。なお、授業回数の３分の２以上の出席者のみ評価対象とします。授業時の課題等のフィードバックは、Ohka moodle等により伝達します。

教科書	参考図書
授業初回時に資料を提供します。	幼稚園教育要領解説（フレーベル館）、保育所保育指針解説（フレーベル館）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡、質問等があれば、授業後もしくは、オフィスアワー（授業のある日のお昼休み）の時に来訪して下さい。また、連絡等はteamsからも可能です。なお本授業では、指示しない限りスマホ、携帯電話の使用及び飲食を禁止します。

01	授業全体の流れの説明及び幼稚園教育要領について
02	言葉とは何か
03	言葉の働き
04	言葉と児童文化
05	絵本の選び方
06	紙芝居とは
07	紙芝居の演じ方と制作
08	まとめと確認テスト
09	なし
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:0K11S0006　幼児音楽Ａ	担当者:石山 英明、古賀 弘之	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どものための音楽活動に関する基礎技術として、ピアノ・幼児歌曲の弾き歌いの技能、及び音楽理論の基礎（楽典）を学ぶ。それにより、より望ましい保育のあり方について考察し身につける（DP)。また、子どもの発達と音楽を中心とする表現活動を理解し保育・幼児教育を展開できるようになる。また、どうしたら学生自らの力で音楽・音楽表現及び指導力を高めていけるかの道筋を示し、様々な角度から音楽について学ぶ。授業は、クラスをグループに分け、個人レッスンとグループワークを行う。

授業の到達目標
幼児の表現及び音楽活動の援助を円滑に行うために、課題の習得による音楽的なピアノ演奏及び幼児歌曲の弾き歌いが出来るようにする。ピアノ演奏の初心者は、バイエル60番程度と、同程度までの楽曲、既修者は更に上のレベルを目指す。楽典とソルフェージュ、幼児歌曲の弾き歌いなども同時に学び、楽典の範囲は音階の理解までとする。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎日、楽器に触れ、練習する習慣を身に付けましょう。また、日常の中から、音や音楽・表現に関する場面に関心を持つようにしましょう。

評価方法
ピアノ実技(50%)、実技担当教員の評価による平常点(20%)、楽典(30%)で評価する。平常点は、実技担当教員が、学習意欲、目標到達度、積極性を評価するものである。ピアノ実技は、発表会において教員が個々の演奏を評価する。課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。

教科書	参考図書
標準バイエル教則本（全音楽譜出版社）、歌のカレンダー（エー・ティー・エヌ）、ピアノ実技と楽典（音楽之友社）	楽譜のほか、音源なども参考にしましょう。幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説書。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
音楽に興味を持ち、楽しみながら練習することが上達の近道だと思います。
連絡はisiyama@ohkagakuenn-u.ac.jpまで。

01	クラス分け／レッスン1
02	レッスン 2／楽譜の意味、音名と階名、音符ドリル、ソルフェージュ
03	レッスン 3／音の幅、弾き歌い、音符の長さ
04	レッスン 4／リズムと拍子、音符ドリル、ソルフェージュ、小テスト
05	レッスン 5／音符ドリル、弾き歌い
06	レッスン 6／調号、さまざまな記号、弾き歌い
07	実技試験／楽語、楽典の復習、ソルフェージュ
08	実技試験の振り返り／楽典試験
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OK12S0007　幼児音楽Ｂ	担当者:石山 英明、古賀 弘之	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どものための音楽活動に関する技術として、ピアノ・幼児歌曲の弾き歌いの技能、及び音楽理論の基礎（楽典）を学ぶ。それにより、より望ましい保育のあり方について考察し身につける（DP)。また、子どもの発達と音楽を中心とする表現活動を理解し保育・幼児教育を展開できるようになる。そして、どうしたら学生自らの力で音楽・音楽表現及び指導力を高めていけるかの道筋を示し、様々な角度から音楽について学ぶ。授業は、クラスをグループに分け、個人レッスンとグループワークを行う。

授業の到達目標
幼児の表現及び音楽活動の援助を円滑に行うために、課題の習得による音楽的なピアノ演奏及び幼児歌曲の弾き歌いが出来るようにする。ピアノ演奏の初心者は、バイエル88番程度と、同程度までの楽曲、既修者は更に上のレベルを目指す。楽典とソルフェージュ、幼児歌曲の弾き歌いなども同時に学び、音階と音程の理解までとする。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎日、楽器に触れ、練習する習慣を身に付けましょう。また、日常の中から、音や音楽・表現に関する場面に関心を持つようにしましょう。

評価方法
ピアノ実技(50%)、実技担当教員の評価による平常点(20%)、楽典(30%)で評価する。平常点は、実技担当教員が、学習意欲、目標到達度、積極性を評価するものである。ピアノ実技は、発表会において複数の教員が個々の演奏を評価する。課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。

教科書	参考図書
標準バイエル教則本（全音楽譜出版社）、歌のカレンダー（エー・ティー・エヌ）、ピアノ実技と楽典（音楽之友社）	楽譜のほか、音源なども参考にしましょう。幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説書。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
音楽に興味を持ち、楽しみながら練習することが上達の近道だと思います。
連絡はisiyama@ohkagakuenn-u.ac.jpまで。

01	ガイダンス／レッスン1（レベルチェックと各自の課題提示）
02	レッスン 2／音程の種類、音程の判定方法、ソルフェージュ
03	レッスン 3／長短系音程、完全系音程、派生音を含む音程、音程ドリル
04	レッスン 4／音程のまとめ、弾き歌い、確認テスト 弾き歌い
05	レッスン 5／音階と調号、身体表現と音楽（導入）
06	レッスン６／写譜、身体表現と音楽（応用） レッスン 6／音程（派生音）、ソルフェージュ
07	実技試験／楽典（後期）の復習
08	実技試験の振り返り／楽典試験
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:0K11S0008　幼児造形Ａ	担当者:田端 智美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校非常勤講師
この授業科目では、元小学校非常勤講師（図画工作専科）の経験を踏まえ、幼稚園・保育園・小学校の連携を含めた指導・支援方法について具体的な検討を行う。また発達の過程を含めた支援計画・指導計画の活動について体験的に学ぶことができるようにする。

保育者（保育教諭を含む）を目指す学生が、幼児の造形表現を見通し、支援・指導を行う際に必要な知識及び技能、表現力について、教材研究を通して身に付けることを目的とする。授業の方法としてICTの活用や協同的学修を行う。

授業の到達目標
造形的な保育実践に必要な表現力と知識を身につける（DP）
（1）保育実践に必要な表現力を身につける
保育実践に必要な造形の発想・構想の力・保育実践に必要な造形材料などの特徴を生かして表現する技術力・保育実践に必要な造形表現活動の過程から読み取る力・保育実践に必要な造形表現の方法について伝える力
（2）保育実践に関する知識についての理解
造形的な表現活動の意義と幼児の発達特徴・身近な造形材料（自然材・人工材等）の特徴・保育実践に必要な造形の用具の基本的・基礎的な扱いと安全性・保育実践に必要な造形活動の環境構成を理解する

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎多様な支援を行うのに必要な力・多様性を受け入れる能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業内で詳細を提示
準備学修：自ら素材集めをして授業に備えてください。
事後学修：演習した内容についてまとめを記入してください。
その他提出課題（ポートフォリオ・ポップアップカード等）があります。

評価方法
学修内容の学びや気づきを活動の記録として授業題材毎のポートフォリオとしてまとめたものを学びの過程として評価（40％）その他、造形指導に関する基本的・基礎的な知識・技能を評価とする（40％）。振り返り等（20%)フィードバックについて授業シートを記入

教科書	参考図書
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領幼稚園教育要領、	3.4.5歳児の造形活動おまかせガイド（明治図書）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育者となったときのことのことを考え、日頃から手作りを楽しんでください。
連絡手段：tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01	幼児の発達の特徴と表現活動の意義について（描画について）
02	平面演習１（ドリッピング・バチックなど）
03	平面演習２（マーブリング・染紙など）
04	平面演習３（スタンピングなど）
05	平面演習４　（紙版画）
06	ポップアップカードの制作１(とび出す仕組みについて)
07	ポップアップカードの制作２・提出
08	活動を振り返って（ICTを使った活動評価とまとめ）（AL）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OK12S0008　幼児造形B	担当者:田端 智美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校非常勤講師
この授業科目では、元小学校非常勤講師（図画工作専科）の経験を踏まえ、幼稚園・保育園・小学校の連携を含めた指導・支援方法について具体的な検討を行う。また発達の過程を含めた支援計画・指導計画の活動について体験的に学ぶことができるようにする。
保育者（保育教諭を含む）を目指す学生が、幼児の造形表現と小学校低学年の図画工作等の学習活動を見通し、支援・指導を行う際に必要な知識及び技能、表現力について、教材研究を通して応用的に身に付けることを目的とする。授業の方法としてICTの活用や協同的学修を行う。

授業の到達目標
造形的な保育実践に必要な表現力と知識を応用的に身につける。（DP）
（1）保育実践に必要な応用的な表現力
保育実践に必要な造形の発想・構想の力を身に付ける・保育実践に必要な造形材料などの特徴を生かして表現する技術力を身に付ける・保育実践に必要な造形表現活動の過程から読み取る力を身に付ける・保育実践に必要な発展的な造形表現の方法について伝える力を身に付ける
（2）保育実践に関する知識
造形的な表現活動の意義と幼児の発達特徴について理解・身近な造形材料（自然材・人工材等）の特徴について理解・保育実践に必要な造形の用具の応用的な扱いと安全性・保育実践に必要な造形活動の環境構成について理解
【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎多様な支援を行うのに必要な力・多様性を受け入れる能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業内で詳細を提示
準備学修：自ら素材集めをして授業に備えてください。
事後学修：演習した内容についてまとめを記入してください。
その他提出課題（ポートフォリオ等）があります。

評価方法
学修内容の学びや気づきを活動の記録として授業題材毎のポートフォリオとしてまとめたものを学びの過程として評価（40%）その他、造形指導に関する基本的・基礎的な知識・技能を評価とする（40%）。振り返り等（20%)フィードバックについて授業シートを記入

教科書	参考図書
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領幼稚園教育要領、	3.4.5歳児の造形活動おまかせガイド（明治図書）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育者となったときのことのことを考え、日頃から手作りを楽しんでください。
連絡手段：tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01	幼児の発達の特徴と表現活動の意義について（工作について）
02	立体演習１（空き箱を使った工作について）
03	立体演習２（牛乳パックを使った工作について）
04	立体演習３（紙皿・紙コップを使った工作について）
05	立体演習４　（造形あそびについて）
06	製作活動を通した模擬保育１(素材を組み合わせた表現について)
07	製作活動を通した模擬保育２(粘土遊びについて)
08	活動を振り返って（ICTを使った活動評価とまとめ）（AL）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:0K11S0009　幼児体育Ａ	担当者:寺田 恭子、木村 達志	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　幼児の身体および運動能力の発育・発達について理解するとともに、幼児体育の意義やねらいを明らかにする。その上で、運動遊びの具体的な内容や指導方法について理解・修得し、保育者として実践力を身につける。本演習を通して、自らも運動遊びを楽しみかつ創造できる力を取得する（AL)。幼児が実施している様々な運動遊びを自ら経験することによって、幼児の発育・発達段階に応じた運動遊びを提供したり、運動動作の習得に対する適切な援助・指導ができるように実践的に学んで行く。そのためグループ学習やプレゼンテーションを取り入れる。（A L)

授業の到達目標
①様々な運動遊びを経験し、上達を目指して主体的に取り組む中で、運動の楽しさを知り運動技能の向上を図る。（D P)
②幼児期の運動発達過程を理解する。（D P)
③工夫や協力により、より良い保育教材や保育環境を作ることができるようになる。（D P)
④運動のコツを理解し、適切な援助ができるようになる。（D P）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○保育のあり方について考察する力
◎多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として、シラバスに掲げてある運動遊びついて文献で調べておいて下さい。事後学修として、授業中に取ったメモを整理し、毎回の授業内容を提出用の授業ノートへ清書して下さい。

評価方法
1. 受講態度（50%）　2. B5サイズの大学ノートを用意し、授業内容をまとめ学期末に提出（50%）学生へのフィードバックはリアクションペーパーを使用します。

教科書	参考図書
幼稚園教育要領及び解脱、保育所保育指針及び解脱、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解脱	授業の中で指示をする

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
隔週で開講する予定であり、詳細は初回授業で案内します。高校などで使用していたスポーツウエア、スポーツシューズ、体育館シューズを用意し、それらを着用して授業へ臨んで下さい。毎回の授業ではメモ用紙と筆記具を携行してください。運動禁忌の場合は申し出て下さい。連絡はメールかラインで取ります。

01	幼児体育の理念および授業計画について
02	幼児体操、からだを動かす歌遊び
03	新聞を使った遊び
04	基本の鬼遊びおよび仲間を助ける鬼遊び
05	身体表現運動（様々な模倣からカラダを感じる）
06	遊びの創作と発表
07	水遊び　水に慣れる(親しむ)運動遊び
08	授業のまとめ
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OK12S0010　幼児体育Ｂ	担当者:寺田 恭子、木村 達志	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
体育Aから継続して、乳幼児の身体や運動能力の発育・発達についての理解や課題の把握に努めながら、体育の意義やねらい、内容・方法についての理解と習得をはかって保育者として実践力を高める。各種の運動遊びの教材や展開方法について理解・認識を深めたうえで、体育の教材づくりや指導方法について工夫し、それらを実践的・体験的に追求していくことができるようにする。 特に、各種の運動遊びの教材や展開方法について理解・認識を深めたうえで、「幼児体育」の教材づくりや指導方法について工夫し、それらを実践的・体験的に追求していくことができるようにする。

授業の到達目標
①様々な運動遊びを経験し上達を目指して取り組む中で、運動の楽しさを知り運動技能の向上を図る。 ②幼児期の運動発達過程を理解する。 ③運動のコツを理解し、適切な援助ができるようになる。④工夫や協力により、より良い保育教材や保育環境を作ることができるようになる「（DP）」。

【到達目標と深く関連する学科DP】

○保育のあり方について考察する力
◎多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として、シラバスに掲げてある運動遊びついて文献で調べておいて下さい。事後学修として、授業中に取ったメモを整理し、毎回の授業内容を提出用の授業ノートへ清書して下さい。伝承遊びである竹馬、けん玉、フラフープ、お手玉、ひも独楽などの見本を子どもの前で見せることが出来るようになって下さい。

評価方法
1．受講態度（30%）　2．B5サイズの大学ノートを用意し、授業内容をまとめ学期末に提出（50%）　3．基礎的技能の習得状況（20%）学生へのフィードバックは授業最後のリアクションペーパーを使用する。

教科書	参考図書
幼稚園教育要領及び解脱、保育所保育指針及び解脱、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解脱	授業の中で指示をする

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
隔週で開講する予定であり、詳細は初回授業で案内します。高校などで使用していたスポーツウエア、スポーツシューズ、体育館シューズを用意し、それらを着用して授業へ臨んで下さい。毎回の授業ではメモ用紙と筆記具を携行してください。運動禁忌の場合は、申し出て下さい。連絡はメールかラインで取れるようにします。

01	サーキット遊び　平均台、巧技台、跳び箱、マットなどの使い方を学ぶ
02	サーキット遊び　運動遊具を組み合わせた遊び方を考える
03	椅子を使った遊び・パラシュートを使った遊び
04	運動会競技種目の工夫
05	縄を使った運動遊び
06	ボール遊び
07	鉄棒、マット、跳び箱の実践と支援方法
08	様々な伝承遊び　竹馬、けん玉、フラフープ、ひも独楽
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OK11S1001　多文化共生研究	担当者:髙橋　一郎	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
世の中、社会は様々な人々、文化、慣習、伝統などで成り立っています。そしてそうしたそれぞれの文化を背負った者が一緒になるとき、そこには文化摩擦、時には争いも生じます。受け入れられないことは争ってでも阻止するのか、あるいは共に生きていくため妥協・合意して折り合いをつけていくのかーーー私たちはそういった場面で決断を求められることもあります。国際教養こども学科1年前期の科目として、幅広い視野と社会に対する多角的な視点を国際・国内両方の事象から考えます。

授業の到達目標
この授業は【覚える】【暗記する】より【考える】授業です。それはこれからどう生きていくか、一人の人間として人生計画を組み立てて進んでいくか、などを多文化共生の観点から考えます。留学を控える学科として、海外で学びに行く意義付けと習得すべき者は何かを考えます。【DP】なお、下記授業計画の順番が替わる場合があります。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
社会に対する観察力を付ける人間に対するコミュニケーション力を付ける事象に対する分析力を付ける

評価方法
授業内の発言・発信30%　授業内レポート30%　期末考査40%　課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。

教科書	参考図書
幼稚園教育要領　幼保連携型認定こども園教育・保育要領幼稚園教育要領　(詳しくは授業第1回目に話します)	図書館の教員指定図書(高橋)に目を通す。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー　月曜ランチタイム

01	ウサギとカメ
02	ステレオタイプ「A子はうざいよ」
03	わっしょい、わっしょい
04	黒い未亡人
05	猿回しとイルカショー
06	過去・現在・未来
07	トーキー
08	太陽は味方か敵か？月は？
09	クイズと発表
10	命
11	遊ばない保育!?
12	日本
13	天災は忘れた頃やってくる
14	国際結婚
15	ケーススタディー
16	定期試験

科目名:OK11S1003　地域研究Ⅱ	担当者:太田 昌孝	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この科目は大学のディプロマポリシーに謳う「幅広い知識」と「豊かな人間性」に直結する科目として位置づけられています。広く世界に目を向けるグローバル人材になることを目標として、日本の文化や歴史等に関する基本的な事柄を簡潔かつ丁寧に説明する練習を積みます。その際グループ学習やグループ発表などアクティブ・ラーニングを行います。

授業の到達目標
（１）「日本の文化や社会、歴史、文学等に関する基本的な事柄」に広く興味を持って研究し、自分の考えをまとめられる。(DP)
（２）上記でまとめた自分の考えを、正しい日本語で人が分かるように、明快かつ具体的に説明できるようになる。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業で習ったことをヒントとして、授業外では日本の文化や歴史についてさらに研究を深めます。また、それを日本語で簡潔にまとめます。さらにまとめたものを発表する練習をします。２単位の科目なので１回の授業に対して必ず予習、復習をして下さい。✡京都へのフィールドワークを予定しています。

評価方法
プレゼンテーション30%、レポート70%。プレゼンテーション、レポート共に講義内容の反映度、及び正しい日本語表現が用いられているかを基準とする。レポートに関しては評価を付けて返却する。

教科書	参考図書
自作テキスト配布予定	『古事記物語』（鈴木三重吉）『遠野物語』（柳田国男）『シュールレアリスム宣言』（アンドレ・ブルトン）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先は授業で開示します。質問はオフィスアワーを活用して下さい。

01	オリエンテーション・地域研究から日本文化理解へ。（講義の基本方針について学びます）
02	古代史を訪ねて①（邪馬台国に関する資料をもとに、大和政権成立までの経緯をたどります）
03	古代史を訪ねて②（『古事記』の「国作り神話」をもとに、古代王朝の背景を学びます）
04	古代史を訪ねて③（犬山市の「東之宮古墳」の資料をもとに、古墳時代について学びます）
05	天皇制と日本（天皇制の歴史を辿り、日本における天皇制の意味について学びます）
06	京都探訪①（平安遷都に関する資料をもとに、平安京の成立について学びます）
07	京都探訪②（「百人一首」をテキストに、藤原定家と冷泉家について学びます）
08	京都探訪③（京都御所に関する資料をもとに、平安京の特徴について学びます）
09	京都探訪④（現代の京都に残る、平安京の遺構を紹介しながら京都の魅力について学びます）
10	日本人はどこから来たのか①（柳田国男『海上の道』をもとに日本人のルーツについて学びます）
11	日本人はどこから来たのか②（沖縄をキーワードにして日本人の精神基層について学びます）
12	近代化と日本（柳田国男『遠野物語』をもとに日本の伝説の背景について学びます）
13	日本のヨーロッパ受容①（日本における洋画の変遷を辿り、ヨーロッパ受容について学びます）
14	日本のヨーロッパ受容②（日本におけるシュールレアリスム受容について学びます）
15	総まとめ
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK11S1103 Basic Communication in English Ⅰ	担当者:Indu Juneja、Joseph Sichi	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course will help students improve their overall ability to use spoken English. Classes will include a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English communicators. Students will also develop their vocabulary and learn useful phrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics.

授業の到達目標
By the end of the course, students will have expanded their ability to talk about everyday topics and have the confidence to conduct successful ten-minute conversation in English with a helpful native speaker.【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養◎グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students can expect to spend from 45-60 minutes outside of class for homework and class preparation before each class. More time will be expected when preparing for assessment tasks.

評価方法
Class participation: 15%　Homework and class preparation: 15%
Assessment #1: 20%　Assessment #2: 20%　Final assessment: 30%
Students will be able get direct feedback at the end of the course.

教科書	参考図書
Miles Craven (2018) Breakthrough Plus 2nd Edition 2, Macmillan	Other course materials will be provided by the teacher

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Please come to class and try to speak English as much as possible. Do not be worried about mistakes, that is how we learn! Please spend time reviewing what you learn in class. Instructor’s contact information will be announced in the first class.

01	Course Introduction: Getting to know each other
02	Unit 1 - Lifestyles part 1: Listening & Speaking
03	Unit 1 - Lifestyles part 2: Skills Expansion
04	Unit 2 - Leisure part 1: Listening & Speaking
05	Unit 2 - Leisure part 2: Skills Expansion
06	Unit 3 - Getting Along part 1: Listening & Speaking
07	Unit 3 - Getting Along part 2: Skills Expansion
08	Unit 4 - Interests part 1: Listening & Speaking
09	Unit 4 - Interests part 2: Skills Expansion
10	Unit 5 - Telling a Story part 1: Listening & Speaking
11	Unit 5 - Telling a Story part 2: Skills Expansion
12	Unit 6 - Celebrations part 1: Listening & Speaking
13	Unit 6 - Celebrations part 2: Skills Expansion
14	Course Revision
15	Final Assessment
16	No test

2024年度シラバス

科目名:OK12S1104 Basic Communication in English Ⅱ	担当者:Indu Juneja、Joseph Sichi	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course will help students improve their overall ability to use spoken English. Classes will include a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English communicators. Students will also develop their vocabulary and learn useful phrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics.

授業の到達目標
By the end of the course, students will have expanded their ability to talk about everyday topics and have the confidence to conduct successful ten-minute conversation in English with a helpful native speaker.【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養◎グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students can expect to spend from 45-60 minutes outside of class for homework and class preparation before each class. More time will be expected when preparing for assessment tasks.

評価方法
Class participation: 15%　Homework and class preparation: 15%
Assessment #1: 20%　Assessment #2: 20%　Final assessment: 30%
Students will be able get direct feedback at the end of the course.

教科書	参考図書
Miles Craven (2018) Breakthrough Plus 2nd Edition 2, Macmillan	Other course materials will be provided by the teacher

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Please come to class and try to speak English as much as possible. Do not be worried about mistakes, that is how we learn! Please spend time reviewing what you learn in class. Instructor’s contact information will be announced in the first class.

01	Course Introduction: Getting to know each other
02	Unit 7 - Food & Drink part 1: Listening & Speaking
03	Unit 7 - Food & Drink part 2: Skills Expansion
04	Unit 8 - Rules part 1: Listening & Speaking
05	Unit 8 - Rules part 2: Skills Expansion
06	Unit 9 - Adventures part 1: Listening & Speaking
07	Unit 9 - Adventures part 2: Skills Expansion
08	Unit 10 - Health part 1: Listening & Speaking
09	Unit 10 - Health part 2: Skills Expansion
10	Unit 11 - Comparisons part 1: Listening & Speaking
11	Unit 11 - Comparisons part 2: Skills Expansion
12	Unit 12 - The Modern World part 1: Listening & Speaking
13	Unit 12 - The Modern World part 2: Skills Expansion
14	Course Revision
15	Final Assessment
16	No test

2024年度シラバス

科目名:OK12S2001　教育実習入門	担当者:森山 雅子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	実習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
幼稚園の教育の実際を体験する。
ニュージーランドにおける海外保育実習を経て、ラーニング・ストーリーに基づいた記録を作成する。

授業の到達目標
①子どもの興味・関心・情熱の姿を捉えることができる（DP）。
②ラーニング・ストーリーを基礎とした実習記録を用い、子どもの姿を捉え書くことができる（DP）。
③観察・参加実習を通して幼稚園の教育の実際、保育者の役割・職務内容についてについて理解をする。
【到達目標と深く関連する学科DP】　○保育のあり方について考察する力 ◎課題を見出し解決する力と論理的思考力 ○多様な支援を行うのに必要な力・多様性を受け入れる能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
海外保育実習における記録も授業の重要な教材となるため、海外での実習もしっかりと取り組むこと。
実習のための体調管理を十分に行うこと。

評価方法
実習園からの評価60%、実習日誌20%　実習事後レポート10%、その他(実習への意欲・実習状況・実習巡回指導報告書など)10%を総合して評価する。フィードバックについて授業シートを記入

教科書	参考図書
大橋節子・中原朋生・内田伸子・上田敏丈【監訳・編著】神代典子【訳】(2021)　「テ・ファーリキ―子どもが輝く保育・教育のひみつを探る―」　建帛社 教育実習入門手引き	幼稚園教育要領解説（最新版）フレーベル館、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）フレーベル館

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本実習を行うにあたり、原則、当該年度の「教育実習入門指導」を履修することが条件となる。　(未履修者は本実習に参加することはできない)　遅刻・早退・欠席等については、必ず申し出ること。　連絡手段　事務局実習担当

01	1週間の教育実習入門実習を対象に、その事前、事後における指導を通して実習における学習課題の効果的な達成と、部分的とはいえ社会公共的な活動への参加にあたっての留意事項等の確認等を課題とする。 １．現在の幼児教育を知る ２．実習について知る ３．NZの実習の記録の取り方 ４．NZの実習の記録を振り返る ５．ラーニング・ストーリーについて知る ６．ラーニング・ストーリーを書いてみる/実習準備 ７．直前指導 ８．ラーニング・ストーリーを用いて実習を振り返る ９．来年の実習目標の設定
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OK11S2201　海外保育フィールド・スタディ	担当者:髙橋 一郎、田端 智美、森山 雅子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
海外の保育現場に実際に入り実習を行う。日本との違い、共通点など、様々な視点で異国における保育現場を観察する。ニュージーランド・ハミルトン市街の保育園を中心に実習を行う。

授業の到達目標
業の到達目標
①日本の保育と外見上の違いのみならず、保育に対するコンセプトの違いも学ぶ。何がどう違うのか。どのような考えに基づいて保育が行われているのか、などを自分なりに発見する。【DP】②可能な範囲で英語でコミュニケーションを取るようにする。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
◎保育のあり方について考察する力
○課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
○グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業内にて指示

評価方法
事前指導クラスの評価10%　②現地実習の評価80%　③事後研修10%　それぞれの出席及び活動を総合的に評価します。
課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。

教科書	参考図書
ニュージーランド乳幼児教育カリキュラムテ・ファーリキ（完全翻訳・解説）建白社	保育の場で子どもの学びをアセスメントする―「学びの物語」アプローチの理論と実践』マーガレット・カー　2013

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段　tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01	事前指導 授業で渡航地の文化、実状などを学ぶなどの事前学習を行う ②現地実習 現地で保育園に入り実習を行う。最後には子どもの前でプレゼンテーションをする ③現地文化 全員ホームステイで生活をする。保育のみでなくその国の文化を経験する ④現地学習 現地の高等教育機関(大学) を訪ね、講義を受ける ⑤現地視察 先住民（マオリ）専用の園など訪問し見聞を広げる ⑥事後研修 2週間の滞在を終えての反省会
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OK12S2202　海外幼児教育インターンシップ	担当者:加藤 あや美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
海外（主にニュージーランド）における保育・幼児教育の分野でのインターンシップを通して、国際的な視野を持った教育者・保育者としての素地を養います。また、現地での研修に参加することにより、実践的な英語を学びつつ、様々な人や文化と接触し、異文化理解を深める機会とします。授業は、事前指導と現地での語学研修・実習、及び事後指導で構成されています。渡航期間は2月下旬から3月中旬までの3週間程度の予定です。【AL】【EN】

授業の到達目標
研修先であるニュージーランドを中心とする海外の保育・幼児教育事情を知る。また、現地での研修により、異文化に直接触れ、異なる他者への理解を深める。（DP）加えて、日常的な英会話を身につけ、英語を使って現地のこどもや実習園のスタッフ、さらにはホストファミリーと簡単なコミュニケーションをすることを目指す。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○幅広い視野と知識と教養
◎保育のあり方について考察する力
○課題を見出し解決する力と論理的思考力
○多様な支援を行うのに必要な力・異文化受容能力
○グローバル時代に対応できる高いコミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
ニュージーランドで研修を行うことを踏まえ、その準備段階に当たる事前授業への出席は必須とします。また、事前授業では、コミュニケーションに特化した英語を学んでいきますが、授業以外においてもListening,・Speakingを中心とした英語の学習を怠らないようにしましょう。

評価方法
授業への参加度　30%　現地実習評価　40%　実習記録作成　30%
現地実習終了後に実習記録返却および授業、現地実習に対するフィードバックを行う。

教科書	参考図書
適宜、プリントを配布します。	授業中に紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
海外への渡航を伴う科目であるため、事前に説明会を開催します。受講を希望する学生は、原則として説明会への参加が必須条件となるため、必ず参加するようにして下さい。（オフィスアワー：木曜昼休み）

01	事前授業では、プログラム内容の詳細な説明や旅行業者による渡航に関わる提出書類等についての説明を丁寧に行っていきます。また、現地でのコミュニケーションに必要な実践的な英会話のトレーニングにも取り組みます。さらに、昨年度参加者によるプレゼンテーションの機会を設け、海外渡航への不安解消に繋げていく予定をしています。 研修実習国はニュージーランドで、滞在先はホームステイを予定しています。また、参加費用は40~50万円後半までの設定となる見込みです（参加人数等により変動します）。1週目は語学及び文化研修を主とし、
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	